

一讀善喻 作文良材

一見博識 談柄源泉

岳南居士題詞

古志學
人錄

古

事

海

上

東京

脩省書院發行

古志學
人錄

歐事海

一讀善喻 作文之良材
一見博識 談柄之源泉

岳南居士題詞

東京

脩省書院發行

東海傳

入新編
吉本天宮
三

一
一
一

故事海自叙

太平洋又は印度洋。支那海又は日本海。海てふ海は多けれど。未だ故事海とは聞かぬ名稱。何處の海のとなるや。……ふくー新に作つたものだと。眞逆貴公て縮地鞭。もちにと壺公に非れば。何とて新に……生意氣なと。戯言を以て其とばなく。口穢く云はせぬかど。思へなやむは此書の世評。もとして自分の作文材料。あるは話の種にせんと。心覺へよ記せよ迄の。無駄書きふれば最と痛く。案じらるれぞイ、儘よと。厚顔しくもひとの請を。つと宜しと直ぐ承知。爰よ上木の運びよ到れり。載る所も天地山川。禽獸蟲魚櫻桃百花。宮室殿堂又人生。婚姻死亡疾病生誕。或は送別或は遇否。父子夫婦兄弟朋友。富者に貧者に酒飲みに。慷慨之士有れば隱士有り。才子に佳人に藝娼妓。妬婦も有れば滑稽者もあり。文學技藝を勿論のて。器具物貨の未までも。總ての故事を集めしなり。是れ故事海と名つけし所以。左らは何故に忠臣孝子。貞婦の事や戰鬪の事。の部門のふきやと云ふに。此れ等

の事は悉く經傳子史に溢れつゝ、幼き人すら聞き知ればなす。又鼈頭に詩のみ載せ。和歌や俳句採取らざりとは。載すとの出来されはなり。「左らは此書は何の用か。云ふ迄もない前にも言ひし。作文の材料。はあゝの種。これと目的に編輯せしなり。其れ故鼈頭には詩と聚め。每章々々の首には。詩歌俳諧や麗語以て。評する處も往々有りて。特に其一章毎に。文や話に引き用ゆるよ。長さにわたれば不便故。成る可く簡短を事とせり。是れ此書凡例の大略。編者に在ては大威張り。一讀博識となり。談柄の良源泉。一見譬喩を善くす。作文の好材料と。手前味噌とは摺鉢木棒。爰に發兌の舉に及べり」左れ共手前味噌の摺鉢木は。鄙諺に云ふ自惚ふれば。あはたも笑窪と見ゆるもの。まゝてや學識天下。でも何でもなき學人が。無駄書きに成りし物なれば。何とて不完全の廉なからまじやと。又何とて粗漏誤謬の過なからまじやと。目元どツちり櫻色。何して斯美といだると。處女が獨り許すと同様。編者の云ふのは一人免許。誰許さぬその類かも知れぬは。大方

の君子。是正を賜はらは幸甚也。此を叙と爲す。

明治辛卯歲第四月念有五日 於東京市酒泉源

第壹坊之寓 北越一陋生古志學人(記錄者)

代 編輯發行者 識

凡例追加

○章首に加へし和歌又は俳諧の下へ和歌なら和歌。俳諧なら俳諧とのき加へしは。故人又は今人の作にて。其しるしてなきは記者の勝手のいたづら書きと知る可し

○釐頭に載せる詩は。假令ば。父子の部の上には。父子の情合へと陳べたるものは皆のせる
と知る可し。必らずしも下の話にヒツマリト合へし詩のみとは限らず

○あまりに奇怪な話ば載せず。又奇怪ならざるも面白からぬものは載せず。つまり話の種
作文の材料とならぬものは一切載せざるなり併し滑稽る場合に用なきにしも非る故往々採
りたるもあり

○又其採る所の詩は。主として實況と寫せしものと採る。蓋し然らざれば作文等に助有らざ
れば也而して其載せる處は總て詩の意に依りて題に拘はらず例へば客中秋夜てふ題にて客
中秋に感じて故郷なる妻子と思ひ出せしと陳べ置けば之と父子の部に加ふ看者諒之

故事海

○全篇目次

上卷

第壹編……………天文地輿門

第貳編……………歲時門

第參編……………人類門

中卷

第四編……………人事門

第五編……………行為門

下卷

第六編……………文學技藝門

第七編……………禽獸蟲魚門

第八編 草木花實門

第九編 器具物貨門

第十編 雜門

故事海 全篇目次畢

故事海上卷目次

第一編 天文地輿門 自第一頁

月星 風雲 雷雨 霜露雪 山水及海 鄉里

雜

第二編 歲時門 自第十三頁

春 夏 秋 冬

第三編 人類門 自第十八頁至百四十二頁

親子 夫婦及族親 兄弟及長幼 交友 氣慨之士
 隱士 剛直勇壯 穎兒敏才頓智 博學強記及
 辨士 窮士富者 美人妒婦 好酒者性急者
 暴虐之人 藝妓媚妓 書生 附 遊學苦學 仕人

雜

○雜ノ部ニハ長壽者、健者、長大之人、大聲之人、多力之人、

短視者、鄙鈍之人、眇者、情容者、無遠慮ノ人、執強之人、野人、
貴公子、聖人、賢人、姦邪、謀反人、有爲之士、謙讓ノ人等諸々
ノ雜件ヲ網羅蒐輯ス。

故事海上卷目次畢

故事海上卷

北越 古志學人 記錄

第一編 天文地輿門

月 星

●十四夜月 范文正公
天意將圓夜。人心待滿
時。已知千里共。猶訝一
分虧。

猿澤池月

佐藤直方

一水光寒千古秋。佳人

顏色至今留。腸回巫峽

三聲淚。移向池頭月亦

悲。

關山月

○ながめずばよしや曇るもよけれども 會稽王道子、庭中ニ夜坐
ス、月色玷無シ、嘆シテ以テ佳ト爲ス、謝重側ニ在テ曰ク、意フコ微
雲點綴スルニ如カズト、道子曰ク、卿乃チ太清ヲ滓穢セント欲ス
ル乎ト、

○月暈 漢ノ高帝ノ七年ニ、月暈、參畢ヲ圍ムヲ七重、是歲高祖自ラ
將トシテ平城ニ到リ、冒頓ノ爲メニ圍マレ、七日ニシテ乃チ解ク、

○月犯星 晋ノ時、月、少微ノ處ト星ヲ犯ス、謝敷死ス、

○五星 漢高祖關ニ入ル、時ニ五星、秦ノ分野、東井ニ聚マル、

李白

明月出天山。蒼茫雲海間。長風幾萬里。吹度玉門關。漢下白登道。胡窺青海灣。由來征戰地。不見有人還。戍客望邊色。思歸多苦顏。高樓當此夜。歎息未應閑。

看月 方以智

一片鐘山月。那從嶺外看。昔嘗臨北闕。今獨照南冠。万里天難問。三更影易寒。夢中兒女路。莫憶舊長安。

秋風 菊池五山

拔山有力若爲雄。吹倒雲峰不伐功。却向人間競織細。金刀一葉剪梧桐。

桐。

同 吳若華

滿耳蕭騷夢不成。殘雲涼月夜淒清。等閑吹落長林葉。雜入千家擣練聲。

風止 范成大

收盡狂瀾卷盡雲。一竿晴日曉光新。柳魂花魄都無恙。依舊商量作好春。

白雲 山田永年

出岫偕仙鶴。無心去復還。青雲朝暮變。孰與白雲間。

雲 未 鷓

千形萬象竟還空。映水藏山片復重。無限旱苗

○客星 后漢ノ光武、嚴子陵ト共ニ寢ヌ、子陵足ヲ光武ノ腹ニ加フ、太史奏シテ曰ク、客星帝坐ヲ犯スト。

○賢人會德星聚 后漢ノ陳寔字ハ仲弓、諸子姪ヲ從ヘテ荀叔字ハ季和ノ家ニ造リテ討論ス、時ニ德星聚マル、太史奏シテ曰ク、五百里ノ内、必ズ賢人有リテ聚マラン矣、

○緯象 花山天皇位ヲ遁レテ元慶寺ニ潛幸ス、路、安倍晴明ガ宅ヲ過ク、晴明適マ庭ニ在リ、忽チ駭然驚テ曰ク。變、々、緯象俄ニ變ズ、天子位ヲ避クル也、附錄

風 雲

○大王風 楚襄王、宋玉ト蘭臺ニ遊ブ、風有リ、颯然トシ而至ル、乃チ襟ヲ披キ當テ曰ク、快ナル哉此風、寡人衆人ト之ヲ共ニスル耶、玉曰ク、此レ獨リ大王ノ雄風ノミ、

○厭西風 晋ノ庾亮、字ハ元規、帝舅ナルヲ以テ、職ヲ外郡ニ奉シ、而シテ内權ヲ握ル、執政王導心不平、西風起ルニ遇ヘ、扇ヲ舉ゲ自ラ蔽フテ曰ク、元規ノ塵人ヲ汚ス、

○秋風破屋 唐杜甫ガ茅屋、秋風ノ爲ニ破ラル、歌ヲ作テ曰ク、捲我屋上三重茅

○渡上遭大風 宋唐介、淮ヲ渡ル、會マ大風、舟將ニ覆ラントス、詩ヲ作テ曰ク、聖宋非狂楚。清淮異汨羅、平生仗忠直。今日任風雨。舟楫傾危甚。魚龍出沒多。

○雲氣 黃帝、蚩尤ト涿鹿ニ戰フ、五色ノ雲氣有リ、金枝玉葉、帝ノ上ヲ覆フ、

○以雲紀官 黃帝ノ時、景雲ノ瑞有リ、帝乃チ雲ヲ以テ官ヲ紀シ、雲師ト曰フ、

○黃雲 堯ノ母慶都、生レテ而ノ神異、黃雲有リ、常ニ其上ヲ覆フ舞

枯欲盡。悠々閑處作奇峰。

孤雲 張 喬

舒卷因風任所之。碧天孤影勢遲々。莫言長是無心物。還有隨龍作雨時。

●雷公 韓致元

閑人倚柱笑雷公。又向深山霹靂松。必若有蘇天下意。何如驚起武侯龍。

雷雨 劉克莊

海激天翻電雹噴。蒼松十丈劈為薪。須臾龍卷

他山去。誤殺田頭望雨人。

初春雨中作

廣瀨淡窓

鳥未遷喬花未開。牆陰殘雪尙成堆。誰知東帝回春處。却自空濛蕭瑟來。

春雨 村上佛山

橋前橋後草新肥。籬北籬南梅欲飛。日永鶯兒倦無語。一園春雨滴金衣。

同 徐 璣

柳着輕煙欲染夜。汀沙漠々草菲々。晚風吹斷寒煙碧。無數鴛鴦溪上飛。

ノ將ニ與ラントスル、黃雲、堂ニ外ル、漢ノ武帝、汾陽ノ鼎ヲ迎ヘテ甘泉宮ニ至ル、黃雲其上ヲ蓋フ、唐ノ代宗即位ノ日、黃雲日ヲ抱ク、
○白雲 殷ノ湯王將ニ與ラントスル、白雲、房ニ入ル、
○青雲 周ノ成王、治平シテ河ニ觀ス、青雲有リ、河ニ浮ブ
○彩雲 宋ノ大明八年、宣太后陵前ノ松梢ニ彩雲有リ、車蓋ノ如ク覆フ、

雷 雨

○鳴神の音にこのつけ身の謀 蜀ノ劉備魏ノ曹操ト會ス、操曰ク、方今天下ノ英雄、惟マ使君ト操ノミト、備、其己ヲ害センコトヲ恐レ、食ニ方ツテ雷震ヲ聞キ、乃チ其匕筋ヲ失シテ曰ク、一震ノ威猶此ノゴトシト、

○落雷 菅原道真、讒ヲ以テ筑紫ニ薨スルノ後、京師屢ハ災有リ、左

大臣菅根等、相繼テ亡ビ、又電清涼殿ニ震ス、俗相傳フ、是レ公憤惋ノ致ス所、雷ハ輒チ公ノ威靈也ト、醍醐帝大ニ恐悔ス、

○雷破石 普ノ元康中ニ雷城南高嶽ノ石ヲ破ル、時ニ賈后妬忌、將ニ慙懷ヲ殺サントス、時人云フ、之ガ爲メナリト、

○雷泣孝子 漢蔡順ノ母、生レテ雷ヲ畏ル、順因テ雷震毎ニ、其塚ヲ抱テ泣キ、曰ク、順此ニ在リト、蓋シ母ノ幽魂ノ驚恐センコトヲ恐レテ也、
○落雷苦貧生 宋ノ范仲淹饒ニ守タリ、貧生有リ上謁ス、時ニ荐福寺ノ碑文値千金、仲淹爲ニ千本ヲ打シテ之ニ贈ント欲ス、一夕雷其碑ニ轟ク、時人語テ曰ク、有客打碑來荐福、無人騎鶴上揚州ト、
○まゝに成ぬは常なるト罪なき者へ、怒りとうつし 白河帝深ク佛法ヲ信シ、屢ハ法勝寺ニ幸ス、嘗テ金字ノ大藏經ヲ慶ス、數ハ雨

梅天 佐藤牧山
江南五月雨頻來。地上
金丸標有梅。應有佳人
思吉士。蛾眉翠感不曾
開。

初秋暮雨

揚 萬里
禾稔輕黃尙淺青。村春
已報隔林聲。忽驚暮色
翻成曉。仰見雙虹雨外
明。

秋雨雜陰

村上佛山
前山後嶺雨紛々。釀得
秋寒一味新。苦竹幽蘭
誰不瘦。就中尤瘦是詩
人。

秋雨

長曾根玄

無端送雨夜來風。吹盡
溪邊木葉空。月出五更
纔霽後。秋聲都在水聲
中。

秋雨思鄉

藤田儀圖

落葉紛々和雨飛。羈身
一倍怯寒威。浮雲遮斷
關山路。九月家人未寄
衣。

詠霜

小西元明

白屋蕭條秋已回。金風
露結冷莓苔。千林一夜
染成去。還向愁人鬢上
來。

霜夜間鐘

菊池 晋

料峭奇寒夢屢驚。吼鯨

遭テ果サズ、帝大ニ怒リ、曰ク、雨罪有リト、乃チ雨ヲ器ニ盛リテ
獄ニ下ス、時人之ヲ囚雨ト謂フ、

○洗兵雨 武王紂ヲ伐ツ、會マ風霾ニシテ而ノ又大雨、散宜生悞レテ
謂ヘラク、此レ妖ニ非ル歟ト、武王曰ク、否惟ダ天、兵ヲ洗フ也、

○武王禱雨 大旱七年、民大ニ苦ム、武王之ヲ憂ヒ、剪爪白馬、往テ桑
林ノ野ニ至リ、六事ヲ以テ自ラ責ム、大ニ雨降ルヲ方數千里

○諒輔以身禱雨 漢ノ諒輔太守タリ、夏大ニ旱ス、諸禱驗ナシ、乃チ
身ヲ以テ祝ノ曰ク、輔、身太守ニ在リ、而ノ陰陽ヲ調和スル能ハズ、

天チノ雨ナカラシム、今日ノ内ニ雨降ラズンハ、請フ自ラ焚ント
、艾茅ヲ懷ク、日未ダ中セザルニ乃チ大ニ雨降ル、

○戴封禱雨 漢ノ戴封、西華ノ令タリ、大ニ旱シ、百方應ナシ、乃チ薪
ヲ積ミ、其上ニ坐シ自ラ焚ント請フ、火將ニ起ラント雨至ル、

○雨應和歌 能因法師伊豫ニ遊ブ、時ニ伊豫雨ナキコト十有二旬、百

姓大ニ歎ク、法師爲メニ和歌ヲ咏ズ、俄ニ大雨至ル、歌ニ曰ク、天の
川、苗代水にとさくたせ、天降りまを神ならば神、

霜露雪

○異霜 魯ノ僖公位ニ即ク、隕霜草ヲ殺サズ、俗云フ、臣ノ威、公ヨリ
強カリシヲ以テナリ、

○異露 黃帝ノ時、丹丘國瑪瑙瓊瓊ヲ献ズ、堯ノ時猶存ズ、甘露其中ニ
存シ、盈テ而ノ竭キズ、舜ニ至テ露漸ク減ズ、凡ソ時、淳ナレハ則チ
満チ、澆ナレハ則チ竭ク、

○老ら玉や見るも涼しき朝の露 楊太真、宿酒初テ醒メ、内熱ニ苦ム
、乃チ晨ヲ犯シ后苑ニ遊ビ、花上ノ露ヲ吸ヒ、以テ肺ヲ潤ス、

○露喻 伍子胥吳王ヲ諫ム、王怒ル、子胥暮ニ歸リ、衣ヲ舉テ曰ク、宮
中荊棘ヲ生シ、霜露吾衣ヲ沾ス

數杵報殘更。何人夜泊蓬窓底。徹曉愁眠聽此聲。

●春雪 韓愈

新年都未有芳華。二月初驚見草芽。白雪卻嫌春色晚。故穿庭樹作飛花。

雪朝作 松山庶

早起推窓望欲迷。雪花璀璨照幽棲。隣人厚意翻堪恨。併掃吾門玉作泥。

夜雪 蘇軾

石泉凍合竹無風。夜色沉沉萬境空。試向靜中閑側耳。隔窓擦亂撲飛蟲。

同 張實居

斗室香添小篆煙。一燈靜對似枯禪。忽驚夜半寒侵骨。流水無聲山皓然。

●宿上毛山中 市河寬齋

寒雲斷續月如弓。蕭寂孤村未睡中。近有後山狼孔子。一聲震地五更風。

熊野道中雜詩 齋藤拙堂

木葉吹烟代銅管。鶉衣蔽體代羅襦。可憐貧婦亦充驛。險路荷擔代驛夫。

山家春興

○甘雪 周穆王ノ時西王母、嶸州ノ紺雪ヲ獻ス、味極メテ甘シ

○雪ちるや枯た菊さへよゝ姿 晋王恭鶴ウツクシヤウ 斲ウツクテ雪中チ行ク、孟旭之ヲ見テ曰ク、此レ神仙中ノ人也、

○以雪讀書 孫康貧シク、學ヲ嗜メ凡油ナシ、乃チ雪ヲ積テ書ヲ讀ム、

○こん秋の豊も知るき元日の雪 劉宋ノ太明中、元日、雪殿庭ニ降ル、右將軍謝莊殿チ下ル、雪其衣上ニ集ル、以テ住端ト爲シ、群臣皆雪花ノ詩ヲ作り以テ之ヲ賀ス、

○雪論 唐武后ノ時、三月六ニ雪フル、蘇味道以テ瑞ト爲シ、群臣チ率テ賀ス、玉求禮叱ノ曰ク、春雪チ瑞ト謂フ、則チ冬雷亦瑞ナリ、

○雪中驢背 或人鄭繁ニ詩思ヲ問フ、繁答テ曰ク、詩思ハ霸橋風雪ノ中、驢子ノ背上ニ在リ、

山水海

○孔子登山 孔子東山ニ登テ而ノ魯チ小トシ、太山ニ登テ而シテ天下チ小トス

○金華登東山 平野金華少ニノ曠達、一世チ侮弄ス、一日服部南郭

ト東山ニ登ル、彌望數十里、心神飄然、已ニ一世チ蔑視ス、乃チ願テ南郭ニ謂テ曰ク、寥々乎聞ク無キ哉、我チノ頓ニ自愛ノ念チ生ゼシム、

○將門登日枝山 平將門藤原純友ト、同シク京師ニ朝シ、日枝山ニ登リ、帝城チ臨望シ、歎シテ曰ク、盛ナル哉帝城也、我モ亦皇胤也、何ツ彼ニ北面ス可ンヤト、相共ニ反チ約ス

○奇水 禹域新豊ノ鸚鵡谷ノ水、世ニ傳フ、谷水清ナレハ則チ天下平ナリト又々臨淄ノ牛山ノ下ニ水有リ、女水ト云フ、齊人ノ諺ニ云フ、此水、世治レハ則チ流レ、亂ルレハ則チ竭クト、慕容起ル時、乾

光明天皇

桃花流水洞中天。不記
煙霞多少年。滿月風光
塵世外。等閑逢着是神
仙。

觀濤歌 鷺津毅堂

吾曹平生難爲水。大觀
只要極奇傀。東洋八月
風濤壯。相携來遊海之
濱。水力之到是其初。俄
頃波湧而濤起。一山未
倒一山來。鏗烘雷鼓欲
聳耳。忽顛忽倒忽起伏。
變幻殆不可逼視。真是
造化大文章。回看韓蘇
小品耳。

余年十二。有故在平
安。思鄉作 龍草蘆

總角辭家客洛陽。秋風
一望白雲長。歸心不爲
尊鱸美。衰白慈親在故
鄉。

憶鄉 三宅執齋

故園萬里東。茫々望無
窮。紅添梅花雨。白知柳
絮風。陽炎盈草野。落日
入山中。瘦馬追春色。黃
昏歸路空。

邊馬有歸思

服部南郭

遠逐將軍度雪山。九秋
大漠劔華間。胡塵四起
風悲塞。羌笛一聲月照
關。却恨曾逢伯樂願。長
傷未得旄頭間。沙場幾
歲摧毛骨。何日華山休

涸彌載、宋武ノ北征スルニ及ンテ乃チ激昂メ流ル、

○齊景樂海 齊ノ景公海上ニ遊テ之ヲ樂ム、流連六月、而ノ歸ルヲ

欲セズ、顔觸進テ曰ク、君、海ヲ治ムルヲ樂テ國ヲ治ムルヲ樂マズ、

彼ニ若シ國ヲ治ムル者有ラバ、君安ソツ此海ヲ樂ムヲ得ンヤト、公

大ニ悟リ、乃チ歸ル、

○浮海 孔子嘗テ歎メ曰ク、道行ハレズンバ、桴ニ乗テ海ニ浮ハント

又嘗テ川ノ上ニ在テ曰ク、逝ク者ハ如斯夫、晝夜ヲ含メズ、

○入於海島 周ノ時、少師陽、擊磬襄、世ノ亂ル、チ見テ海島ニ入ル、

鄉里

○泪眼望穿湘浦雁。愁腸斷盡楚江秋。唐詩 俊寬、成親ガ平氏ヲ討ツノ

議ニ與ルヲ以テ鬼界島ニ流サル、後故有リ、同謀者成經康賴京ニ還

ルヲ得、俊寬獨リ赦サレズ、俊寬二人ヲ羨ミ、足ヲ跌テ、啼ク、

○垂老何時見弟兄。背灯冷影到天明。唐詩 漢李陵匈奴ニ降ル、中土ニ

歸ラント欲スレド得ズ、乃チ望郷臺ヲ作ル、

○懷鄉作賦 后漢王粲字ハ仲宣、亂ヲ荆州ニ避テ劉表ニ依リ、郷ヲ懷

フテ登樓賦ヲ作ル、

○少壯銳氣過。欲歸不得歸。柳牽千里恨。月照五更愁。晋ノ驃騎將軍

温嶠江東ニ使セントス、母欲セズ、嶠、裾ヲ絶テ而ノ去ル、既ニ至ル

復タ北ニ歸ルヲ得ズ、終身以テ恨ト爲ス、

○項羽歸郷 楚ノ項羽關ニ入り、江東ニ歸ラント思ヒ、人ニ謂テ曰ク

富貴ニシテ故郷ニ還ラズンバ、錦ヲ衣テ夜行スル如シ、

○故郷と思ひ出れば秋ならぬ草の枕も露けりけり。和 漢班超久シ

ク絶域ニ在リ、年老テ歸ランヲ思フ、乃チ上書シテ曰ク、臣。不願

望到酒泉郡。但願生入玉門關。

○見るにつけ觸る、につけて思ふ哉 晋ノ張翰齊王問ガ椽ト爲リテ

桃花流水洞中天。不記
煙霞多少年。滿月風光
塵世外。等閑逢着是神
仙。

觀濤歌 鷺津毅堂

吾曹平生難爲水。大觀
只要極奇傀。東洋八月
風濤壯。相携來遊海之
濱。水力之到是其初。俄
頃波湧而濤起。一山未
倒一山來。鏗烘雷鼓欲
聾耳。忽顛忽倒忽起伏。
變幻殆不可逼視。真是
造化大文章。回看韓蘇
小品耳。

余年十二。有故在平
安。思鄉作 龍草蘆

涸彌載、宋武ノ北征スルニ及ンテ乃チ激昂メ流ル、

○齊景樂海 齊ノ景公海上ニ遊テ之ヲ樂ム、流連六月、而ノ歸ルヲ
欲セズ、顔蠅進デ曰ク、君、海ヲ治ムルヲ樂テ國ヲ治ムルヲ樂マズ、
彼ニ若シ國ヲ治ムル者有ラバ、君安ンソ此海ヲ樂ムヲ得ンヤト、公
大ニ悟リ、乃チ歸ル、

○浮海 孔子嘗テ歎メ曰ク、道行ハレズンバ、桴ニ乗テ海ニ浮バント
「又嘗テ川ノ上ニ在テ曰ク、逝ク者ハ如斯夫、晝夜ヲ舍メズ、
○入於海島 周ノ時、少師陽、擊磬襄、世ノ亂ル、ヲ見テ海島ニ入ル、

鄉里

○泪眼望穿湘浦雁。愁腸斷盡楚江秋。唐詩 俊寬、成親ガ平氏ヲ討ツノ
議ニ與ルヲ以テ鬼界島ニ流サル、後故有リ、同謀者成經康賴京ニ還
ルヲ得、俊寬獨リ赦サレズ、俊寬二人ヲ羨ミ、足ヲ跌テ、啼ク、

總角辭家客洛陽。秋風
一望白雲長。歸心不爲
尊鱸美。衰白慈親在故
鄉。

憶鄉 三宅執齋
故園萬里東、茫茫望無
窮。紅添梅花雨。白知柳
絮風。陽炎盈草野。落日
入山中。瘦馬追春色。黃
昏歸路空。

邊馬有歸思

服部南郭

遠逐將軍度雪山。九秋
大模劔華間。胡塵四起
風悲塞。羌笛一聲月照
關。却恨曾逢伯樂願。長
傷未得旄頭間。沙場幾
歲摧毛骨。何日華山休

○垂老何時見弟兄。背灯怜影到天明。唐詩 漢李陵匈奴ニ降ル、中土ニ
歸ラント欲スレド得ズ、乃チ望郷臺ヲ作ル、

○懷鄉作賦 后漢王粲字ハ仲宣、亂ヲ荆州ニ避テ劉表ニ依リ、郷ヲ懷
フテ登樓賦ヲ作ル、

○少壯銳氣過。欲歸不得歸。柳牽千里恨。月照五更愁。晋ノ驃騎將軍
温嶠江東ニ使セントス、母欲セズ、嶠、裾ヲ絶テ而ノ去ル、既ニ至ル
復タ北ニ歸ルヲ得ズ、終身以テ恨ト爲ス、

○項羽歸鄉 楚ノ項羽關ニ入り、江東ニ歸ラント思ヒ、人ニ謂テ曰ク
、富貴ニシテ故郷ニ還ラズンバ、錦ヲ衣テ夜行スル如シ、
○故郷と思ひ出れば秋ならぬ草の枕も露けのりけり 和 漢班超久シ
ク絶域ニ在リ、年老テ歸ランヲ思フ、乃チ上書シテ曰ク、臣。不願
望到酒泉郡。但願生入玉門關ト

○見るにつけ觸る、につけて思ふ哉 晋ノ張翰齊王問ガ椽ト爲リテ

戰還。

思江南方干

昨日草枯今日青。羈人又動望鄉情。夜來有夢登歸路。不到桐廬已及明。

出東陽道中作

同人

馬首寒山黛色濃。一重々畫一重々。醉醒已在他方界。猶憶東陽昨夜鐘。

漫書 司空圖

長擬求閑未得閑。又勞行役出秦關。逢人漸覺鄉音異。却恨鶯聲似故山。

渡桑乾 賈島

客舍並州已十霜。歸心日夜憶成陽。無端更渡桑乾水。却望並州是故鄉。

清明感傷

戴復古

客中今日最傷心。憶着家山松樹林。白石岡頭聞杜宇。對他人墓亦沾巾。

洛中ニ在リ、一日秋風起ルヲ見、因テ我吳中ノ尊羹菰米鱸魚ノ繪ヲ思ヘ、遂ニ駕ヲ命ジテ江南ニ歸ル、

○南郭黍離之歎 服部南郭ハ平安ノ人也、幼ニ去テ遊官シ、老テ而ノ飯遊ス、時ニ親眷故舊皆既ニ土中ノ人ト爲リ、故郷却テ他郷ノ如シ、乃チ大息シ詩ヲ作テ曰ク、五十年前出上京。今遊猶作客中情。別長何處尋桑梓。祚薄無家問弟兄。認得山川疑夢寐。想來多少自分明。共知流轉人寰裏。愧似劉郎返赤城。

雜

○黃金より玉よりも猶よき人の、多きを國の寶なりける和漢ノ高祖既ニ天下ヲ定メ、沛ヲ過ギリテ筑ヲ擊チ歌テ曰ク、大風起兮雲飛揚。威加海内兮飯故郷。安得猛士兮守四方。

○板橋 古川翁ハ備中岡田邑ノ人也、倜儻ニシテ大略有リ、門前一

水有リ、板ヲ架シテ橋ト爲ス、平時ハ之ヲ撤ス、曰ク、俗物ヲシテ來ラシムル勿レト、咏歌自ラ娛ム、

第二編 歲時門

春 夏

○屠蘇 昔、支那ニ人有リ、除夕ニ閭里ニ藥ヲ遣リ、囊ニシテ之ヲ井中ニ浸サシメ元旦ニ取り出シテ酒樽ニ置ク、屠蘇酒ト名ク、飲ハ

戊辰元旦自壽

市河寬齋

兄弟三人子八人。二孫繞膝又迎春。不知何福兼無病。翁過六旬癯五旬。

新年雜述二首

菊地五山

太平妝點是兒童。男女遊麟到處同。彩鞠跳梁不離地。紙鷲跋扈欲凌空。

年節逢場酒更加。蹒跚歸去近昏鴉。又尋隣巷投名紙。便是今朝已了家。

元夕 林季謙

燒燈城市又新年。壁月樓臺萬管絃。獨有廣文窮相眼。一篝燈火照殘

瘦ヲ病マズト云フ、

○ある用もせぬとにして松の内誹諧 唐ノ睿宗ノ時元夕、安福門外

ニ于テ燈輪ノ高二十丈ナルモノヲ作り、長安ノ少婦千有餘人其下

ニ踏歌スルヲ三日、聲調雲漢ノ中ニ入ル、

○元夕百枝燈 唐ノ韓國夫人、元夜ニ百枝燈ヲ置ク、

○一九廻慶 十返舎一九家貧、某歲除夜、人ニ浴釜ヲ借り、元旦早起

シテ浴ヲ供フ。頃之ノ賀客至ル、一九素禮衣ナシ、乃チ之ヲ留メテ

酒ヲ飲マシメ、且ツ浴ヲ勸メ、客ヲシテ禮衣ヲ解テ而シテ赴シメ、

竊ニ其衣ヲ穿チ、里正及ビ近隣數家ニ歷抵シ、祝正シテ而シテ歸ル、

一九素長身、衣、體ニ稱ハズ、手脚露出、觀ル者失笑ス、

○徂徠不知新年 何となく目出度く覺也新玉あらたまに 服部南郭某歲ノ

元日物徂徠ヲ訪フ、徂徠方ニ几ニ隠リ、孫子ヲ閱ス、梳クシツラザル

亂髮、洗ハザル垢面、新年ヲ知ラザル者ノ如シ、而シテ鹽々兵ヲ談

編。

江南春 杜牧

千里鶯啼綠映紅。水村山郭酒旗風。南朝四百八十寺。多少樓臺烟雨

京城嬉春詞

梅素鶯金春已妍。東風粧點美人天。太平壯士來沽醉。不道心腸百練堅。

大暑 趙元

早雲飛火燎長空。白日渾如墮甌中。不到廣寒冰雪屈。扇頭能有幾多風。

夏夜追涼

夜熱依然午熱同。開門

シテ止メズ、南郭竟ニ新禧ヲ祝スルヲ得ズノ歸ル、

○仁齋撒豆 我邦ノ俗、立春前一夕、炒豆ヲ撒シ、高聲ニ叫イリンテ曰ク、

福ハ内鬼ハ外ト、是レ殆ント兒戯ニ類スルモノ、而シテ伊藤仁齋、必

ズ禮服ヲ以テ行フ、曰ク、崖異ノ行ヲ爲ス可カラズト、

○端午 昔、禹城ノ俗、端午ノ日、五絲ノ絲ヲ以テ臂ニ繫ク、長命縷ト

名ク、又一ニ續命縷ト云ヒ、又辟兵縷ト云フ。又蘭湯ヲ用テ沐浴ス

ル處有リ、楚詞ニ云フ、蘭湯ニ浴シ、芳華ニ沐ス。又楚ノ屈原、午日

汨羅ニ投ノ而シテ死ス、時ニ楚人舟ヲ以テ之ヲ拯スグフ、及ハズ、是ヨリ

ノ端午、竟度ヲ以テ例ト爲ス、

○避暑飲 劉松袁紹ト、常ニ三伏ノ月ヲ以テ晝夜酣飲シ、以テ暑ヲ避

ク、人之ニ倣ヒ、遂ニ河朔ニ避暑ノ飲行ハル、

秋 冬

小立月明中。竹深樹密
蟲鳴處。時有微涼不是
風。右 楊萬里

七夕 李 鄴

鳥鵲橋頭雙扇開。年々
一度渡河來。莫嫌天上
稀相見。猶勝人間去不
回。

和人七夕 胡 仔

乞巧筵開玉露秋。一鈎
涼月挂西樓。人間百巧
方無奈。寄語天孫好罷
休。

秋興 五月丈髯

節物皆非舊。蘆花付寂
寥。野晴鷹眼銳。江冷鷺
肩驕。一屋依秋樹。孤帆
掛晚潮。石磯人不見。漁

笛夕陽橋。

歲晚 齋藤拙堂

掃煤春餅四隣聲。剛見
檐梅含笑橫。稚子殷勤
向人問。睡過幾日是新
正。

己酉歲晚

病夫歲晚意如何。二十
五年如夢過。點檢囊中
三百首。說歡甚少說悲
多。右 高階春帆

除夜有感賦

遠將書劍走風塵。更看
年光退電頻。今夜曉鐘
聲動後。也爲三歲異鄉
人。右 荒川天散

己卯除夜同碧海

兄賦 裳川小漁

○七夕異名 昔禹域一婦人有リ、某ノ歲七日七月ノ夕、綵絲ヲ以テ
七孔針ヲ穿チ、瓜果ヲ庭中ニ陳テ以テ巧ナランコトヲ乞フ、故ニ七夕
ヲ巧節ト云フ

○七夕異事 后漢竇后、少時禿頭、家人之ヲ輕ンズ、一歲七夕ニ神光
有リ、后ノ室ヲ照ス、是ヨリノ姿色絶倫「唐ノ郭子儀、七夕ノ日銀州
ニ至ル、空中ニ赤光有リ、仰テ之ヲ視ルニ駟車綉幄ノ中ニ坐スル一
美女有ルヲ見ル、儀疑フ、是レ蓋シ織女ナリト、拜祝ノ曰ク願ハク
ハ富貴壽考ナルヲ得ント、儀后子汾陽王ニ封セラレ、年九十餘、名四
夷ニ馳セ、子孫數十百人」

○郝隆曝腹書 晋ノ郝隆、七夕ノ日、人ノ皆衣ヲ晒スヲ見、乃チ庭中
ニ仰臥ス、人其故ヲ問フ、曰ク、我ハ腹中ノ書ヲ晒ス、

○重九登高 宋ノ武帝、宋公タリシ時彭城ニ在リ、九月九日徐州ノ項
羽ノ戲馬臺ニ遊ブ、遂ニ故事ト爲ル、

○歲暮 楚ノ俗、歲暮ニ家々殺鞞ヲ具フ、之ヲ宿歲ノ儲ヲ備フルト謂
フ、新年ニ至テ之ヲ街衢ニ棄ツ、以テ故ヲ去テ新ヲ納ル、ト爲ス「
吳蜀ノ風俗、晚歲相與ニ餽問ス、之ヲ餽歲ト謂フ、除夜ハ先祖ヲ祭
リ、畢テ長幼祝頌シテ而ノ散ズ、之ヲ分歲ト謂フ「吳人除夜ニ紙馬
ヲ灶上ニ貼シ、酒ヲ其灶門ニ沃ク、云フ、司命ヲ醉ハシムル也ト

○爆竹 古昔禹域ニ山魘有リ、人家ニ入テ害ヲ爲ス、因テ竹ヲ燒テ聲
ヲ爆ス、山魘驚キ逃ル、是ヨリシテ爆竹ヲ例トナス、

○照田祈穀 吳中ノ俗除夜ニ、村落火炬ヲ燃シ、長竿杪ニ縛シ以テ田
ヲ照ス、蓋シ穀ヲ祈ル也

○土牛餞臘 漢ノ時、季冬ノ月、土牛六頭ヲ國都郡縣ノ城外ノ丑地ニ
立テ寒氣ヲ送ル、

○獻夢 周時、太人、季冬王ノ夢ヲ聘ヒ、吉夢ヲ獻ズ、王拜シ之ヲ受ク、

第三編 人類門

親子

半生心事混風塵。其奈明朝又是春。好有梅花憐瘦影。任他窮鬼逼吟身。典衣今日貧如此。騎鶴當年夢不真。一笑吾儂痴願在。濁醪寒供祭錢神。

送兒留學米國

縮衣節食始從今。恐少學資傷客心。遺產無傳汝休憾。一身藝是滿籬金。右 三島中洲

哭女 姚世鉉

貧家生小儉梳妝。竹筒練裙少盛裝。繡得羅襦幾回着。送終猶是嫁衣裳。

悼阿駒二首

劉克莊

吾老方期汝亢宗。愛憐不與衆離同。豈知希世千金寶。止作空華賺乃翁。人生愛患本無涯。強取瞿聃語自排。吾母白頭猶忘我。吞聲不敢惱慈懷。

送兒留學米國

三島中洲

一聲船笛淚縱橫。惜汝

○善につけ惡につけて子と思ふ、道に迷はぬ人やなの覽和 高倉帝

ノ中宮徳子ハ清盛ノ女、嘗テ身メルコ有テ不豫ナリ、清盛之ヲ憂ヒ、神ニ祈リ佛ニ禱リ、大赦シテ流人ヲ召還ス、

○燒野のさざと夜の鶴、父母の恵ぞ深き南無大悲、伊藤仁齋初メ赤

貧、歲暮糲食ヲ買フ能ハズ、妻跪キ進ンテ曰ク、家道育鞠、妾未ダ嘗

テ堪ヘザルト爲サズ、獨リ其堪ヘザル所ハ、孺子原藏、未ダ貧ノ何

物タルヲ解セズ、人ノ家ニ査有ルヲ羨ミ、連求シテ已マザル是レ

也、妾、口能ク之ヲ譙呵スト雖也、腸ハ爲ニ斷絶スト、言訖ツテ泣

下ル、仁齋平生、晏如トノ貧ヲ意トセズト雖也、之ヲ聽テ撫然直ニ

其着スル所ノ外套ヲ脱シテ妻ニ授ク、

○舐犢之愛 曹操楊脩ヲ殺ス、後子脩ノ父彪ヲ見テ曰ク、何ソ瘦ヤ

ルノ甚シキヤト、答テ曰ク愧ラクハ日禪先見ノ明无ク、猶老牛舐犢

ノ愛ヲ懷クト、操之ガ爲ニ容テ改ム、

○人心、あしきと憎む世の中に、二郎ハ信州農家ノ子、長シテ而シ

テ無頼、扨捨ノ母ノ誠ヲ聽カズ、毎夜出テ富賭ヲ事トシ、深夜ニ及

ンテ然ル後ニ歸ル、其行程凡里餘、山野路ニ當ル、母深ク悲ミ且ツ

危ミ、以爲ラク、痛ク之ヲ懲スニ如カズト、人ヲシテ幽鬼ニ扮ノ墓

間ニ隠レ、其歸リ至ルヲ要ノ之ヲ威嚇セシム、二郎時ニ年十七、膽

氣人ヲ兼タリ、直ニ進ンテ其人ヲ捕フ、其人告ルニ實ヲ以テス、二

郎感動、又手抵頭、飲泣ノ節ヲ改メ、遂ニ孝子ト爲ル、

○晝が夜やら夜が晝。案ト暮シテ夢現逢度見度と子と思ふ。兆殿

主、思恭ノ晝羅漢百幅ヲ摸ス、時ニ母淡ニ在リ、頻リニ歸省ヲ促ス、

殿主謂フ、是レ吾面ヲ見ント欲スル也、母固ヨリ省セザル可カラ

ズト雖也、業モ亦停ム可カラズ、如カズ、肖像ヲ送り以テ暫ラク

雲濤万里行。昔日在都
今米國。追思阿母送吾
情。

讀母書

山田雲洞

字少情多讀數回。無端
感淚眼中催。仰看一片
客窓月。分照慈家霜鬢
來。

五月九日舟中

偶成 張若駒

水牕晴掩日光高。河上
風寒正長湖。忽々夢回
憶家事。女兒生日是今
朝。

母子 熊 隆

掬育難忘母子恩。凱風
稱羨北堂萱。斷機截髮

其心ヲ慰メンコト、乃チ自ラ之ヲ作テ送ル、母之ヲ視テ曰ク、健
全ノ容、吾心大ニ降ルト。

○落花啼鳥總傷神。況此音容髣髴人。心亂淚湧感不堪。源賴朝父ト

相失シテ捕ヘラレ、平賴盛之ヲ宗清ノ家ニ囚メ、宗清謂フ、容止酷
マ故右馬助ニ肖タリト、之ヲ清盛ノ後母池氏ニ語ル、右馬助ハ池氏
所生ノ家盛、十二歳ニ早世セシ者也、池氏之ヲ聞テ感傷堪ヘズ、
重盛ヲノ頼朝ノ命ヲ清盛ニ乞ハシム、清盛肯ンセズ、池氏泣且怒
テ曰ク、我レ右馬ノ爲ニ寢食常ヲ失フ、命モ亦久シカラズ、若シ
乃父猶在ラハ、汝豈吾請ヲ侮ルコト斯ニ至ンヤト清盛乃チ之ヲ赦
ス、

○直實憶兒爲僧 平敦盛年甫十六一谷ノ役熊谷直實ノ擒ニスル所ト
爲ル、直實其貴少年ナルヲ憐ンテ之レヲ縦サント欲ス、而シテ活
ス可キノ路無シ、名及ビ年ヲ問ヒハ則チ己レガ子直家ト齡ヲ

芳名在。還鮮埋錢潔行
存。嚙指動心思禁順。導
興去帽仰崔邠。慈闈切
想王孫賈。終日凝眸望
倚門。

聞子規懷太一

南宮大猷

海城春盡子規飛。彷彿
千聲獨濕衣。知爾他鄉
今夜恨。可堪還喚不如
歸。

別亡兒墓

原 雙桂

寂寞空山一片碑。趨庭
憐爾學詩時。面容髣髴
猶如見。淚滴丘前春樹
枝。

同フス、愈ヨ憐ミニ堪ヘズ、乃チ曰ク、吾善ク公ノ爲メニ冥福ヲ
修メント、遂ニ涙ヲ揮ツテ首ヲ斬リ、其携フル所ノ名笛ヲ得、直
實昨一谷ノ城外ニ在テ平氏ノ管絃ヲ奏スルヲ聞テ感傷スル所有リ
、此ニ至テ益嘆息シテ已マズ、後遂ニ僧ト爲ル、蓮生是レ也、
○惠遠感於鶴爲僧 廬山ノ惠遠法師ハ本僧ニ非ズ、人ト爲リ獵ヲ好
ム、一日雞鶴ヲ捕フ、母鶴悲ムコト甚シク、遂ニ死ス、乃亦取テ其
腹ヲ割ク、其腸皆寸斷ス、惠遠之ヲ見、親、子ヲ思フ情ノ深キニ
感シ、嗟嘆之ヲ久フシ、直ニ弓矢ヲ投ノ僧ト爲ル、

○鹿魂告情 吳唐兒ヲ携テ出獵ス、一鹿子ヲ射殺ス、鹿母悲鳴ノ已
マズ、唐復々之ヲ射殺ス、頃之シテ又一鹿有リ、之ヲ射ス、箭反
激ノ我兒ニ中ル 唐大ニ驚キ、之ヲ抱テ慟哭ス、時ニ空中ニ人有
リ、呼テ曰ク、唐、鹿ノ子ヲ愛スルモ、亦何ツ爾ト異ナラン、
○鳥も通はぬ八丈島へ、流さる此身は厭はねど、後に残りし妻や子

失子 周昂
白髮飄蕭老病身。幾因
兒女淚沾巾。虛談誤世
王夷甫。只有情鍾語最
真。

棄兒歌 雲井龍雄
斯身飢斯兒不育。斯兒
不捨斯身飢。捨是邪不
捨非邪。人間恩愛斯心
迷。愛々不禁無情淚。復
弄兒面多苦思。焦心頻
囑良家救。欲去不忍別
難悲。橋畔忽驚行人語。
殘月一聲杜鵑啼。

題陳景明梅盧
戴復古
手栽梅核待成林。慈母
當年屬望深。梅未成林
人已往。空酸孝子一生
心。

憶父 宋凌雲
吳樹燕雲斷尺書。迢々
兩地恨何如。夢魂不憚
長安遠。幾度乘風問起
居。

秋懷係謫中作 重野成齋
靡蕪草老北山阿。豈不
懷飯在網羅。賴有詩書
修舊業。猶勝身跡托奔
波。遊追姑錫溪潭記。醉
和峨眉山月歌。海島雖

がと、子故に迷ふ親なれば、孟孫氏獵ノ鹿ヲ得、秦巴西ヲシ之
ヲ載テ歸ラシム、其母悲鳴シ、追從ノ去ラズ、巴西忍ビオソ放之
○つばくらや、子と思ふ身の隙もなし 諧 明太祖一日後苑ニ行き、

巢鵲ノ子ヲ翼哺スルヲ見ル、嘆ノ曰ク、禽鳥猶且ツ爾ル耶ト、即
チ群臣ヲシ、其親老タル者ハ歸リ養ハシム、

○人莫知其子之惡莫知其苗之碩 古 賴朝富士野ニ獵ス、長子賴家年
甫テ十二、射テ走鹿ニ中ツ、賴朝狂喜シ、人ヲシ之ヲ政子ニ報セ

シム、
○義之愛子孫 王ノ王義之諸子ヲ牽ヒ弱孫ヲ抱キ、一味ノ甘モ割テ
而シ之ヲ分チ、以テ娛ト爲ス

○馬太后 后漢ノ馬太后曰ク、吾但マ、當ニ飴ヲ含ミテ孫ヲ弄ス可シ、
○田村鷹狂于孫王 嵯峨帝嘗テ射ヲ觀ル、諸王及ビ群臣次ヲ以テ射

ル、弟王三品葛井親王年十二、二發皆中ル、時ニ王ノ外祖坂上田

村麿坐ニ侍ス、之ヲ見テ喜ニ勝ヘズ、起テ王ヲ抱テ而シ拜シ、口
ヲ極メテ之ヲ褒揚ス

○無父何怙無母何恃 出則銜恤。入則靡至 經 大化年中蘇我日向、

倉山田大臣ヲ譖スルニ太子ヲ害セント圖ルヲ以テス、太子之ヲ信
シ、物部二田造擅ヲ遣ハシテ大臣ヲ斬ル、太子ノ媛ハ大臣ノ女ナ

リ、之ヲ聞テ悲慟シ、擅ノ名ヲ聞クヲ惡ミ、遂ニ疾ヲ成シテ死ス、

○李密養祖母 晋ノ李密、幼ニシテ父母ヲ失ヒ、祖母ニ養ハル、朝廷
徵シ洗馬ト爲ス、密、表ヲ作り情ヲ陳テ曰ク、臣、祖母無レハ以

テ今日ニ至ル無シ、祖母臣無レハ、以テ餘年ヲ終フルコト無シ、鳥
鳥ノ私情願ハクハ養ヲ終ラント、附錄

○仁明帝敬太后 仁明帝ノ皇太后ニ朝スルヤ必ズ歩ス、一日太后帝
ノ輦ニ御スルノ儀ヲ觀ント欲ス、帝之ヲ左右ニ諮ル、咸曰ク、唯
マ命ニ是レ從ヘト、輦進ム、帝猶歩シ、殿ヲ下リ楷ヲ没シ、而シ后ニ

然可棲息。高堂其奈二親何。

之乗ル、全上

閨感 徐玉泉

夫婦及族親

燕子南來雁北飛。遠人何事竟忘歸。一腔心病難形口。萬種愁情盡屬眉。試掠金釵臨曉鏡。潛垂玉筋漬春衣。隣姬莫問容憔悴。只有西窓夜月知。

秋閨怨

河漢西流夢忽回。清秋銀燭對樓臺。妾身不及梁頭月。偏照關山萬里來。右 高 蘭亭 秋盡阿郎猶未歸。空闌燈下理征衣。傷心窗外

三更雨。白草原頭作雪飛。右 林 彰

長相思辭

林 和靖

吳山青。越山青。兩岸青山相送迎。誰知離別情。君淚盈。妾淚盈。羅帶同心結未成。江頭潮已平。

棄婦行

村 佛山

尙有新月眉。尙有白雪肌。怪來同穴契。忽爲生別離。君心可黃又可黑。百年使妾泣練絲。只願留妾連理帶。裂爲良人履頭綦。妾身分一死。胎中奈有子。珍重應鞠養。定與君顏似。縱得掌上珠。靡父又何怕。涕零如

○與細君計 德川家康、板倉勝重ヲ命シテ奉行ト爲ス、勝重固辭ス、許サレズ、乃チ請テ曰ク、願クハ家ニ歸リ妻ト計ルヲ得ント家康晒テ之ヲ許ス、

○心隔つる此海山ト、通ふ千鳥ガ怨めしい 都々一 陳太子舍人徐德言、樂昌公主ヲ尙ス、陳ノ政衰フ、徐、公主ニ謂テ曰ク、國破ルレハ則チ卿ハ必ズ豪家ニ入ン、猶冀クハ相見ント、乃チ鏡ヲ破リ各其半ヲ分ツ、陳亡ブニ及ンテ公主果ソ楊越公ノ得ル所ト爲ル、徐、詩ヲ寄テ曰ク、鏡與人俱去。鏡歸人未歸。無復姮娥影。空留明月輝。公主之ヲ觀、悲泣ノ已マズ、越公愴然、德音ヲ召ソ之ヲ還ス ○生則比翼鳥。死則連理枝。憶校童隔時。堪憐鴛鴦情。宋ノ康王、

舍人韓憑ガ妻何氏ノ美ナルヲ見テ之ヲ奪フ。憑怨デ而ソ死ス。妻モ亦身ヲ臺ヨリ投ノ而ソ死ス。帶ニ遺書有リ。願ハクハ合葬セヨト。王顧ミス。二塚ヲ分埋セシム。忽チ梓木塚上ニ生シ。根、下ニ交ハリ。枝、上ニ連リ。又雌雄ノ鴛鴦有リ。其上ニ悲鳴ス。宋人之ヲ憐ミ、號ノ相思樹ト曰フ。

○莊周無情 莊周妻死ス。哭セズ。盆ヲ鼓シテ歌テ曰ク。堪嘆浮世事。有如花開謝。妻死我殯埋。我死妻必嫁。我若先死時。一場大笑話。妻被他人戀。子被他人打。以此慟傷心。相看淚不下。世人笑我不悲傷。我笑世人空斷腸。世事若還哭得轉。我亦千愁泪萬行。

○妻有三可畏事 斐炎嘗テ人ニ謂テ曰ク、妻ニ三畏有リ。少時ハ生菩薩ノ如ク、畏ル可シ。兒女、前ニ滿ルニ及テハ九子母ノ如ク。畏ル可シ。老テ薄ク粧粉ヲ施スニ至テハ。或ハ青或ハ黑。鳩盤茶ノ如ク。畏ル可シ。

雨將上車。梨花無力有誰扶。尙是良人所手寫。十襲懷來離婚書。

歎花 杜 牧

自恨尋芳到已遲。往年曾見未開時。如今風擺花狼藉。綠葉成陰子滿枝。

送夫 屈安人

君往燕山去。棄妾雒水傍。雄水向東流。妾魂隨飛揚。丈夫輕離別。所志在四方。努力事明主。肯爲兒女傷。君有雙老親。垂白坐高堂。晨昏妾定省。喜懼君自量。珍重復珍重。丁寧須記將。既爲遠別去。飲余手中觴。莫

兄弟及長幼

○同胞之情 狹穗彦ハ垂仁帝ノ后兄也。寵ヲ恃ンテ反セント欲シ。后ニ問テ曰ク。汝我ト夫トニ於ル孰レカ最モ親愛スル。后曰兄也。○死器之威。兄弟孔懷。原濕哀矣。兄弟求矣。詩 韓ノ聶政、其相俠累ヲ刺ス。骨肉我爲ニ禍ヲ蒙ンコト憂ヒ。自ラ面ヲ皮ハキ目ヲ扶ル。人能ク政タルヲ辨ゼズ。獨リ姉、嬰之ヲ識リ。往テ之ヲ哭ノ曰ク。是吾弟聶政也。妾ガ在ルヲ以テ。故ニ重ク自刑ノ以テ蹤ヲ絶ツ、其友愛之情之深キ。妾深ク肝銘ス。輒チ妾。奈何ソ身ヲ没スルノ誅ヲ畏レ。終ニ賢弟ノ名ヲ没スルニ忍ビン乎ト。遂ニ其尸傍ニ死ス。

辭手中觴。爲君整行裝。陽關歐欲斷。柳條絲更長。

感夢 潘仲 陳氏

忽夢夫君得意旋。醒來情緒轉凄然。曉風不管閨中恨。故送鐘聲到枕邊。

閨怨 姚康伯

分明賺得兩眉開。手折黃花上鏡臺。侍女無端忙報道。鄰家昨夜遠人回。

閨怨聽鶉

山田 讓

寶鴨香消夢易驚。啼雲蜀魄亦關情。憑君傳與閨中恨。飛到郎邊不惜

○魏王圖奪嫡 唐太宗ノ太子承乾不才ナリ。弟魏王泰。多能ニ寵有リ。因テ潛ニ嫡ヲ奪フノ志有リ。

○あなうたて、他人の始なればとて、魏ノ曹丕立ツ。弟、植ヲ殺サント欲シテ曰ク。汝七步ニシテ詩ヲ作レ。成ズンハ則チ殺サン。植大息シ。即チ曰ク。煮豆燃豆箕。豆在釜中泣。本是同根生。相煎何太急。之ヲ七步之詩ト云フ。

聲。

●除夕懷弟

賴 支峰

雪聲燈影夜團圓。濁酒乾魚勸老親。獨恨一年年欲盡。天涯猶有未歸人。

九月九日懷山

中兄弟 王 維

獨在異鄉爲異客。每逢佳節倍思親。遙知兄弟登高處。遍插茱萸少一人。

○喪亂既平。既安且寧。雖有兄弟。不如友生。宋太宗、幽州ヲ征ス。下

ラズ。遂ニ師ヲ班ス。時ニ弟德昭。隨フテ軍中ニ在リ。軍中一夜太宗

ノ所在ヲ知ラズ。大ニ驚テ德昭ヲ立ント謀ル者有リ。太宗聞テ悅ハ

ズノ販ル。是ヨリ先キ。潘美命ヲ奉ノ北漢ヲ討平ス。當ニ之ガ賞ヲ

行フ可シ。而ノ太宗、北征ノ不利ヲ以テ行ハズ。德昭之ヲ白ス。太宗

嚮夜ノ事有ルヲ以テ怒テ曰ク。汝ガ天子タルヲ待テ賞スルモ未ダ

晚カラザル也ト。蓋德昭ヲ疑フテ己ノ位ヲ奪フノ心有リト爲スナ

リ。德昭退テ自刎ス。

○毛利元就遺諭 元就病ミ。將ニ死セントシ。諸子ヲ前ニ聚メ。命ノ

箭數條ヲ取シ。自ラ糾メ一束ト爲シ。力ヲ極メテ之ヲ折ントス。

能ハズ。更ニ一條ヲ抽ク。手ニ隨ツテ折ル。因テ戒メテ曰ク。兄弟ハ

猶此矢也。和スレバ則チ事濟リ。和セザレバ則チ相敗ル。汝等心ニ

銘シテ忘ル、勿レト。

○兄弟鬩于牆 漢孝文帝ノ六年淮南厲王長、謀反ス。王ハ帝ノ骨肉

也。帝怒リ。廢シテ而ノ徙ス。死ス。民之ヲ歌フ者有リ。曰ク一尺布

猶可縫。一斗粟猶可舂。兄弟二人不相容ト。帝大ニ愧ヅ。

○姜肱兄弟 妻子好合。如鼓瑟琴。兄弟既翕。和樂且樂。後漢ノ

姜肱兄弟太ダ睦友。各娶ル。相愛ノ別寢スル能ハズ。一大被中ニ同

寢ス

○花萼相輝之樓 唐ノ玄宗。諸王ニ友愛ニシ。爲ニ特ニ一樓ヲ建テ、

數ハ與ニ共ニ宴樂ス。因テ其樓ニ題ノ花萼相輝之樓ト曰フ。蓋シ棠

棣ノ義ニ取ルナリ。

○幼者可憐 應神帝嘗テ大鶴鷄尊ニ問フ。汝等、子ヲ愛スルヤ。長幼

孰レカ最モ愛スル。尊曰ク。長者ハ多ク寒暑ヲ經テ既ニ成立シ。更

ニ憂無シ。唯少者ハ猶父母ノ扶助ニ依ル。故ニ甚ダ之ヲ憐ムト

○罪もな岐。たちい振舞いどあわれ。四條天皇幼沖ニノ嬉戯ス。宮

田家樂 陳授衣

兒童下學惱比隣。拋壻池塘日幾巡。折得松枝當旗纛。又來呵殿學官人。

冬日村居

長 梅外

寒溪碧繞隱人家。門巷斜通竹帶沙。村墅無情

來園犬。粉蠶墻下水仙花。

貧家雪

太田實象

雨雪年深烟火空。機聲札々破窓中。癡兒未解無衣苦。陌上相呼走北風。

年少春遊

遠山雲如

垂柳樓頭茜袖新。觥心激灑綠生鱗。若非十萬腰纏盡。花落鶉啼猶是春。

閨怨 王昌齡

閨中少婦不知愁。春日凝粧上翠樓。忽見陌頭楊柳色。悔教夫婿覓封侯。

侯。

縱筆 蘇軾

寂々東坡一病翁。白鬚蕭散滿霜風。兒童誤喜朱顏在。一笑那知是酒紅。

感秋 楊萬里

舊不愁秋只愛秋。風中吹笛月中樓。如今秋色渾如舊。欲不悲秋不自由。

雜吟 梁川星巖

憶昨少年誇嚼鍊。老餐頓々怯逢剛。無多齟齬也搖兀。爛煮蔓菁一滿意嘗。

●吊山子瑯墓

菽野綠野

廊ニ滑石ヲ塗リ。嬪御ノ頓仆スル見テ笑樂ス。後誤ツテ自ラ仆レ。遂ニ疾ヲ成シテ起タズ。

○西東。知らぬ佛の世は地獄。宋太祖ノ母后。崩ズルニ臨ミ太祖ニ謂テ曰ク。汝々が天下ヲ得タル所以ヲ知レリヤ。蓋シ柴氏ガ幼兒ヲノ天下ニ主タラシムルニ由ル耳ト。柴氏ハ周也。

○老人 藤原實衡。藤原資朝ト上直ス。會マ僧靜然入朝ス。其背曲僕。其眉目皓白。實衡一見。敬色ニ形ハル。資朝曰ク。是レ老憊ノ致ス所。何ノ敬ス可カ之レ有ラント。他日實衡ニ老龍ヲ贈テ曰ク。此龍老憊。皮毛剝落。亦敬ス可キノ資有リト。

交友

○交遊難全 漢ノ蕭育、朱博ト友タリ。長安語ノ曰ク。蕭朱結綬。王貢彈冠ト。其相荐達スルヲ言フ也。後、隙有リ。相共背ク。漢張耳陳餘

初メ密友タリ。趙ニ事フ。後相攻撃シ。耳乃チ漢ニ歸シ。韓信ト趙ヲ破リ餘ヲ斬ル。

○丹雞白犬之盟 五代ノ時三人友タルモノ有リ。埜ヲ築キ。丹雞白犬ノ血ヲ歃ツテ而ノ盟テ曰ク。卿、車ニ乘リ。我レ笠ヲ戴クモ。他日相逢ハ。車ヲ下ツテ而ノ揖セヨ。我歩行シ。卿馬ニ乗ルモ。他日相逢ハ。當ニ馬ヲ下ルベシト。

○桃園之盟 三國ノ時劉玄德。烏牛白馬ヲ殺シ。關羽張飛ト義ヲ桃園ニ結ブ。義ヲ結ブトハ。兄弟ノ義ヲ約スル也。

○君去春山誰共遊。鳥啼花落水空流。詩 晋ノ向秀字ハ子期。嵇康ト友トシテ善シ。嵇康笛ヲ善ス。事有リ司馬昭ノ爲ニ誅セラル。向秀且夕思慕シ。一日、康ノ舊居ヲ訪フ。時方ニ冬日。寒威凜々。日既ニ西傾シ。四隣寂々。心神轉々傷哀。會マ近隣ニ笛聲有リ。向、忽チ昔日ノ交遊ヲ憶ヘ。俯仰感慨。遂ニ思舊賦ヲ作ル。

吊君來此地。不覺双淚垂。春風孤墳花。閉落知為誰。同是看花客。分爲異世人。人生不如意。看花幾度春。嗚呼死與生。是非君自辨。化爲花下土。上有黃鸝啼。

冬日過茶山先生

故宅 中村岳湖

憶昨尋梅伴遠壩。重來有。感意悽如。讀書聲絕人安在。一抹寒烟水竹居。

感舊 方孝孺

王郎遠逐雲中戍。許子俄爲地下郎。重訪故人尋舊迹。嶺雲溪月抱堪傷。

道中憶胡季懷

珍重臨分白玉卮。醉中那暇說相思。天寒道遠酒醒處。始是憶君腸斷時。

右 周必大

還至端州驛前與

高六別處 張說

舊館分江口。凄然望落暉。相逢傳旅食。臨別換征衣。昔記山川是。今傷人代非。往來皆此路。生死不同歸。

懷吳中馮秀才

長洲苑外草蕭々。却計郵程歲月遙。唯有別時

今不忘。暮煙秋雨過楓橋。

○竹林七賢 晉ノ嵇康。阮籍。山濤。向秀。劉伶。阮咸。王戎。竹林ノ遊ヲ爲ス。

○竹溪六逸 唐ノ李白。孔巢父。韓準。裴政。張叔祖。陶河。徂徠山ニ居リ日夕沈飲。竹溪六逸ト號ス。

○好友 熊澤蕃山。釋元政ト友トシ善シ。蕃山、性、樂ヲ好ム。時々、小倉少將ト。三四ノ伶人ヲ拉シテ元政ノ蘆ニ至リ。蕃山ハ琵琶ヲ鼓シ。少將ハ琴ヲ彈シ。元政ハ和歌ヲ咏シ。各以テ興ヲ遣ル。

○三人一龍 魏ノ華歆。邴原菅寧ト友タリ。時人號シテ一龍ト爲ス。歆ヲ龍頭ト爲シ。原ヲ龍腹ト爲シ。寧ヲ龍尾ト爲ス。

○淮泗四夔 唐ノ盧東美。何長師。李華。韓衢友タリ。淮泗ノ間。號シテ四夔ト爲ス。

○管鮑之交 鮑叔、管仲ト友トシ善シ。嘗テ共ニ買ス。仲、利ヲ分ツニ多ク自ラ取ル。叔以テ貪ト爲サズ。仲ノ貧ナルヲ知レハ也。嘗テ事

ヲ謀リ。仲窮困ス。叔以テ愚ト爲サズ。時ニ利不利有ルヲ知レハ也。嘗テ仲三戰三走ス。叔以テ怯ト爲サズ。仲ガ老母有ルヲ知レハ也。

○唐ノ德宗ノ朝、楊寧、楊城ト莫逆ノ交ヲ爲ス。又魏元同、裴炎ト終始密交。人號ノ耐久之朋ト云フ。又、孟郊性介ニシテ諧合少シ。韓愈一見ノ忘形ノ交ヲ爲ス。又、陸贄ノ張鑑ニ於ル。漢ノ鄭當時ノ大父行ニ於ル。禰衡ノ孔融ニ於ル。晉ノ王戎ノ阮籍ニ於ル。皆其年齒ノ少老ヲ忘レテ交ル。稱シテ忘年之友ト云フ。烈士羊角哀。左伯挑ト死交ヲ爲ス。廉頗藺相如ト刎頸ヲ約ス。而ノ孔子ニハ傾蓋ノ交有リ。孔子、剡ニ之キ。程子ニ塗ニ遭ヒ。蓋ヲ傾テ終日談ズ。

氣慨之士附隱士

○誰出不由戶。何莫由斯道。古 北村篤所ハ伊藤仁齋ノ高弟也。常ニ

●偶成 大橋順藏
一片丹心七尺軀。維持
名教在真儒。恨他廊廟
皆巾幗。大八洲中誰丈
夫。

失題 久坂通武
皇國威名海外鳴。誰甘
烏帽犬羊盟。廟堂若賜
尙方劍。直斬將軍答聖
明。

秋感 佐賀侯
藤原齊正
八洲風雲衝天勁。手握
海內兵馬柄。悲歌一曲
吊者誰。鎮西男子藤齊
正。

無題 僧 清 狂
七里江山付犬羊。震餘

春色定荒涼。櫻花不帶
羶腥氣。獨映朝陽燻國
香。

辭世詞
安積武貞
捨生取義定男兒。四海
紛々何所期。好向京城
埋俠骨。待他天定勝人
時。

偶述 鍋島閑叟
孤鷗團結意氣豪。西南
決皆萬重濤。黠奴若有
窺邊事。羶血飽膏日本
刀。

書感 雲井龍雄
縱令不有拔山力。男兒
寧無椎秦寔傷時憤世非
好事。丹心元欲報皇國。

聖學ノ振ハザルヲ嘆ク、嘗テ作ル所ノ述懷ノ詩有リ。曰ク。少小涉
經史。性氣耽詞章。宿儒時濟々。共是丈人行。生平所畏敬。此日皆既
亡。後世何寂寞。聖學將榛荒。長安幾萬戶。無人共商量。所好與世乖。
爲狂又爲愚。

○新納憤慨 豊太閣、島津龍伯ヲ攻ム。龍伯降ル。其臣新納元忠憤慨。
龍伯ニ説テ曰ク。秀吉我城下ヲ蹂躪スルヲ。無人ノ境ヲ行ク如シ。
今ニ一矢ヲ加ヘズンバ。薩州男子ヲ盡ク婦女ヲシメント。

○類なき。高山櫻咲きまより。雲井と仰ぐ人多る。和 高山彦九郎
正之ハ毛ノ人也。學ヲ好ミ而シテ劍ヲ善ス。身長八尺。眼光炯々。豪雋
奇傑。慷慨ニシテ大志有リ。王室ノ式微ヲ痛嘆シ。獨身劍ニ仗テ海内
ヲ歴遊ス。其履ム所大凡二千餘里。三十有餘國。一錢ヲ齎サザル
ヲ以テ時ニ或ハ樹根嚴足ニ露宿ス。而シテ其視ル所ハ上ハ則チ忠臣
孝子。志士仁人。名卿大夫。賢主牧。學者文人。風流才子ヨリ。僧

道醫ト。百工衆伎ノ流。及博奕屠販遊俠角力ノ徒ニ至ルマデ。苟モ
常ニ殊ニシテ。而シテ世ニ崎ナル者ハ遠シト雖モ必ズ往而之ヲ見ル。

○雲濱生別赴難 梅田雲濱。豪爽ニシテ而シテ慷慨。安政元年九月。魯艦
大坂港ニ入ル。大和十津川ノ處士相會シ。之ヲ退ケント欲シ君ヲ招
ク。君即チ之ニ應ズ。會家道衰頽。妻病ヲ愈ヘズ子ハ飽ス。雲濱大
息。詩ヲ賦メ而シテ出ヅ。其詩ニ曰ク。妻臥病床兒叫飢。挺身直欲當戎
事。今朝死別與生別。唯有皇天后土知。

○敵有らばいで物見せん大丈夫の。彌生半のねむ氣覺志に 和 久坂
實甫ハ菘藩ノ士。人ト爲リ忠毅端亮。慷慨國ヲ憂フ。松浦知新。川本
正安等ト共ニ芳野金陵ノ門ニ在リ。意氣相投シ。袂聳決毗。相與ニ
時事ヲ談ズ。夏日金陵。其戎衣ヲ風簷ニ曝ス。通武之ヲ擯シテ榻ニ
踞シ。左右顧眄。勵聲疾呼シ。大礮。艦ヲ碎クノ狀ヲ爲シ。距躍曲踴。
殺獲之態ヲ爲シテ曰ク。攘夷ノ功已ニ成ル矣。快々ト。正安知新ノ

皇國英風尙未墜。醜虜何敢許縱恣。天津之鑑索非遠。城下之盟久所耻。君不見大和國疇昔全盛時。雄氣赫々威四夷。思之撫劍空鬱勃。霜寒羽陽城外月。

三島三郎拭劍小

影 薄井龍之

殺氣衝天慘似秋。丹心一片付吳鉤。莫笑十載大憔悴。誓斬紅毛紅髮頭。

兒島高德

齋藤監物

踏破千山万岳烟。鸞輿今日向何邊。短篋直入虎狼窟。一匕深探鯨鱗

淵。報國丹心嗟獨力。回天事業奈空拳。數行紅淚兩行字。附與櫻花奏九天。

辭世

大橋順藏

尊王攘夷豈無時。何計危言却被疑。至今蓋棺吾已矣。秋津洲裡一男兒。

絕命詞 賴三樹

排雲手欲掃妖燄。失脚墜來江戶城。井底痴蛙過憂慮。天邊大月欠光明。身臨鼎鑊家無信。夢斬鯨鯢劍有聲。風雨多年苔石面。誰題日本古狂生。

獄中偶作

徒。拍手之ニ和シテ曰ク。好々。吾亦何ツ後レント。亦擐シテ而ノ攘夷ノ態ヲ爲ス。

○川本正安 川本川安ハ越后十日町ノ人也。夙ニ皇運ノ復セズ。幕府ノ因循姑息。外夷ノ跋扈スルヲ憤リ。談此ニ及ベバ痛憤浩嘆。泣涕連如。髮豎チ手戰ヒ。刀ヲ拔テ柱ヲ擊ツニ至ル。常ニ林子平。高山彦九郎蒲生君平等ノ人ト爲リテ愛シ。又好ンテ高山氏ノ傳。及ヒ胡銓ノ封事。文天祥ノ正氣歌ヲ誦シテ曰ク。大丈夫ノ己ヲ行フ。當ニ此ノ如クナルベキ也ト。且泣キ且誦ス。

○浮田一蕙 浮田一蕙ハ京師ノ畫家也。慷慨ニノ俊節有リ。常ニ曰ク。畫ハ小枝ナリト雖モ。世教ニ益ナキニ非ズ。徒ニ美花美禽ヲ描キ。以テ人目ヲ喜ハスハ我レ爲サズト。嘉永ノ年米艦至ルヤ。慨然決起シ。長藩ニ請フテ其子可成ヲ其隊伍ニ編ス。既ニノ米使、幕府ト和ヲ講ノ去ルヤ。一蕙痛憤。畫ヲ乞フ者有レバ。必ズ元寇之役神

風虜艦ヲ覆スルノ圖。兒島公櫻樹ニ題スルノ圖ヲ畫シテ之ニ與フ。

○梶原平藏兵衛 梶原平藏兵衛ハ何許ノ人ナルヲ知ラズ。醫ヲ業トシテ江戸ニ居ル。妻撃ナシ。獨リ一老僕有リ。貧素晏如。介懸ニノ義氣有リ。嘗テ謂フ。太平日久シク。人々文恬武熙。不幸或ハ外寇有ラハ。將何ヲ以テ事ニ從ハン。宜シク今ニ武ヲ講ヨ。以テ万一ニ備フ可シト。乃チ僕ニ命シ。竭蹶シテ到リ。寇賊來レリト告ゲンメ。倉皇、鎧ヲ擐シ。薙刀ヲ提ゲ。踴躍シテ樓ニ登リ。顧眄叱咤。薙刀ヲ輪揮シテ擊刺ノ狀ヲ作ス。是ノ如キヲ毎日。

○渴不飲盜泉之水 魏ノ安釐王秦ノ兵ヲ恐レ。新垣衍ヲ遣ニ説シメテ曰ク。共ニ秦ヲ尊ンテ帝ト爲ント。魯仲連往テ術ニ見ヘテ曰ク。彼秦ハ禮義ヲ棄。首切チ上ブノ國也。即シ肆然天下ニ帝ヲラハ。則チ連、東海ヲ踏テ而ノ死スル有ン耳。

丸山作樂
夢繞長白山。魂迷曉綠
江。獄中天地小。空使老
英雄。

到瓊浦途上

久坂通武

路到長崎意氣豪。青山
絕處是鯨濤。慨然放眼
撫孤劍。壓海蠻船百尺
高。

偶成

山田真南

摸佛還擬獨。紛々無歸
宿。朝令而暮更。恐非生
民福。要路暗大勢。曲學
佞媚足。欲報聖主恩。撫
己徒痛哭。

古意

陸放翁

繼足餉飢鷹。鷹飽意未

平。伏櫪豈不安。老驥終
悲鳴。士生固欲達。又懼
徒富貴。素願有未伸。五
鼎淡無味。蒨屋秋雨漏。
稻波春水深。長歌傾濁
酒。舉世不知心。

商山廟

白居易

臥逃秦亂起安劉。舒卷
如雲得自由。若有精靈
應笑我。不成一事謫江
州。

山中答俗人 李白
問余何意棲碧山。笑而

○婦女憂國 魯ノ漆室邑ノ女。魯君ノ危クシテ而ノ嗣君ノ幼ナルヲ憂
フ。鄰婦曰ク。是文夫ノ憂也。女曰ク。魯ニ患有レバ。婦女モ亦果
安クニ避ンヤ。

○女俠鎌倉 鎌倉ハ上總市原郡池和田農民ノ女。邑ニ墟有リ。相傳フ
。里見氏ノ將某ノ城址ニシテ。城ハ北條氏ノ爲ニ陷ラル、モノト。鎌
倉ノ家其下ニ在リ幼ヨリ之ヲ聞キ。長ノ野史ヲ讀ムニ及テ。深ク里
見氏ノ祀ラザルヲ悲ミ。毎ニ泣テ郷人ニ謂テ曰ク。州民誰カ里見公
臣民ノ胃ニ非ラン。而ルニ國亡ビテ二百餘年。一人トシ興繼ヲ思フ
無キハ何ツヤ。事極テ難シト雖モ。豈其時機ナカラシ哉。憾ムラシク
ハ身、生テ女子ニ受クルヲ。然リト雖モ猶ホ時有リ機有ラン。吾決
ノ無鬻ヲ以テ人ニ後レズト。

○巢父仲素 堯、天下ヲ以テ許由ニ讓ル。巢父之ヲ聞テ耳ヲ洗フ。樊

仲素方ニ牛ヲ牽テ下流ニ飲シム。其牛口ヲ汚サンコト恐レ。亦驅テ
而シテ還ル。

○索處離群。高踏風塵外。閉門杜客。只向烟羅寄此生。卜部兼好幼ニ
シテ而シテ聽悟。好テ老莊ノ書ヲ讀ム。文才有リ。和歌ヲ善ス。吉田ニ
居ル。後、木曾ニ遊ビ。其山水ヲ愛シ。廬ヲ結ンテ居ル焉。一日國守、
衆ヲ帥テ其地ニ獵ス。兼好其喧擾ヲ厭ヒ。和歌ヲ賦シ乃チ郷里ニ還
ル。歌ニ曰ク。古毛麻多。宇伎與奈利計利與會奈賀良。於毛比志麻
麻能邪麻奢刀毛我那。

○分歲月作間人。放溪山爲逸老。漢ノ夏黃公。東園公。角里先生。綺里
季。同シク商山ニ隱レ。高祖累聘スレモ起タズ。歌フテ曰ク。莫々高
山。深谷透迤。曄々紫芝。可以療饑。唐虞世遠。吾將安飯。駟馬高蓋。
其憂甚大。富貴之誑人。不如貧賤之得志ト。世之ヲ商山ノ四皓ト云フ。

○弘景辭聘 漢弘景。帝ノ徵ニ應セズ。詩ヲ以テ對テ曰ク。山中何所

不答心自開。桃花流水
杳然去。別有天地非人
問。

山中與幽人對酌

李白

兩人對酌山花開。一杯
一杯復一杯。我醉欲眠
卿且去。明朝有意抱琴
來。

題張氏隱居

杜甫

春山無伴獨相求。伐木
丁々山更幽。澗道餘寒
歷水雪。石門斜日到林
丘。不貧夜識金銀氣。遠
害朝看麋鹿遊。乘興杳
然迷出處。對君疑是泛
虛舟。

嚴陵釣臺

黃滔

終向煙霞爲野夫。一竿
竹不換簪裾。直鈎猶逐
熊羆起。獨是先生真釣
魚。

桐江

汪遵

光武重興四海寧。漢臣
無不受浮榮。嚴陵何事
輕軒冕。獨向桐江釣月
明。

書感

雲井龍雄

沽酒休沽澹泊酒。擇友
須擇澹泊友。欲行則行
止則止。物之羈絆豈肯
受。看來迷路猶未遠。欲
回其東須及今。鳳兮之
歌愛于心。是非安足容
我喙。吹我簫兮彈我琴。

有。嶺上多白雲。只可自怡悅。不堪持贈君。

○草堂居士 唐ノ魏野。屢々詔スレテ起タス。辭ノ曰ク。九重ノ丹詔。彩鳳ニ銜ミ來ラ教ルヲ休ヨ。一片ノ野心已ニ白雲ニ留住セラルト。草堂居士ト號ス。

○松風浣胃 弘景太ダ松風ヲ愛ス。庭院皆松ヲ植ユ。其聲ヲ聞ク毎ニ欣然トシ其下ニ往ク。曰ク。此以テ十年ノ塵胃ヲ浣滌ス可シト。

○意富貴何如草露。習懶庭艸敢不除。聊借蛙鳴慰磊塊。北齊ノ孔珪。都官尙書ト爲テ樂マズ。門庭ノ内、草萊剪ラズ。中ニ群蛙有リ。珪、其鳴ヲ聽ケハ便チ欣然トシ曰ク。此以テ兩部ノ鼓吹ニ當ル。

○陶淵明 晋ノ陶淵明。五柳ヲ門ニ種ヒ。五柳先生ト號ス。

○鋤月種蘭花。焚香修菊譜。世外是吾心。商略所厭聽。晋ノ阮籍、孫登ニ蘇門ニ遇ヒ。與ニ今古ヲ商略セントス。登、一モ應セズ。籍退キ。半嶺ニ至ルニ及テ聲有ルヲ聞クニ登ノ嘯也。

○皮履先生 中根東里、學既ニ成リ。江戸辨慶橋畔ニ僑居シテ生徒ヲ教授ス。常ニ葆光自ラ晦マシ。其資乏シケレハ則チ綿絲繡針ノ類ヲ賣リ。又竹皮履ヲ造リテ之ヲ售ル。數日ノ費錢ヲ得レハ。則チ戸ヲ閉テテ書ヲ讀ム。人之ヲ目ノ皮履先生ト曰フ。

○間中詩卷愁中酒。波上弄流光。蘆間聽清風。唐ノ張志和。隱居シテ仕ヘズ。自ラ烟波釣徒ト號シ。又、玄真ト號ス。舟中ニ居テ自ラ娛ミ。名テ浮家泛宅ト云ヒ。若蘆ノ間ニ往來ス。

○絕意塵纓。怡情黃鳥。今日亦往訪嚶々。双柑斗酒以樂之。唐ノ戴顓。字ハ子和。春日ニ双柑斗酒ヲ携フ。人何ニ之クト問フ。答テ曰ク。往チ黃鸝ヲ聞クナリ。此レ實ニ俗耳ノ砒鍼。詩腸ノ鼓吹。

○林逋友鶴 宋ノ林逋孤山ニ隱レテ吟咏ヲ縱ニシ。双鶴ヲ養フテ之ヲ樂ム。鶴モ亦善ク狎レ。之ヲ放テハ則チ飛テ雲ニ入り。盤旋之ヲ久フノ復タ籠ニ入ル。

清音洗耳兼洗心。把月
爲枕雲爲衾。悠然好臥
紅塵外。

山中懶睡

王守仁

掃石焚香任意眠。醒來
時有客談玄。松風不用
蒲葵扇。坐對青崖百丈
泉。

春日偶成

宮澤雲山

退之驅馬八千里。蘇武
牧羝十九年。無事閑人
慙二老。滿窓晴日聽鶯
眠。

五十

○何となく心安さのまざる哉。世はすて、こと住べのりけれ和歌 宋
ノ陳搏、希夷先生ト號ス。初、武當山ニ隱レ。後、華山雲臺山觀ニ隱
レ。悠遊自適好睡歌ヲ作ル。

剛直勇壯

○汲黯不諱 漢ノ汲黯、嚴チ以テ憚ラル。切諫避ズ。武帝嘗テ文學ヲ
招テ曰ク。吾云々セント欲スト。黯即チ曰ク。陛下内多慾。而ノ外、
仁義ヲ施ス。奈何ソ堯舞ノ治ニ效ハント欲スルヤ。

○鳳岡豪放 林鳳岡豪氣不屈。嘗テ冬日某貴戚ニ造ル。鳳岡時ニ年既
ニ老衰。傲然トシテ曰ク。老人頭冷テ堪ル能ハズト。乃チ巾ヲ懷中
ニ取テ之ヲ著ク。既ニノ身体痒チ覺ユ。乃又曰ク。少シク手ヲ伸テ
之ヲ搔ケ。

○朱雲折檻 漢ノ安昌侯張禹專横ナリ。朱雲因テ上書ノ曰ク。臣願

述懷 藤田東湖

三決死矣而不死。二十
五回渡刀水。五乞閑地
不得閑。三十九年七處
徙。邦家隆替非偶然。人
生得失豈徒爾。自驚塵

垢盈皮膚。猶餘忠義填
骨髓。嫖姚定遠不可期。
丘明馬遷空自企。苟明
大義正人心。皇道笑患
不興起。斯心奮發誓神
明。古人有云斃而止。

失題 西鄉隆盛

我有千絲髮。幾々黑於
漆。我有一寸心。皓々白
於雪。我髮猶可斷。我心
不可截。

偶成(一首在前)似

ハクハ尙方斬馬ノ劍ヲ請ヒ。佞臣一人ノ頭ヲ斬テ以テ其餘ヲ厲サ
ント。帝、誰ソト問ヘハ。曰ク。安昌侯張禹ト。帝怒リ雲ヲ掉シ之ヲ
斬ラシム。雲、殿檻ヲ攀ツ。檻折ル。雲曰ク。臣、龍逢比干ト地下ニ同
遊スルヲ得ント。

○周軒剛直 佐藤周軒小室侯ニ仕フ。侯ノ妾冢子ヲ擧グ。諸臣皆、妾
ノ幸ヲ賀ス。獨周軒色ヲ正シテ曰ク。爾今ヨリノ後。子有ルヲ恃テ
以テ驕肆ナル勿レ。侯家ノ禍福茲ニ在リ。而ノ爾ノ禍福モ亦茲ニ在
リト。

○李元紘公平 唐ノ李元紘、雍州司戶ニ遷ル。時ニ太平公主寵有リ。
僧ト碾磑ヲ争フ。紘乃チ判ノ寺僧ニ還ス。長史竇懷真懼レ促シ改メ
判セシム。紘、判尾ニ大署シテ云フ。南山可移。此判終无搖動ト。

○張陵叱咤奪梁冀劔 后漢ノ張陵、尙書タリシ時。大將軍梁冀。劔ヲ
帶ヒテ省ニ入ル。陵之ヲ叱シ。虎賁ニ命ジ其劔ヲ奪ハシム。

五十一

伊藤伯

山田寬南

國權久不伸。綱紀殆墮地。我觀要路臣。所爲如兒戲。山河付鬻奴。法衙任外吏。柔剛君休說。柔剛有何異。

書感

雲井龍雄

精豪自許國干城。胸裏常儲百萬兵。齊趙淪盟秦業立。蜀吳構難魏謀成。輸誠或不回天意。守節只須舍我生。脫却人間多少累。橫空正氣浩然盈。

○悔齋折辱 竹村悔齋性剛直。才學ヲ以テ自ヲ矜ル者ヲ見レバ。必ズ

面頰赤筋ヲ發ノ之ヲ折ク。安ニ利ヲ貪リ名ヲ求ムル者有レバ。亦必

ラズ決然折辱ス。嘗テ一儒生有リ。近人ノ詩ヲ選刻シ以テ利ヲ貪ル

。財ヲ出ス者ハ即チ玉石混收ス。刻成ル。大ニ人ヲ酒樓ニ會ス。悔齋

深ク之ヲ鄙ミ。長篇ヲ作り。之ヲ袖ニシテ宴ニ赴キ。衆賓填溢ノ中

ニ於テ痛ク之ヲ譏彈ス。又關西ノ詩伯菅茶山。春川釣魚圖ヲ江都ニ

寄セ。普ク名流ノ題詠ヲ索ム。悔齋乃チ詩ヲ贈テ曰ク。主組從來不

攪情。一蓑烟雨寄平生。翻持圖畫。求題句。猶恨釣魚是釣名。

○蒼鷹 漢ノ到都。中尉ト爲ル。權勢ヲ避ズ。人號シテ蒼鷹ト曰フ。

○與霹靂戰 北齊ノ薛孤延。神武ニ從フテ馬ヲ閱ス。會マ大雷火、浮

屠ヲ燒ク。延大ニ呼ハリ浮屠ヲ遶ツテ走ル。火遂ニ滅ス。延ガ鬚及

ヒ馬鬣皆焦ス。

過鳴門

伊藤聽秋

丈大何魚躍有聲。阿山突兀淡山橫。好奇男子何辭險。風雨鳴門載酒行。

獄中作

橋本左内

二十八年夢裡過。願思平昔感滋多。天祥大節胸心折。土室吟猶正氣歌。

○○

西鄉隆盛

白髮衰顏非所意。壯心

○不悞震雷 晋ノ諸葛誕、豪邁無双。嘗テ柱ニ倚テ讀書ス。霹靂其柱

ニ震ス。誕自若タリ。膝放、夏日、石ヲ枕ニノ臥ス。雷震ノ枕瓦解ス。

傍人驚悞セザル莫シ。而ノ放ハ則チ自若。

○常山豪氣 湯淺常山ハ備前ノ人嘗テ某侯ニ仕ヒ。命ヲ奉ジテ讚ノ

丸龜ニ赴ク。海上颶風俄ニ起リ。波濤山立。舟殆ント覆没セントス。

衆皆生色ナシ。常山獨リ神色自若。即吟シテ曰ク。南溟奉使々臣槎。

直破長風萬里波。忽值怒鬣似奔馬。起提雄劍叱龍鼉。

○尙齋自若 三宅尙齋氣象豪爽。嘗テ君ノ怒ニ觸テ囹圄ニ繫ガル。乃

チ謂フ。古人刑セラレテ猶能ク書ヲ著ス。吾寧ツ爲ス無クシテ斃ル、

ヲ待ンヤト。然レ尺筆墨得可カラズ。因テ臂ヲ刺シ。血ヲ用テ狼毫

録三卷ヲ著ス。一日君ノ使者至ル。尙齋即チ詩ヲ作テ之ニ示ス。曰

ク。富貴壽夭不二心。但向面前養誠心。四十餘年學何事。笑坐獄中鉄

石心。

橫劍愧無勳。百千窮鬼
吾何畏。脫出人間虎豹
群。

○楠公素位 湊川ノ戰敗レ。楠正成民家ニ入り。將ニ自殺セントス。
尊氏使ヲ遣ハシ。之ヲ止メテ曰ク。足下寡ヲ以テ衆ニ敵ス。忠勇絶
倫。今當ニ河内ニ販リ以テ再舉ヲ圖ル可シ。宜シク自盡スベカラズ
ト。正成笑テ曰ク。大丈夫。功成レハ則チ名。竹帛ニ垂レ。成ラザレ
ハ則チ血。草野ニ塗ル。今ヤ軍敗レ兵疲レ。身又々淋々百創ヲ蒙ル。
死ノ天恩ニ報ズルノ時也ト之ヲ辭シ。正季ト互刺ノ而シテ死ス。

○濮真勇壯 明ノ濮真、高麗ヲ征シテ執ヘラル。高麗王其驍勇ヲ愛シ
之ニ降ヲ勸ムレト聽カズ。王怒テ之ヲ殺サント欲ス。真曰ク。大丈
夫赤心有リ。豈肯テ汝ニ屈センヤト。即チ刀ヲ抽キ心ヲ剖テ之ニ示
シ死ス。王大ニ悞レ。使ヲ遣ハシ入朝シテ罪ヲ謝ス。

○有定壯烈 元ノ福州ノ平章陳有定。明ニ捕ヘラレ。送ラレテ京師ニ
至ル。入テ明ノ太祖ニ見ユ。太祖其降ラザル所以ヲ詰ル有定。聲ヲ
勵マシテ曰ク。多談スル勿レ。安ク我死ニ加フルヲ得ンヤト

安積武貞

劍舞歌

日出國分有名寶。百鍊
精鏡所鍛造。光鋸電閃
夏尙寒。風蕭々兮髮衝
冠。請看日出男兒膽。踏
白刃兮犯敵丸。犯敵丸
兮陷堅陣。縱橫搏擊山
岳震。有死之榮無生辱。
不須將靈受約魚。

鏡槍歌

僧 月 性

天下散亂法王場。指揮
如意說邊防。八面談鋒
三尺喙。銳利如槍不可
當。大聲不入人里人耳。聞
者驚愕走且僵。但我赤
心愛國誠。徹透武人金
鉄腸。布施來謝維何物
傳家丈八緣沈槍。良工

○伊企儼 伊企儼ハ欽明帝ノ時ノ軍人也。新羅征討ノ軍ニ從事シ。魁
敗レテ擒ニセラル。新羅、之ヲ勸誘スレト降ラザルヲ怒リ。刀ヲ拔
テ之ニ逼テ曰ク。汝須ラシク云フベシ。日本ノ將我鬻肉ヲ餒ヘト。伊
企儼、聲ニ應ノ曰ク。新羅王子ガ鬻肉ヲ餒ヘト。竟ニ殺サル。

○蘇武堂々 匈奴蘇武ヲ留メ。拜セシム。武肯セズ。匈奴、刀ヲ以テ之
ニ臨ム。武曰ク。堂々タル漢使安ソ能ク四夷ニ屈センヤト。

○關羽 蜀ノ關羽流矢ニ傷ケラル。華佗、刀ヲ以テ肉ヲ破リ。骨ヲ刮
テ毒ヲ去ル。羽、自若トシテ碁ヲ圍ム。

○雷萬春 唐ノ雷萬春、令狐潮ニ雍丘ニ圍マレ。城上ニ立テ潮ト語ル
。六矢有リ。面ニ中ル。動かカズ。潮、木偶人タルカト疑フ。其實ヲ謀シ
得。大ニ其勇氣ニ驚ク。

○杜伏威剛勇 唐ノ杜伏威。陳稜ト戰フ。伏威射ラレ。箭、額ニ中ル。
怒ツテ曰ク。復セズンハ箭ヲ拔カズト。馳テ稜ノ軍ニ入り。射者ヲ

百鍊一條鉄。三稜磨爲
凜秋霜。預期決戰攘夷
日。縱橫馳突貫豺狼。善
用鍊槍驍勇號。不讓朱
梁王彥章。

日本男兒歌

片山東海

風雷叱咤幾英雄。霜鏢
影冷日本刀。阿爹壯歲
奏偉功。我亦誓國無餘
念誓爲祖國分亦可。豈
與鼠輩事苟娛。榮光不
敢讓阿爹誓爲祖國効此
軀。此軀常期超人群。願
爲武夫尋裔胄。昨夜夢
中侵敵軍。硝烟彈雨獨
健闘。健闘未終夢先覺。
喇叭一聲何處來。憤然

蹶起特不惡。擊節昂然
叫快哉。恰看軍旅過我
鄉威嚴龍躍身無暇。最
矣輕騎真特物。調兵講
武各歸舍。我見之分茫
然久。慷慨何得開双眉。
男兒遺憾君知否。此軀
未得報國期。風雷叱咤
幾英雄。霜鏢影冷日本
刀。河爹壯歲奏偉功。我
亦誓國無餘念。

豊太閤

上田陸舟

想昔三韓席捲秋。森茫

穫テ之ヲ斬リ乃チ箭ヲ拔ク。

○鎌倉權五郎 鎌倉權五郎景政、源義家ニ從ヒ二衛ヲ金澤ノ壘ニ攻
ム。箭有リ。眼ニ中ル。大ニ怒リテ自ラ其賊ヲ射殺シ。而ル後ニ其矢
ヲ拔ク。時ニ年甫テ十六。

○範長勵子 熊山ノ戰。兒島高德創チ蒙ムルハ甚シク。幾ント死セン
トス。父範長之ヲ勵シテ曰ク。在昔鎌倉權五郎景政。敵ニ其眼ヲ射
ラル。矢ヲ拔ザルハ三日。己ヲ射ル者ヲ索テ之ヲ殺ス。汝何ツ之ヲ
鑑ミザル。起テ。果シテ是ノ如クンハ豈能ク大事ニ任ゼンヤ。

○由利八郎勇壯 源賴朝陸奥ヲ征シ泰衡ヲ滅ス。泰衡ノ家人由利八
郎。馬ヨリ墜テ擒ニセラル。賴朝召ノ見。叱ノ曰ク。吾先將軍ヨリ以
來。汝ノ主ヲノ奥州ヲ守ラシム。今何チ苦ンテ叛スルヤ。且ツ奥州
ハ天下ノ大國。帶甲數万。乘騎數千。粟十年ヲ支フ。而ノ一月モ之
ヲ守ル能ハズ。何爲ツ其レ怯弱ナル哉ト。八郎瞋目。怒テ曰ク。何爲

ツ叛ト謂フ。夫レ義經ハ罪無シ。汝、強テ之ヲ吾主ニ殺サシメ。而
反ツテ之ヲ名トノ以テ我ヲ伐ツ。其行爲ノ亡狀ナル之ヲ何トカ謂
ハン。且ツ謂ヘ。勝敗ハ兵家ノ常。大必オシモ小ヲ制スルナラズ。智
必オシモ愚ニ勝ルナラズ。汝ノ父義朝。關東十六州ノ都督タリ。身
ニハ天下ノ重兵ヲ握ル。而ノ平治ノ亂。平公ノ一撃一日モ之ヲ防グ
能ハズ。挺身出亡。忠致輩ニ醜死ス。是レ其怯弱吾主ニ孰レツヤト。
賴朝答フル能ハズ。

○壯丈夫源爲朝 爲朝年十三。氣、既ニ牛ヲ食フ。西海ニ放タレテ豊
後ニ居ル。大小二十餘戰。向フ所敵ナク。遂ニ九州ニ覇タリ。年十九
ニノ京師ニ還ル。身ノ長九尺。大膽多力。能ク九石ノ弓ヲ挽ク。其威
風ノ堂々タル熊ノ如ク。羆ノ如シ。

○義家威名 八幡太郎義家材武絶倫。人以テ神ト爲ス。一夜微行ノ人
ノ家ニ至ル。劫盜十數有リ。炬ヲ持シテ門ヲ窺フ。犬吠テ中門ヨ

滄海見如溝。猿郎一喝聲何大。震動朱家四百州。

咏史 賴山陽

碧蹄館下羽書馳。敵勢如潮獨力支。萬死兵機立談決。誰論華押字成遲。

橫槩英風獨此公。內生神裡歛軍鋒。中原若未收雲雨。河北渾歸獨眼龍。

從軍行 王昌齡

青海長雲暗雪山。孤城遙望玉門關。黃沙百戰

リ出ツ。從者宗任之ヲ怪ミ。射ルコトニ。義家之ヲ誰何ス。盜其聲ヲ聞キ相驚テ曰ク。咄々。八幡公在リト。乃チ逃ル。又一日右大臣藤原賴宗ノ家ヲ過リ。基ヲ圍ム。會マ犯人有リ。力ヲ拔テ庭ニ趨ル。義家在ルヲ聞キ。刀ヲ棄テ縛ニ就ク。義家ノ從士數十。忽チ外ヨリ來リ。之ヲ擁シテ而ノ出ツ。

○清正勇名 加藤清正勇武絶倫。向フ所破ラザル莫ク。征韓之役。敵軍呼テ鬼將軍ト曰ヒ。其旗ヲ望メバ。多クハ戰ハズ而ノ潰ユ。

○蔡承先 蔡祐、字ハ承先。齊ノ神武ト芒山ニ戰フ。時ニ明光鎧ヲ着ス。向フ所敵無シ。人號シテ鉄猛獸ト曰フ。

○直政赤鬼 井伊直政ハ家康ニ仕フ。少ニシテ將帥ノ器有リ。從フテ四方ヲ攻ムルニ。敵之ヲ畏レ。其部下ノ甲仗皆赤キヲ以テ呼テ赤鬼ト曰フ。

○朱亥猛威 秦、公子無忌ヲ召ス。無忌行カズ。朱亥チノ壁ヲ奉シテ

穿金甲。不破樓蘭終不還。

秦時明月漢時關。萬里長征人未還。但使龍城飛將在。不教胡馬度陰山。

韞繪 那珂梧樓

妾從將軍出桑梓。將軍不歸妾當死。將軍名重妾身輕。殉有女子將軍耻。滿目飛箭亂紛紛。死生之路從此分。匹馬潰圍販奉佛。一生不出舊山雲。任他世人謾詆毀。妾不自惜々將軍。

蛾眉隊詩

大橋一藏

羽林養虎中書狼。咆哮

行カシム。秦王大ニ怒リ。之ヲ虎圍中ニ入ル。亥、瞋目虎ヲ視ル。目皆裂テ而ノ血濺ク。虎畏縮シ。終ニ敢テ動カズ。

○勇婦巴 巴ハ源義仲ノ妾。勇武善ク戰フ。秩父重忠、智勇非凡。而ノ猶制スル能ハズ。東軍ノ將内田家吉。力數人ヲ兼ヌ。馬上ニ巴ヲ捉フ。巴反ツテ之ヲ殺ス。

○坂額女 越後ノ城、資盛ノ叔母坂額。奇醜勇武。善ク戰ヒ善ク射ル。

○娘子軍 唐、平陽公主。柴紹ニ嫁ヌ。初、高祖、兵ヲ起スヤ。紹家賞ヲ傾ケテ亡命ヲ招キ河ヲ渡ル。公主、精兵數万ヲ率ヒ。往テ秦王ト渭北ニ會ス。京師稱シテ娘子軍ト曰フ。

○形名妻 上毛野、形名ノ妻。形名ニ從フテ蝦夷ヲ征ス。形名軍敗レ。壘ニ入テ僅ニ保ツ。夷四周シ。壘亦危シ。乃チ潛ニ遁ント欲ス。妻諫テ之ヲ止メ。酒ヲ進メテ之ヲ醉ハシメ。而ノ自ラ其劍ヲ佩ビ。數十ノ婢女ヲ引テ鳴サシメ以テ兵勢ヲ助ク。夷之ヲ聽キ。以爲チソ

中原誰能防。滿天妖氛
斷人腸。美人夜起歎幽
床。試投玉釵出蘭房。娥
眉傳呼戒軍裝。或提薙
力跨驕驪。氣壓斗牛吞
八荒。或按長劍脫彼蒼。
紅裙映日勢堂々。誰言
長袂難揮槍。一呼千兵
我軍張。誰道纖手如螳
螂。請看鎮西女子腸。曉
斫霜砒走王郎。夜歸軍
營炊糗糧。戰血濕衣不
遑洗。孩兒求乳情難忘。
傳道良人斃東岡。又聞
阿兄死南塘。敗檄入營
氣愈振。手刃孩兒屠少
娘。生爲囚虜食糝糠。死
伴良人垂芬芳。

壁中猶兵多シト。近テ之ヲ攻メズ。是ニ於テ散卒亦聚リ。擊テ大ニ
夷軍ヲ破ル。

○山脇東洋 幼ニシテ父ヲ失フ。母駒井氏。性質端正。頗ブル善ク書
ヲ讀ミ。大義ニ通曉ス。東洋ヲ帥ユルヤ。嚴ニ義方ヲ以テス。東洋弟
有リ。敬長ト云フ。母恒ニ二人ヲ書ヲ樓上ニ讀マシム。其楷梯ヲ
奪ヒ。飯ヲ吃シ厠ニ行クノ外。樓ヲ下ルコトヲ許サズ。二子因テ大ニ
憤勵シ。遂ニ大名ヲ揚ク。附錄

○伏劍戒子 漢王陵、兵ヲ以テ漢ニ屬ス。項羽陵ノ母ヲ執ヘテ陣中ニ
置キ。以テ陵ヲ招カント欲ス。陵ノ母之ヲ憂フ。會マ陵ノ使至ル。母
私ニ之ヲ送ツテ曰ク。漢王ハ長者也。吾兒老妾ノ故ヲ以テ二心有ル
勿レ。妾死ヲ以テ之ヲ望ムト。即チ劍ニ伏ノ而ノ死ス。全上

穎兒 敏才 頓智

○龍駒鳳雛 晋ノ陸機。少ニシテ聰穎。閔鴻之ヲ見。奇トシテ曰ク。此兒
若シ龍駒ニ非レバ必ズ是レ鳳雛ナラント。

○富弼王佐之才 宋ノ富弼。幼ニシテ篤學。度量有リ。范仲淹一見、歎
シテ曰ク。此レ王佐ノ才也。

○聖童 漢ノ任延。年九歲ニシテ詩書春秋ニ明ナリ。聖童ト號セラル。

○神童 唐ノ賈黃中。七歲ニシテ及第ス。李昉、詩ヲ贈テ曰ク。七歲神
童古所難。賈家門戶有衣冠。

○解縉 解縉ハ明ノ吉水ノ人。七歲ニシテ文ヲ能クシ。弱冠登第シテ庶吉
士ト爲リ。封事凡ソ万餘言ヲ上ル。次テ監察御史ト爲ル。

○春花秋月意自在。筆舞墨歌眞才子。菅原道真公幼ニシテ穎敏。年十
一ノ時。父是善卿試ニ寒夜、即事ヲ賦セシム。公即チ曰ク。月輝如晴
雪。梅花似照星。可憐金鏡轉。庭上玉房馨ト。是善驚歎ス。

○李賀 唐ノ李賀年七歲ニシテ詞章ヲ能ク。韓退之、皇甫湜ト其家ニ

過ギリ詩ヲ賦セシム。賀乃千高軒過ヲ賦ノ曰ク。華裾織翠青如葱。金鏡壓轡搖玲瓏。筆ヲ援リ輒千成ル。二人其素構ノ如キニ驚ク。

○咄嗟靈妙。藝苑早知腸是神。王元之。七八歳ノ時。召サレテ太守畢文鍼ニ至ル。文鍼、席上、詩句ヲ出ス。曰ク。鸚鵡能言寧比鳳ト。之ニ次セシム。元之即チ曰ク。蜘蛛雖巧不如蠶ト。一坐嘆服ス。

○高倉帝仁明。高倉帝幼ニノ睿明。才藻英發。年甫テ十歳。宮庭ニ一楓樹有リ。帝太マ之ヲ愛シ。人ヲシテ之ヲ監セシム。一日仕丁、其枝ヲ折テ酒ヲ煖ム。監者大ニ驚悞シ。具サニ其狀ヲ奏ス。帝從容トシテ曰ク。唐詩ニ言フ有リ。林間燒酒燒紅葉ト。仕丁ノ風流愛ス可キ哉ト。其罪ヲ問ハズ。

○連城異寶照乘奇珍。想見父母胸中悅。清太宗天資仁孝誠恭。而シテ聰明睿敏。一タヒ聽ケハ忘レズ。一タヒ見レハ即チ記ス。七歳以後。能ク一切ノ家事ヲ治メ。復タ太祖ヲ煩サズ。

○曹冲量象。魏ノ曹冲字ハ蒼舒。幼ニシテ穎敏。魏祖、吳國ノ大象ヲ得。其輕重ヲ知ル莫シ。蒼舒曰ク。象ヲ舟ニ置キ。其水痕ヲ刻シ。更ニ他物ヲ載セテ之ニ稱ハシム。則チ大較知ル可ト。

○南山遺芳意氣大。嬉戲亦傲討賊狀。想胸中感慨幾多。信哉梅檀二葉。馨。楠正行年甫テ十一。父正成ニ櫻井驛ニ訣シ。其遺言ヲ奉シテ河内ニ歸ル。國賊ヲ討シ父ノ讐ヲ復スルヲ以テ志ト爲シ。嬉戲常ニ討賊ノ狀ヲ爲ス。

○元就。毛利元就年甫テ十二。嚴島ノ神廟ニ賽ス。歸途、從者ニ問フニ其祈ル所ヲ以テス。從者曰ク。他無シ。唯ダ郎君ガ他日、山陰山陽二道ヲ統一スルヲ祈ルト。元就喜ハズシテ曰ク。汝何ツ祈ル所ノ小ナル。夫レ事。天下ヲ得ント欲シテ漸ク一方ヲ得。一方ヲ得ント欲シテ漸ク一國ヲ得ルモノ也。汝何ツ天下ニ覇ヲランヲ祈ラザルヤト。

○趙大王 宋ノ理宗皇帝、初ノ名ハ與莒。幼ニシテ弄ヲ好マズ。群兒聚嬉スルモ。與莒獨リ高ニ登リ。坐シテ動カズ。長上見ル者。指シテ以テ群兒ニ語テ曰ク。汝等蓋ソ此人ニ倣ハザル。恰モ是レ一大王ト。群兒每ニ其下ニ羅拜ス。遂ニ趙大王ノ號有リ。

○才媛清氏 清氏ハ一條帝ノ時ノ宮媛。慧ニシテ而ノ學有リ。枕草紙ヲ著ス。帝嘗テ雪ノ朝ニ宮中ニ坐シ。願テ云フ。香爐峯ノ雪ト。蓋シ白居易ノ詩ニ。香爐峰雪揆簾看ト云フニ取ル也。清氏即チ默起シ。前ステ御簾ヲ褰ク。帝大ニ其慧ニ驚ク。

○三成進茶 石田三成少時一僧寺ニ事フ。一日豊臣秀吉、野ニ放鷹シ寺ニ至ル。渴スル甚シク茶ヲ乞フ。太ダ急ナリ。三成乃チ一大椀ノ茶ヲ進ム。微温ニシテ盛ルコト七八分ナリ。公一喫シテ快ト稱ス。更ニ一椀ヲ進ム。少シク熱クヌ。半椀ニ滿タズ。公徐ナリニ喫シ了リ。

又一椀ヲ要ム。是ニ於テ代フルニ小椀ヲ以テシ。太ダ熱クシテ遽ニ口ヲニス可カラズ。公大ニ其敏才ニ感シ。請テ而ノ携ヒ歸テ小臣ト爲ス。

○東方朔 漢武帝、上林獻ル所ノ棗ヲ取り。東方朔ヲ呼デ曰ク。叱々來々。先生、筐中ハ何物ナルヤヲ知レリヤト。朔曰ク。來々ハ棗也。叱々ハ四十九。筐中恐ラクハ棗、四十九枚ナラン。帝大ニ笑フ。

○慧能 五祖。教ヲ慧能ニ傳ヒント欲シ。粳米三粒及ビ棗ヲ以テ之ニ與フ。蓋シ三更ニ早ク來レトノ隱爲也。慧能之ヲ悟リ。遂ニ衣鉢ヲ傳授ス。

○听音辨絕絃 后漢ノ祭琰ハ邕ガ女ナリ。邕一夜葉ヲ彈シ絃絶ッ。之ヲ問フ。琰曰ク。第一絃。邕復コトヲ、故ニ一絃ヲ絶テ之ニ問フ。琰曰ク。第二絃也ト。皆中ル。

○赤染 赤染ハ大江匡衡ノ妻也。人ト爲リ聰敏。匡衡一日亞相公任

ノ爲メニ其辭表ヲ作ラント諾シテ歸ル。是ヨリ前公任、齊名以言等ノ名士ニ請フテ之ヲ作ラシム。皆意ニ適セズ。此ニ於テ匡衡ニ囑ス。匡衡。其意ヲ測ラズ。頗ル憂色有リ。赤染曰ク。此公、性、矯飾ヲ好ム。意フニ當ニ門地ノ言ニ及ブ可シ。而ノ諸文士此ニ及ハズ。是レ其意ニ適セザル所以ナラント。匡衡其言ニ從フテ草ス。果シテ公任ノ意ニ中ル。

紫式部

小野湖山
夢華在筆未關身。寫盡
巫山雲雨春。艶麗詞中
含諷刺。女中宋玉是此
人。

○紫式部 紫式部ハ越前守爲時ノ女。人ト爲リ聰敏。涉獵萬卷。國詩ヲ善ス。著ス所ノ源氏物語數十卷。文辭絕妙古今稱シテ空前絶後ト爲ス。世俗尊テ觀世音ノ化身ト爲ス。
○八歳才人 唐ノ徐孝德ノ女。名ハ惠。八歳ニシテ能ク文ヲ成ス。太宗召ノ宮ニ入レ。用サテ才人ト爲ス。

○班昭續漢帙 班固漢書ヲ修メ。未ダ卒ヘズシテ死ス。妹班昭。續テ而ノ之ヲ成ス。

○降帷授業 唐ノ韋逞母宋氏。父ノ業ヲ傳ヘ。即チ宋家ニ就キ講堂ヲ立テ。絳紗幔ヲ隔テ、以テ授業ス。書生百餘從學ス。

○嶺岐論生辰 源賴政ノ女嶺岐。頗ル經史ニ涉ル。嘗テ曰ク。妾少ニシテ恃チ失フ。生日ニ値フ毎ニ。便チ母氏ノ劬勞ヲ憶ヒ。水漿猶且ツ口ニ入ラズ。而ノ世人生辰相賀ス。吾曉ラザル所ナリト。

○甄后詰兄 魏文帝ノ甄后九歳ニシテ書ヲ喜ミ。毎ニ諸兄ノ筆硯ヲ用ユ。兄曰ク。當ニ女博士トナルベキ耶。后曰ク。古ヨリ賢女未ダ前代成敗ノ迹ヲ覽ザル者有ラズ。兄、言塞ガル。

○許允之婦 許允之婦。貌醜ナリ。許曰ク。婦ニ四徳有リ。卿幾カ有ル。曰ク。妾ガ欠ク所ハ容ノミト。因テ復問ノ曰ク。士ニ百行有リ。卿幾クカ有ル。曰皆備ハレリ。曰ク。否。君、色ヲ好テ徳ヲ好マズ。何ヲ以テ備ハレルト謂フヤ。許大ニ愧テ之ヲ禮ス。

○管貞香 龍草廬ノ妾管氏。名ハ貞香。字ハ芳卿。小蘭ト號ス。河内ノ

多爲妍姿難保節。非懷
大沼枕山

雄志豈完身。佛前今日
拈香手。馬上當年斬將
人。

人ナリ。頗ル草隸ヲ善シ。又歌詩ヲ善ス。其詠史ニ曰ク。六王既畢、
帝タリ塵ニ寰ニ威ニ振ニ四ニ夷ニ與ニ六ニ蠻ニ。不識車駕巡狩日。鮑魚能過シ蒼生ニ。姦。

○小式部内侍 小式部内侍ハ和泉式部ノ女也。幼ニノ和歌ヲ善クス
ル。大人ノ如シ。人皆疑フテ以テ母ノ作り與フル所ト爲ス。嘗テ式
部丹波ニ行テ、在ラズ。時ニ京ニ歌合有リ。小式部亦其席ニ與ル。中
納言定頼其前テ過ギ戯レ問テ曰ク。使者、母君ヨリ歸リ來リシヤ否
ヤト。内侍半ハ簾内ヲ出テ之ヲ扣エ。即咏ノ答フ。其歌ニ曰ク。大江
山。いこの、道の遠ければ。また文も見ず天のはし立。定頼大ニ驚
キ。袂ヲ揮ツテ逃ケ去ル。

○祗伯玉 祗南海字ハ伯玉。紀伊ノ人也。幼ヨリノ才調無双。尤モ詩
ヲ善ス。嘗テ自ラ才ヲ試ム。一夜ニノ百首ヲ得タリ。時ニ年僅ニ十
七。人疑テ宿構ト爲ス者有リ。伯玉乃チ客ヲ延キ。席間、題ヲ定メ。
飲酒談笑メ而ノ起草ス。泉ノ注ク如ク。日中ヨリ夜半ニ至ルマデ百

首復々成リ。而ノ一句ノ前詩ヲ踏襲スルナシ。其人驚歎ス。是ニ於
テ才名一時ニ隆々。四方ニ傳播ス。

○鳳岡即吟 林鳳岡一夕大君ニ侍ス。命有リ。曰ク。我未ダ汝ノ詩ヲ
作ルヲ見ズ。試ニ蠟燭ヲ賦セヨト。鳳岡、聲ニ應ノ之ヲ賦ノ曰ク。○
殿沈々冬夜長。九枚繼チ晷影ニ燐煌。寒花添得ヘ德輝ニ美。一抹紅雲透建章。

○袁宏才藻 晋ノ袁宏、東陽ノ太守トナル。謝安、急チ以テ之ヲ試ミ
ント欲シ。一扇ヲ授テ行ヲ送ル。宏即曰ク。當奉揚仁風慰彼黎庶。
○趙逵妹 吳ノ趙逵之ガ妹書畫ニ巧妙ナリ。又々能ク指間ニ于テ絲

絲ヲ以テ雲龍虬鳳ノ錦ヲ結ブ。大ナル則チ盈尺。小ナルハ則チ方
寸。

○劉穆之 劉宋ノ劉穆之。頗ル器略有リ。内ハ朝政ヲ統シ。外ハ軍事
ヲ整フ。決斷流ル、如ク。目、詞訟ヲ覽テ。手、牋書ヲ答ヘ。耳、所受
ヲ行ヒ。口、人ニ應酬ス。而ノ相參涉セズ。

○霹靂手 唐裴琰。才能敏達。人稱之霹靂手ト曰フ。

○鷹見爽鳩 鷹見爽鳩ハ田原侯ノ臣也。人ト爲リ重瞳。書ヲ讀ムニ二行俱ニ下ル。又右手ニ筆ヲ持シテ帖簿ヲ記シ。左手ニ筭盤ヲ把テ會計ヲ爲ス。明瞭敏捷。未ダ曾テ差除有ラズ。

○落馬即吟 薩州侯ノ家老徳田宇兵衛。才智非凡。一日侯ニ從テ騎遊ス。誤テ落馬ス。侯、冷笑シ曰ク。宇兵衛。和歌ハ如何。能ク作ルヤ否ヤト。宇兵衛、聲ニ應ソ曰ク。ひんとはね、すとんと落るそのひま其隙に、とらして歌のよめるもの哉ト。

○稚恭元康 晋ノ王稚恭、度元康。俱ニ才學美ナリ。世、元康ヲ豊年ノ玉ト稱シ。稚恭ヲ荒年ノ穀ト爲ス。

○殷浩才名 晋ノ殷浩。才名當世ニ冠タリ。時人以テ管葛ニ比シ。其出處進退ヲ伺フテ以テ興亡ヲトシテ曰ク。淵源出テズンハ當ニ蒼生ヲ何如スベキト。

○鄭仁表才名 唐ノ鄭仁表、才識有リ。人謂フ。天瑞ニハ五色雲有リ。人瑞ニハ鄭仁表有リト。

○吳正儀 唐ノ吳俶。字ハ正儀。幼ニ、俊才有リ。韓熙載、一見。深ク之ヲ器トシ。稱シテ中林ノ蘭蕙ト爲ス。

○狄仁傑 唐狄仁傑、汴州參軍ニ調シ。吏ノ爲ニ誣訴黜陟セラル。時ニ關本立之ガ召議ノ任ニ當ル。一見、其才ヲ異トシ。謝ノ曰ク。君ハ是レ滄海ノ遺珠ナリト。

寄子 耿庭栢母 徐氏
家内平安報爾知。田園歲入有餘資。絲毫不用南中物。好作清官答清時。

王婉容 宋 无
貞烈那堪點塵求。玉顏

○齊ノ王孫賈泯王ニ仕フ。王ニ從フテ相失ノ歸ル。其母曰ク。汝、朝ニ出テ、而ノ晩ニ來レハ吾ハ則チ門ニ倚テ而ノ望ム。汝、暮ニ出テ、而ノ還ラザレハ。吾ハ則チ閭ニ倚テ而ノ望ム。汝今、王ニ事フ。王ノ處ヲ知ラズシテ猶歸ルハ何ゾヤト。陶嬰、夫ヲ亡フ。義ヲ守テ嫁セズ。黃鵠歌ヲ作テ曰ク。黃鵠早寡兮。七年不双。宛頸獨宿兮。孤影何傷。雖有賢雄兮。終不重行ト。齊ノ閔王出遊ス。百姓業ヲ休メテ盡

甘沒塞垣秋。孤墳若是
隣青家。地下昭君見亦
羞。

虞姬 朱靜菴
力盡重瞳霸氣消。楚歌
聲裏恨迢々。貞魂化作
原頭草。不逐東風入漢
郊。

ク觀ル。獨リ一女有リ。桑ヲ採テ顧ミテ。王怪シテ其故ヲ問フ。女曰ク。命ヲ父母ニ桑ヲ採ルヲ受ケ。大王ヲ觀ヨトノ命ヲ受ケザレハ也ト。王大ニ感シ。命ノ后車ニ乘ラシム。女辭ノ曰ク。父母ノ命無クノ而ノ王ニ隨フ。是レ奔女也。妾敢テ命ヲ奉シ。此耻ヅベキノ行ヲ爲ス能ハズト。王乃チ禮ヲ以テ聘ノ后ト爲ス。田稷ノ母。其子ガ贈ル所ノ不義ノ財ヲ斥ク。晏御ノ婦其夫ヲ激勵ス。鮑宣ノ妻。盛飾ヲ去テ。嬰ヲ提ケ車ヲ牽ク。鄭義宗ノ婦賊刃ヲ冒ノ姑ヲ蔽フ。(附録)
○(此等之事、其和漢之書ニ見ユルモノ汗牛充棟、不要別贅載于此、因僅附錄一二)

○實資頓才 藤原實資頓才有リ。後朱雀帝。庶官ノ衣袖ノ漸ク廣カラントスル止メント欲ス。實資即チ曰ク。請フ、臣先ツ罪ヲ受シ。則チ人必ズ謂ハン。老臣猶然リト。上、其謀ニ從ヒ。實資ヲ朝ヲ停ノ門ヲ杜サシムルヲ數日。果シテ人々大ニ恐レ。敢テ制ヲ踰ル者

無シ。實資又嘗テ侍中タリ。時ニ省中ニ暴死スル者有リ。實資命ノ屍ヲ外ニ出サシム。吏、何レノ門ヨリス可キヤヲ問フ。曰ク。應ニ東陳ヨリスベシト。諸人之ヲ觀ント欲シ皆東ニ聚ル。然ル後ニ實資俄ニ命ヲテ尸席ヲ舉ゲ。更ニ西陳ヨリシ。其醜狀ヲ人ニ見セシメズ。
○王献之頓才 晋ノ王献之。桓温ガ與ニ扇ニ書ス。誤テ墨汚ヲ爲ス。即チ就テ一駁牛ヲ其上ニ成ス。

博學強記 辨士

○懸河辨 晋ノ郭象、字ハ子玄。清辨ヲ能ス。王衍之ヲ稱シテ懸河ノ瀉グガ如シト云フ。

○蟬聯談 晋ノ會稽内史、王蘊ノ子。恭。往テ王悅ヲ省シ。留マルヲ十餘日ニ而ル後ニ還ル。蘊、其故ヲ問フ。恭曰ク。阿大ト語レバ。蟬

聯シテ歸ルヲ得ザレバ也ト。阿大トハ。王悅ヲ言フ也。

○粲花論 唐ノ李白。説論皆句讀ヲ成ス。春葩麗藻ノ如ク。齒牙ニ粲ナリ。時人之ヲ愛シ。號ノ粲花論ト曰フ。

○漢ノ躑食其。三寸ノ舌ヲ掉ヒ。一舉ノ齊ノ七十餘城ヲ下ス。蘇秦張儀。遊客シテ縱横ノ計ヲ爲ス。

○源清博學 源清ハ嵯峨帝ノ時ノ人也。西山ニ居ル。少ニ冠セズ。長ノ婚セズ。人ト接セズ。閑居、學ニ耽リ。究メザル所無シ。人稱シテ嵯峨ノ隱君子ト爲ス。當時。橘廣相。博學深通。博士ノ魁タリ。然レ凡通セザルト有レバ。則チ清ニ就テ質問ス。

○山鹿素行 山鹿素行ハ陸奥ノ人。資性英邁。古今ニ卓絶シ。沿聞博識。時態ニ練達ス。九歳ニシテ林羅山ノ門ニ入リ。十一ニシテ既ニ人ノ爲メニ小學論語貞觀政要等ヲ講説ス。其論辨、老成人ノ如シ。羅

山驚歎シ。其翌歲。經テ講ズルニ見臺ヲ用ユルト許ス。十六ニシテ韜略ヲ北條氏長ニ學ビ。從學五年ニシテ。超秀逸絶。其學ニ通ズルト門下第一ト爲ル。氏長ノ師小幡景憲。深ク之ヲ愛重シ。氏長ヲシテ悉ク秘訣ヲ傳授セシム。

○羅山強記博聞 林羅山。強記博聞。暇日、徒然艸ヲ披キ。侍童ニ示シテ曰ク。某ノ事ハ、某ノ書ニ在リ。某ノ語ハ、某ノ卷ニ在リト。援據確實。談話ノ間ニシテ。其解、十有四卷ヲ成ス。名ケテ野樵ト曰フ。嘗テ甲斐ノ徳本其家ニ過ギル。太平記ヲ讀ム。羅山時ニ年八歳。一聞能ク之ヲ記ス。又嘗テ某ノ許ニ造リ。論語集註ヲ講ズ。中ゴロ一葉ヲ脱ス。乃チ筆ヲ探テ之ヲ暗寫ス。一字モ謬マラズ。

○張安世 漢武帝。書三篋ヲ亡ス。詔シテ問ヘ凡。能ク知ル者莫シ。惟マ張安世之ヲ識ル。后、購求ノ其書ヲ得テ之ヲ校スルニ。一句モ遺失スル所無シ。

○賈逵 賈逵、年十歲ニシテ六經ヲ暗誦ス。逵嘗テ婢ニ籬邊ニ抱カレ隣家ノ讀書ヲ听テ而ノ之ヲ誦スル也。

○橋本左内 橋本左内ハ越前福井ノ藩士也。尊攘ノ大義ヲ正サントシテ獄ニ繫ガル。年二十有六。人ト爲リ。博覽強識。其獄ニ在ルヤ。資治通鑑ヲ註シ。漢紀ヲ了ル。

窮士 富者

○花木春過秋復來。人間榮枯何足傷。請看伯夷首陽貧。季世敝衣勝錦衣。原憲蓬蒿ノ中ニ居。敝衣ヲ着ス。子貢曰ク。甚シ矣。子ノ病也。憲曰ク。是レ貧也。病ニ非ル也。

秋寒 寺門靜軒
霜染楓林秋可憐。雁來幾日早寒天。緇袍更別裁無布。徑把單衣著舊綿。

○形こそ。やつくまきは有ぬれど。紀夏井ハ美濃守善岑ノ第三子ナリ。人ト爲リ。身體雄偉。眉目清秀。温順ニシテ而ノ才思有リ。初、書ヲ小野篁ニ學ビ。篁ニ書聖ト稱セラレタル人也。文德帝其名ヲ聞テ召見ス。夏井、時ニ赤貧。衣履麤弊。左右咸之ヲ笑フ。

貧甚戯作 陸游
糴米歸遲午未炊。家人竊憫乃翁飢。不知弄筆東窓下。正和淵明乞食詩。

○時節とは。誰が言ひ始め腹鼓並ならぬ身も憐を乞食。伍子胥ハ楚ノ人。故有テ吳ニ遁レ。腹ヲ鼓シ簫ヲ吹テ市中ニ乞食ス。

露 盧 宋氏
自歎年來刺骨貧。吾盧今已屬西隣。殷勤說與東園柳。他日相逢是路人。

○韓信 淮陰ノ韓信、家貧。漂母ニ一飯ノ恩ヲ受ク。○後年宰相今貧生。兩三欲購不能購。借問菓瓜價幾錢。呂蒙正。伊川ノ上ニ行ク。瓜ヲ見テ之ヲ愛スレド。錢ノ以テ之ヲ買フ可キ無シ。其人憐ンデ之ヲ遺ル。後、宰相ト爲リ。園ヲ洛下ニ買フテ亭ヲ起シ。之ヲ名ケテ饒瓜ト曰フ。蓋シ往事ヲ記スル也。

丙子歲晚 石井南橋
晨風入茂林。枯木棲鳥去。悲哉人間薄情。貧乏入家友情出外。漢朱

○錢のないの切果敢なさよ。三十日ならでも命かけ。十返舎一九。一日太田南畝(蜀山人ノ子ナリ)ヲ訪フ。南畝、一杯ヲ饗セント欲ス。而ノ家債山積、人ノ爲メニ酒肴ヲ送ル無シ。乃チ園中ノ梧桐ヲ露キ以テ之ニ充ント計ル。

五裘高裡落塵埃。隻影蕭々歲復頽。述作未成書一卷。悲歎併托酒三杯。江聲帶怒風威起。山色如思雪意來。避債出門殊不惡。城南迂路訪新梅。

寄徐石弟

徐渭

聞道名園盛牡丹。豪家歡賞到春殘。自憐亦具看花眼。種菜澆畦不得看。

當窓織

王建

嘆息又嘆息。園中有棗行人食。貧家女爲富家織。翁母隔牆不得力。水寒手澁絲脆斷。續來續去心腸爛。單蟲促々機下啼。兩日催成一匹半。輸官上頭有零落。始末得衣身不着。當窓却羨青樓倡。十指不動衣盈箱。

買臣、家貧シク。薪ヲ賣テ衣食ヲ給シ。行キ且ツ書ヲ讀ム。妻之ヲ耻トシテ去ノヲ求ム。買臣曰ク。我レ年五十ニ當リ富貴ナルベシ。請フ聊カ忍ベト。妻冷笑シテ曰ク。公ノ如キハ。終ニ餓死スルヲ有シノミ。何ヲ能ク富貴ナラント。遂ニ去ル

○吞紙代飯 義陽ノ朱詹、學ヲ好ム。家貧フシテ日々ニ炊クヲ能ハズ。時ニ紙ヲ吞ミ以テ其腹ヲ實スルヲ有リ。後、學術ヲ以テ世ニ貴顯ナリ。

○藜藿屢空顏氏貧。被服時缺湛子窮。劉宋ノ江湛。吏部尙書タリ。兼衣無シ。嘗テ上ノ召ス所ト爲ル。會マ浣フヲ以テ衣無シ。因テ疾ト稱シ。日ヲ經テ衣成リ。然ル後ニ起ツ。

○鄭虔 唐ノ鄭虔、書ヲ習フ。紙無キニ苦ム。乃チ柿葉ヲ貯フルヲ滿屋。日ニ取テ書ス。

○懷素 唐ノ僧懷素、書ヲ好ム。紙無キニ苦ム。因テ芭蕉ヲ種エ。以テ

其揮洒ニ供ス。(又、車胤孫康學ヲ好ム。油ナキニ苦シ。螢雪ヲ以テ書ヲ讀ム)

○わんくくと。わんとて吠る畜生め。身なり乃みみて論ずな。鹽谷岩陰。少時甚ダ貧。其服スル所、常ニ襤褸。初松崎慊堂ニ從遊シ。日ニ往テ聽講ス。松崎氏ノ犬。誤テ乞人ト爲シ。之ヲ吠テ止マズ。

○東方朔 漢ノ東方朔。東郭先生ト號ス。家貧シク。寒ケレモ衣服完カラズ。雪中ヲ行クニ。履ニ上有テ下無シ。

○よめ入れ仕度一匹の犬 晋ノ吳隱之清貧ニ素ス。家ニ一物無シ。其女ヲ嫁セントスルヤ。犬ヲ賣テ之ヲ辨ズ。

○

○紀文 紀國屋文左工門ハ紀州ノ人也。氣宇快濶。一日慨然トノ自ラ奮フテ曰ク。男兒七尺。爲ス無レハ則チ已ム。苟モ爲ス有レハ。豈ニ一郷ノ善人ト爲テ而ノ止ム可ケンヤ。抑モ一家ノ富ハ則チ天下ノ

富。一人ノ貧ハ則チ天下ノ貧。我將ニ天下ノ財ヲ網羅シ。以テ天下ノ人ニ散セントス。散ズルヲ知テ而シテ聚ムルヲ知ラザレバ則チ窮鬼ノ徒。聚ムルヲ知テ而シテ散ズルヲ知ラザレバ則チ守銭ノ奴。能ク聚メテ能ク散シ。然ル後ニ始テ與ニ財ヲ語ル可キ也。陶朱猗頓。何ク數フルニ足ランヤト竟ニ家ヲ挈ゲテ江戸ニ赴テ商業ニ従事ス。神算鬼謀。忽ニシテ賢、百万ヲ累ヌ。

○董卓 后漢董卓、瑁塢ニ居ル。金三十万斤ヲ有ス。人之ヲ金塢ト號ス。

○郭況 郭況ガ家、累貲知ル可カラズ。人之ヲ金穴ト號ス。

美人 妬婦

○立^たハ芍藥すわれは牡丹。あもむ姿はゆり花の。 允恭帝ノ后妹衣通姫國色無比。後世國色ヲ論ズル者小野、小町ト並ビ稱ス。人ト爲

萬孕芙蓉不染塵。露花

風葉色香勻。只言周昉畫屏似。道眼看他能幾人。

權花 李義山

風露凄々秋景繁。可憐榮落任朝昏。未央宮裏三千女。但保紅顏莫保恩。

背面美人圖

櫻 繪 鑰

睡起昭陽暗淡粧。不知緣底背斜陽。若教轉盼一回首。三十六宮無粉光。

續麗人行

蘇東坡

深宮無人春晝長。沈香亭北百花香。美人睡起

リ才藻富麗。歌詞ニ妙ナリ。

○光明皇后 光明皇后ハ淡海公ノ第二女也。肌膚白玉ノ如ク。光耀有リ。因テ光明ト曰フ。

○遠山眉冰雪肌膚。定知被稱絕世美。不知惱殺豈一人。卓氏ノ女、文君。眉色、黛ヲ加ヘズ。而ノ遠山ヲ望ム如ク。臉際、芙蓉ノ如ク。肌膚ハ冰雪ノ如シ。(文君與司馬相如相通奔洛。事載于中卷)

○眼細鼻高櫻色。音に聞ひし五の君に。比す可き程の美男子歟。晋ノ斐楷。風神高邁。容儀俊爽。時人之ヲ玉人ト謂フ。王恭亦々姿儀美。時人ノ傳稱スル所ト爲ル。

○寶侍御 唐ノ寶侍御、姿容美ナリ。杜甫、詩ヲ贈テ曰ク。驥之子鳳之雛。炯如清水出萬壑。置之迎風寒露之玉壺ト。

○鳳枕鸞帷中。結夢春幾回。何知此解語花。反不如彼不解語花 唐ノ玄宗。楊貴妃ト共ニ大液池ノ千葉ノ白蓮花ヲ賞シ。妃ヲ指シテ左右

薄梳洗。燕舞鶯啼空斷腸。畫工欲畫無窮意。背

立春風初破睡。若教回首更嫣然。陽城下蔡俱

風靡。杜陵飢客眼長寒。蹇驢破帽隨金鞍。隔花

臨水時一見。只許腰肢背後看。心醉歸來茅屋

底。方信人間有西子。君不見孟光舉案與眉齊。

何曾背面傷春啼。

程敏政

瓊花 程敏政

貪看江都第一春。龍舟元不為東巡。開花亦自

能傾國。何況當時解語人。

鄭獬

蠶口絕句

鄭獬

稱有リト云フ。

街ヲ徘徊シ。荒遊流連ス。嘗テ名妓某ニ指注セラレ。柳橋美少年ノ

○自贊自稱是人情。况名妓真實之評。危哉神魂飄蕩禍。園田東江ハ江

戸ノ人。經學ニ深ク。文章ヲ善ス。容止艶麗。少壯ノ時放蕩不軌。花

稱有リト云フ。

ニ謂テ曰ク。何ソ此解語ノ花ニ如ンヤト。

○號國夫人 夫人ハ楊貴妃ノ妹也。天然ノ麗質。粧粉ヲ施サズシテ自

ラ美艶ナリ。張結ガ詩ニ。號國夫人尋主恩。平明上馬入宮門。却嫌脂

粉汚顔色。淡掃蛾眉朝至尊トアリ。

○樂天ニ妾 唐ノ白樂天、ニ妾有リ。一ヲ樊素ト曰フ。善ク歌フ。一ヲ

小蠻ト曰フ。善ク舞フ。人謂フ。櫻桃樊素口。楊柳小蠻腰ト。

○今重安 石川與七郎ハ權頭ノ嫡子ニシテ。力、衆ニ秀デ。東海道中

第一ノ美男子也。因テ國人之ヲ美丈夫島山六郎重安ニ比シ。呼テ今

重安ト云フ。

○自贊自稱是人情。况名妓真實之評。危哉神魂飄蕩禍。園田東江ハ江

戸ノ人。經學ニ深ク。文章ヲ善ス。容止艶麗。少壯ノ時放蕩不軌。花

街ヲ徘徊シ。荒遊流連ス。嘗テ名妓某ニ指注セラレ。柳橋美少年ノ

稱有リト云フ。

○嫉妬や。煮ても焼ても食へぬ哉 漢ノ呂后。戚夫人ノ寵ヲ妬ミ。夫

人生ム所ノ趙王如意ヲ鳩殺シ。夫人ノ手足ヲ切斷シ。眼ヲ抉リ。耳

ヲ輝シ。瘡藥ヲ飲マシメ。移シテ之ヲ廁中ニ置キ。呼テ人姦ト云フ。

○男の心と秋の空。油断ならぬと邪推心。 晋ノ王導ノ妻曹氏。性妬

ム。導密ニ愛妾ヲ別館ニ置ク。曹之ヲ覺リ。不意ニ往テ之ヲ撃ツ。導

驚遽。短轅車ニ駕シ。塵尾柄ヲ持シ。牛ヲ驅テ而ノ遁ル。司徒蔡摸戲

シテ曰ク。朝廷、公ニ九錫ヲ加ヘント欲ス。他無シ。短轅ノ轎車及ヒ

長柄ノ塵尾有リト。

○南郡主 晋ノ温温蜀ヲ平ゲ。李勢ノ女ヲ以テ妾ト爲シ。携テ齋中ニ

到ル。夫人南郡主之ヲ聞キ。衆婢ヲ率ヒ。刃ヲ拔テ之ヲ襲フ。

○妬み心も程こそ有れや。死でまへば彼世へ旅立ち。 唐ノ任環。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

太宗、二艶妃ヲ賜フ。妻柳氏。其髮ヲ爛ラシテ禿ナラシメント欲ス。

千重越甲夜城圍。戰罷君王醉不知。若論破吳功第一。黄金只合鑄西施。

失題

前原一誠

汗馬鐵衣過一春。歸來欲脫却風塵。一場殘醉曲肱睡。不夢周公夢美人。

宮詞

段成式

二八能歌得進名。人言選入便光榮。豈知妃后多嬌妬。不許君前唱一聲。

如花歌

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

唐伯虎

昨夜海棠始帶雨。數朵輕盈嬌欲語。佳人曉起出蘭房。折來對鏡比紅粧。問郎花好妾顏好。郎道不如花窈窕。佳人聞語發嬌嗔。不信死花勝活人。把花揉擗擲郎前。請郎今夜抱花眠。

太宗乃千金瓶ヲ賜フテ云フ。之ヲ飲ハ即チ死ス。妬マズンハ飲ムベカラズト。柳氏曰ク。誠ニ死スルニ如カズ。乞フ之ヲ飲ント。太宗大ニ驚キ。環ニ謂テ曰ク。彼レ死ヲモ畏レズ。況ヤ其他ヲヤト。命メ別宅ニ置カシム。

○段氏 劉伯玉ガ妻段氏。性妬。自ラ津ニ沈ンデ死ス。人其處ヲ妬婦津ト名ク。美人此ヲ過グレハ輒チ必ズ衣粧ヲ壞ルト。

○あちの人(吾夫)ト。盗みたるのと腹ト立て。晋ノ賈充ノ婦郭槐。

妬ム甚シ。前後二子ヲ生ミ。乳母ヲ以テ之ヲ養フ。皆夫ト私有ルカト疑フテ之ヲ殺シ。子亦タ死シ。遂ニ嗣絶ツ。

○王文穆妻 王文穆ノ夫人悍妬ナリ。文穆嘗テ三畏堂ヲ作ル。楊文公戯テ曰ク。改テ四畏堂ト作ヨト。文穆其故ヲ問フ。曰ク兼テ夫人ヲ畏ルト。

○劉孝標與馮敬通 梁ノ劉孝標云フ。余、馮敬通ニ比スルニ。三ノ同

シキ有リ。不遇ナルト一也。剛直ナルト一也。俱ニ忌妻有リ。躬ヲ井曰チ操ルト三也ト。

集于昌齡舎

孔平仲

一醉昏昏萬不知。黃昏促席夜深歸。明朝唯見家人說。昨夜歸時雪滿衣。

飲歸 方 回

激灑紅深百盞澆。醉歸不覺路迢々。臨分情味慙慙甚。暗遣人扶過畫橋。

偶成 伊藤博文

建業唯期和聖東。鬪爭獨希名破翁。半霄提劍

好酒者 性急者

○阮籍 晋ノ阮籍。性甚ダ酒ヲ好ム。步兵廚中貯酒數百斛有ルヲ聞キ乃チ求メテ步兵校尉ト爲ル。

○酒飲ひと。云ふは虚言其實ハ。酒に身の代飲まるなり。阮咸字ハ

仲容晋ノ人。竹林七賢ノ一ナリ。放蕩不羈ニシテ酒ヲ好ミ。復タ家事ヲ問ハズ。是ヲ以テ家常ニ貧。俗ニ。七夕ノ日、衣服ヲ曬スヲ例トシ。人皆錦繡ヲ庭前ニ懸ヘス。咸、獨リ曬ス可キ物無シ。乃チ犢鼻褌ヲ外シ。之ヲ竿頭ニ掛テ曰ク。諺ニ郷ニ入テハ郷ニ從ヘト曰フ。生テ此世ニ在レバ。俗ニ從フモ亦タ已ムヲ得オト。

○化萬物爲酒。取得腹倉庫 阮孚モ亦、晋ノ人。性甚ダ酒ヲ嗜ム。一日

望寒月。今古興亡兩眼中。

偶成

藤田東湖

雙行浪々憂時淚。一片歌々報國心。倘使人間無酒榼。不知何物洗胸襟。

劉伯倫 汪紹焯

生死窮通附醪糲。婦言雖好不須聽。利名役々真成醉。只有先生是獨醒。

將進酒 高青邱

君不見陳孟公。一生愛酒稱英雄。君不見楊子雲。三世執戟徒工文。得失如今兩何有。勸君相

市中ヲ過ク。佩ナル所ノ金貂ヲ解キ。酒ニ換テ之ヲ飲ム。

○阮宣 晋ノ阮宣、出遊スル毎ニ百錢ヲ杖頭ニ桂ケ。酒肆ニ至テ獨リ酣飲ス。家ニ儻石無モ。晏如タリ。

○酒ハ愁乃玉掃。天にも酒旗の星有りて。地には酒泉の郡さへ有るに魏祖、酒禁ヲ制ス。孔融曰ク。天ニハ酒旗ノ星有り。地ニハ酒泉ノ郡有リト。

○嘯傲乾坤是此酒。壺中常存楊州樂。誰言杯酒吾生害。吾生害反在廢酒。晋ノ劉伶、酒ヲ好ム。甚シ。其妻之ヲ憂ヒ。一日、酒ヲ覆シ壺ヲ毀チ。伶ガ酒ヲ求ムルヲ謝シ。涕ヲ流シテ之ヲ諫メテ曰ク。酒ハ是レ縮生ノ本。冀ハクハ酒ヲ廢シテ壽ヲ保テト。伶、佯ハリ首肯シテ曰ク。諾、々。唯々恐ラクハ心ニ之ヲ廢スルモ。鬼神ニ告テ之ヲ誓ハズンバ。則チ復々禁ヲ破ラン。汝其レ速ニ壇ヲ爲シ。酒肉ヲ供ヘ。吾神ニ誓フノ備ヲ爲ス可シト。妻以テ信ト爲シテ大喜ビ。即チ其言

ノ如クス。伶乃チ祝シテ曰ク。天、我ヲ生シ酒ヲ好マシム。鬼神冀クハ我婦ノ言ヲ用サザレト。悉ク酒肴ヲ食フテ大ニ笑樂ス。伶ノ市ニ出ヅル。必ズ酒ヲ沽フ。因テ人ニ命シテ鍾ヲ荷フテ隨ハシム。常ニ云フ。死セバ便チ我ヲ埋メヨト。

○畢卓醉臥 晋ノ畢卓。比舍ニ酒熟ス。卓、夜之ヲ盜飲シ。醉フテ甕側ニ臥ス。

○願はくば。化して陶家の土となれや。庶幾くば酒壺に作られもせん。吳ノ鄭泉、嘗テ友人ニ語テ曰ク。我レ死セバ必ズ之ヲ陶家ノ側ニ葬レ。庶幾クハ百歳ノ后。化シテ而ノ土ト爲リ。幸ニ取ラレテ酒壺ト爲ント。

○思惟拔劍逐蠅 王思惟、性急。嘗テ書スルニ方リ。蠅有リ、筆端ニ止マル。追ヘハ復々來ル。思大ニ忿怒シ。劍ヲ拔テ之ヲ逐フ。

○王述怒卵 王述ハ晋ノ人也。資性過急。一日鶏卵ヲ食ハント欲シ。

逢且相壽。試看六印盡無腰。何似一卮長在手。莫醉黃金醉青春。幾人不飲身亦貧。酒中有趣世不識。但好富貴忘其真。便須吐車茵。莫畏丞相嗔。桃花滿谿日。笑殺醒遊人。絲繩玉缸釀初熟。搖蕩春光若波綠。前無御史可盡歡。倒着錦袍舞鸚鵡。愛妾已去曲池平。此時欲飲焉能傾。地下應無酒壚處。何苦寂寞孤平生。一杯一曲我歌君讀。明月自來。不須秉燭。五岳既遠。三山亦定。欲求神仙。在杯酒中。

將進酒 李白

君不見黃河之水天上來。奔流到海不復回。君不見高堂明鏡悲白髮。朝如青絲暮如雲。人生得意須盡歡。莫使金樽空對月。天生我材必有用。千金散盡還復來。烹羊宰牛且為樂。會須一飲三百杯。岑夫子丹丘生。進酒君莫停。與君歌一曲。請君為我側耳聽。鐘鼓饌玉不足貴。但願長醉不願醒。古來聖賢皆寂寞。惟有飲者留其名。陳王昔時宴平樂。斗酒十千恣譔謔。主人何為言少錢。徑須沽取對

箸ヲ以テ之ヲ取ラントシテ能ハズ。即チ怒テ之ヲ打ツ。鷄卵乃チ展轉シテ已マズ。述彌ヨ怒リ。飛テ牀ヲ下ル。

○漢ノ劉寬、性温恕。夫人之ヲ試ミント欲シ。其朝裝スルヲ伺ヒ。婢ヲシテ羹ヲ奉シテ往キ。故ニ醜ヘシテ其衣ヲ汚サシム。寬音容自若。徐ニ婢ニ問フテ曰ク。羹、汝ガ手ヲ爛ラス。無キ乎否ヤト。附録

暴虐

○武乙 殷帝武乙、無道。偶人ヲ爲リ。之ヲ天神ト謂ヒ。之ト博シ。人ヲシテ代リ行ハシム。天神勝ザレハ乃チ之ヲ僂囊シ。豫メ革囊ヲ爲リ。血ヲ盛テ仰テ之ヲ射ル。命テ天ヲ射ルト曰フ。

○燕帖木兒 元ノ燕帖木兒。權ヲ秉リテヨリ以來。肆行忌ムナシ。故泰定帝ノ皇后ヲ取テ夫人ト爲スニ至ル。前後、宗室ノ女ヲ尙スル。四十人。交禮三日ニシテ遽ニ遣歸スルコト有リ。後房充斥シテ盡ク

君酌。五花馬。千金裘。呼兒將出換美酒。與爾同銷萬古愁。

新春醉歌

龜田鵬齋

人間醉時勝醒時。々々畢竟何所爲。古往來今皆如夢。何物爲黠何物癡。伯夷盜跖同一丘。東陵西墓已累々。身後聲名三春花。生前輸贏一局碁。百年料知非長久。壽夭貧富屬天剖。窺有定命何足泣。生自有分不須厚。我視渺茫宇宙間。醉鄉之外無足取。十繡典却禦臘衣。一壘換得迎春酒。飲之酣歌付

識ル可カラズ。一日、平章政事趙世延ガ宅ニ宴ス。坐隅ノ一婦甚ダ美ナルヲ見。意、與ニ俱ニ歸ラント欲シ。左右ヲ顧ミテ曰ク。此ヲ誰ト爲ス。對フル者曰ク。大師ノ家人也ト。自後荒淫益ス甚シク。身體衰憊シ。血ヲ溺シテ死ス。

○武烈天皇 武烈天皇。性、忍酷暴虐。或ハ孕婦ヲ劊テ其胎兒ヲ觀。或ハ宮女ヲシテ馬ト交ラシメ。或ハ人ノ指甲ヲ脱シ。其ヲシテ徒手、薯蕷ヲ掘シメ。或ハ人ヲシテ伏シテ塘城ニ入ラシメ。自ラ三尖矛ヲ持シ。其流出スルヲ俟フテ之ヲ刺シ。或ハ人ヲノ樹ニ上ラシメ。下ヨリ射テ之ヲ落シ以テ笑樂ト爲シ。田獵時無ク。酒ニ沈湎シ。色ニ荒淫シ。驕奢暴斂。万民大ニ苦ム。

○商鞅 秦ノ商鞅、法ヲ用ユルヲ酷。步、六步ニ過ル者ハ罰有リ。灰ヲ道ニ棄ル者ハ刑セラル。嘗テ渭ニ臨デ囚ヲ論ズ。渭水盡ク赤キニ至ル。後、遂ニ怨ヲ以テ秦人ニ車裂シテ且ツ徇ヘラル。

悠々。飲之醉笑大開口。
人生快樂如此足。文章
何須垂不朽。請聽新春
第一歌。醉人之言君記
否。

○闇齋幼時 山崎闇齋ノ幼ナル。築鷲ニシテ制ス可カラズ。父爲ニ之
ヲ妙心寺ニ托ス。闇齋自若。性行峻マラズ。嘗テ倫輩ト論議シテ詞
理塞ル。乃チ其夜竊ニ其人ノ寢所ニ就キ。火ヲ紙幃ニ放ツ。又一夜
佛典ヲ讀ミ。忽チ案ヲ拍チ放聲大笑シテ曰ク。笑フ可キ哉釋迦ノ虛
誕ナルヤト。

○武田信玄 信玄性殘忍。下ヲ操ル酷烈。嚴刑濫殺。人ノ國ヲ滅シ。人
ノ家ヲ辱メ。自ラ怨ヲ取ルノ多キヲ知リ。丘墓ノ、人ノ爲メニ發
掘セラル、ヲ慮リ。命ジテ石棺ヲ造リ。甲ヲ擲シテ以テ斂メ。諏訪
ノ湖心ニ沈メシム。又遺命シ。三年其死ヲ秘シ。疾ヲ而ノ老スト聲
言セシム。

藝妓 娼妓

○はまたなき。身ハ遊女うかれめの果はてなれど心は高志雲の上ういひ人 靜しずの本京

五日觀妓

西施謾道浣春紗。碧玉
今時鬪麗華。眉黛奪將
萱草色。紅裙妬殺石榴
花。新歌一曲令人豔。醉
舞雙眸斂鬢斜。誰道五
絲能續命。却令今日死
君家。

師ノ自拍子。義經ノ妾也。義經ノ芳野ニ匿ル、ヤ。靜、囚ハレテ倉鎌
ニ至ル。賴朝一日、鶴岡ノ祠ニ詣リ。靜ヲ召シテ舞ヲ命ズ。靜固辭ス
レレ許サレズ。乃チ起テ場ニ上リ。衣裳ヲ整ヘテ離別ノ曲ヲ唱ヒ。
又々歌ヲ作テ義經ヲ慕フノ意ヲ云フ。其歌ニ曰ク。みよし野や。峯
の白雪ふみ分て。いりにし人のあとを戀しきと。又嘗テ梶原景季ニ
挑マレ。靜拂然泣キ揮ツテ曰ク。妾不似ト雖也。源豫州ニ侍スル者
也。豫州ハ便チ汝ガ主君ノ弟。豫州ニシテ今在ラハ。汝ガ輩豈ニ指
ダモ妾ニ加フルヲ得ンヤト。景季大ニ愧ツ。

○不以貧富移易。又不以威武屈。烈々丹心如氷 阿虎ハ大磯ノ娼也。
會我祐成曾テ大磯ニ遊ビ。見テ而ノ相悅ブ。諸豪競フテ招ケル虎、
願ミズ。和田義盛。其應ゼザルヲ怒テ之ヲ罪セント欲ス。其母悞レ
之ニ往ノヲ勸ム。虎竟ニ肯ンゼズシテ曰ク。夫レ曾我ハ寒士。和
田ハ豪族。得失ノ存ズル所、妾豈ニ之ヲ知ラザランヤ。唯妾見ル所

有リ。心、貧富威武ヲ以テ移易スル能ハズト。祐成、讐ヲ報シテ鬪死スルニ及ンテ。哀慕悲泣シテ遂ニ尼ト爲ル。時ニ年僅ニ十九。

○祇王佛媛 平相國清盛薙髮シテ淨海ト號ス。初メ舞姬祇王ヲ寵ス。既ニシテ名娼佛媛ナルモノ有リ。美色絶倫。舞ヲ以テ淨海ニ見ユ。淨海一見恍然。乃チ祇王ヲ逐フ。祇王泣キナガラ一首ノ和歌ヲ留メテ而ノ去ル。淨海群臣子弟ノ面前ニ在テ。恬然佛媛ヲ抱テ而ノ後問ニ入ル。佛媛愧テ。謝シテ曰ク。妾ガ售ント欲スル者ハ舞技也。枕席ニ侍スルハ願コ非ズ。願ハクハ祇王ヲ召還セヨト。淨海聽サズ。後又々祇王ヲ召シ。佛媛ノ爲ニ舞シム。祇王慙憤辭セント欲ス。其母之ヲ諭シテ曰ク。命ニ違ハゞ則チ罪、母ニ及ブ有ント。祇王乃至リ。歌ヲ誦シテ起テ舞フ。其詞ニ曰ク。佛本是凡夫。凡夫終作佛ト。佛媛嘆シ。後潜ニ邸ヲ出テ。祇王ト共ニ削髮シテ尼ト爲リ。茅屋ヲ嵯峨ニ結テ身ヲ終ルト云フ。今ノ祇王寺ハ即チ其跡也。

○左リとしては。人ト迷ひの淵に沈め。われ浮ばんと圖る身にして。し松崎慊堂。書生タリシ時。郷人チ品川ニ祖ス。日暮レタルヲ以テ娼家ニ宿ス。夜半夢醒メ。起坐ノ書ヲ燈下ニ讀ム。娼怪ンテ之ヲ問フ。慊堂告ルニ書生苦學ノ狀ヲ以テス。娼又問フ。狀元一月間ノ學資幾許ト。曰ク。二方金ニ過ギズ。然レモ吾輩貧窶。動モスレハ則チ缺乏スト。娼、其爲ス有ルノ人タルニ感シテ曰ク。二方金ハ是レ妾一日ノ花費ノミ。乞フ妾之ヲ辨セント。是レヨリノ其娼必ズ月ニ二方金ヲ遺ル。慊堂此ヲ以テ大ニ志チ攻學ニ逞フスルヲ得タリ。後、家ヲ成スニ比ンテ。娼、年邁ギ色衰ヘテ落籍ス。是ニ於テ慊堂之ヲ迎ヘテ家ニ居ラシメ。俸養太ダ厚シ。

○盼々 唐ノ張建封。盼々ヲ納ル。盼々ハ舞妓也。建封薨シテ他ニ適カズ。

○梨操 宋ノ蘇老泉梨操ヲ愛ス。梨操、梨ヲ善ス。老ユルニ及ンテ老

妓女

失名氏

二八佳人巧樣粧。洞房夜々換新郎。一雙玉手千人枕。半點朱唇萬客嘗。做盡幾般嬌體態。粧成一片假心腸。迎新送舊知多少。故作相思淚兩行。

泉下參禪。削髮シテ尼ト爲ル。

○言の葉は。甘く聞ゆも奥底は。辛ひ金とば取ん積りの。翠翹ハ唐ノ名妓也。詩ヲ左公ニ寄テ曰ク。一點芳心尙未灰。兩行珠淚濕香腮。幾回設把簾高捲。不見尋巢舊燕來ト。

○携妓遊 晋ノ謝安。妓ヲ携ヘテ東土ニ遊ブ。

○悲亡妓 果敢なや。昨日の花は今日の夢。思ひ出せば涙の種。目

どうるませて吐息つく 宋ノ張受、抗州ニ遊ビ。妓巧雲ニ稔ス。月

餘ニシテ雲死ス。受、痛ク之ヲ悼惜シ。一夜三更忽チ之ヲ憶ヘ。嘆

ヲ曰ク。瓊花地ニ落ク。深ク悲ム可キ哉。

○思ひ思はれ思はれ思ふ。思ふ中でも又思ふ都々 唐ノ韓翃、妓、柳

氏ト稔ス。後、韓、名ヲ成ス。節度使侯希逸。奏シ用サテ從事ト爲ス。

韓爲メニ迎フルヲ果サマルヲ三歳。乃チ詩ヲ柳氏ニ寄テ曰ク。章

臺柳往日青々。今在否。縱令長條似舊垂也。應攀折他人手。

自嘲

小野湖山

男兒志願是功名。一醉紅裙也有情。吾愛揚州狂杜牧。善評風月善談兵。

觀舞女

施肩吾

纏紅結紫畏風次。嫋娜初回楊柳枝。買笑未知誰是主。万人心逐一人移。

間情

高雲外

不是木人不石腸。甘情苦味奈難忘。掩書無語青燈下。舒卷巽園第幾章。巽園情史名

少年行

王維

新豐美酒斗十千。咸陽

○參差行菜。左右流之。窈窕淑女。寤寐求之。詩經 韓魏公、陝西安撫

ト爲ル。李師中、之ニ過リ。官妓買愛卿ノ爲メニ詩ヲ賦ノ曰ク。願得

貌貅十萬兵。犬戎巢穴一時平。歸來不問封侯印。只問君王覓愛卿ト

○旨か知ねど於汗粉より私わななの蕎麥が宜 都々 唐ノ李靖、楊

素ニ謁ス。一妓有リ。紅拂ヲ執テ素ニ侍シ。靖ヲ目スルノ之ヲ久フ

ス。靖歸ル。夜ニ至テ紫衣戴帽ノ人有リ。門ヲ扣ク。延キ人ルレバ乃

チ一美女也。美女告テ曰ク。妾ハ彼ノ楊家紅拂ノ妓。名ハ絲夢ト曰

フ者ナリ。願ハシクハ身ヲ喬木ニ托セシト。靖、遂ニ之ヲ納ル。

書 生 附苦學遊學

○書生越窓 安積良齋ノ家塾。書生ノ寓スル者太多シ。或ヒト之ニ

告テ曰ク。塾窓ノ格甘シ。人皆柴也ニ非ル也。請フ少シク之ヲ戒

嚴セヨト。良齋笑ツテ曰ク。是レ當ニ寬恕スベシ。在昔吾モ亦夫ノ

遊俠多少年。相逢意氣
為君飲。繫馬高樓垂柳
邊。

全上

李白

五陵年少金市東。銀鞍
白馬度春風。落花踏盡
遊何處。笑入胡姬酒肆
中。

全上

方還

不解陰符與六韜。似知
名姓五陵豪。此身未知
為誰用。慷慨長歌看寶
刀。

冬學祝 星船

冬學偷閑每出遊。數來
夙志茫如夢。偶從兒輩

把敦弓。桑矢離絃三不
中。

讀諸葛武侯傳

齋藤拙堂

兩篇文字壓西京。百代
長懸日月明。莫謂書生
暗時務。當時諸葛亦書
生。

贈執政某

雲井龍雄

妻妾是知君是忘。此時
社稷奈存亡。願將慷慨
書生淚。洗盡廟堂姦吏
腸。

桂林莊雜詠示諸

生 廣瀨淡窓

休道他鄉多苦辛。同袍
有友自相親。柴扉曉出

甘者ニ之レ頼レリト。

○聽講坐睡 大石良雄。贊チ伊藤仁齋ニ取り。來テ其講説ヲ聽ク。而
シテ時々、睡テ聽カズ。衆皆笑罵シテ曰ク。惰懶彼ガ如キ。將タ何ノ
用チ之レ爲ント。然レ仁齋許シテ以テ大器ト爲ス。

○河本正安 正安、人ト爲リ。稀奇爽亮。頗ブル氣義有リ。芳野金陵ニ
從學ス。會講ノ間。動モスレハ輒チ駟聲雷ノ如シ。而ノ治亂忠姦ノ
語一タヒ耳ニ入ルニ及ンデハ。則チ遽ニ覺テ首ヲ擧ゲ。膛光爛々。
口角噴沫。猖然トノ論難シ。窺メズンハ止マズ。終レハ則チ復タ忽
然睡リニ就ク。

○三浦平大夫 三浦平大夫、竹溪ト號ス。業チ物徂徠ニ受ク。天資穎
脱。未ダ幾歲ナラズ而ノ群經ヲ究ノ。見解奇拔。徂徠深ク之ヲ愛
ス。又其楷書ヲ善スルヲ以テ。著書、藁ヲ脱スレハ。必ズ竹溪ヲシテ
之ヲ清寫セシム。徂徠ノ死スルニ臨ムヤ。之ニ遺書ヲ屬スト云フ

○中根東里 中根東里ハ伊豆ノ人。初メ僧ト爲テ江戸ノ蓮光寺ニ寓ス
ルヲ數年。寺主雄譽上人頗ブル鑒識有リ。屢ハ其人ト爲リヲ稱ス。
徂徠之ヲ聞テ嘆賞ス。時ニ年十九。細井廣澤モ亦之ヲ奇愛シ。延テ
其家ニ寓宿セシム。後、室鳩巢、又之ヲ延キ。其家ニ客タラシム。時
ニ年廿三。

○良齋脱走 安積良齋。初メ師友ヲ求メント欲ノ江都ニ奔リ。佐藤一
齋ニ依ル。日ニ薪水ヲ操リ。僮僕ノ勤ニ服シ。暇ニハ則チ卷ヲ披テ
怠ラズ。學大ニ進ム。一齋因テ嘗テ試ミニ大學ノ會講ニ列セシム。
時ニ良齋、大學ヲ有セズ。道傍ノ露店ニ就キ。價僅ニ四十文ナルヲ
求メ得タリ。名聲既ニ高シ幕府ノ儒官ニ擢ラル、ニ及ンデモ。猶ホ
其大學ヲ藏シ。毎ニ人ニ謂テ曰ク。吾レ敢テ四十文ノ舊ヲ忘レザル
也ト。

○學位々々と學位ト笠乃世の中に。川本正安。劍ヲ伊庭某ニ學ブ。

霜如雪。君汲川流我拾薪。

刻苦勉勵。業大ニ進ム。門下能ク及ブモノ莫シ。某感嘆シ。印可ヲ與ヘント欲ス。正安謝シテ曰ク。君父ノ命ヲ奉ツテ而シテ學ブ者ハ、此ヲ得テ以テ造詣ヲ證ス。生ガ如キハ唯以テ身ヲ護ラント欲スル也。何ツ印可ヲ要セン。況ヤ技未ダ熟セズ。敢テ辭スト。某倍ス感嘆ス。

○遊びとに耽る幼き年頃で 晋ノ祖莹。幼ニシテ而シテ學ヲ勤ム。父母其勞ヲ憫ミ。夜、火ヲ給セズ。莹乃チ火ヲ帳中ニ藏シ。父母ノ睡ルヲ待チ。而ル後ニ書ヲ讀ミ。卒ニ大儒ト爲ル。

○聲絶す。なげや鶯一歳に。再びとだに來可き春のは歌 加々美櫻塙

無題 朱 熹

少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧葉既秋聲。

ハ甲斐ノ祠官ナリ。初、三宅尙齋ニ學ブ。當時赤貧。夜學、油無シ。乃チ線香ヲ合焚シ。其光ニ就テ書ヲ讀ム。

○汗牛充棟典籍備。反出俊才鮮何也。盖功在志不在書。請看古人苦學狀。伊藤鏡河ハ豊後藩ノ儒者也。名ハ幸猛。字ハ寛叔。少時、家極

聲。

メテ貧。書ヲ買フ能ハズ。一友、紙ヲ贈ル。乃チ用テ詩書論語古訓等ヲ寫ス。

○ぬらくらと。遊べる者は衛生と。知らぬ白痴と誹るなる覽。宇野士新ハ平安ノ人ナリ。小字ハ三平。天資堅忍。刻厲、書ヲ讀ミ。足、戸ヲ出テザルヲ十有餘年ナリ。時人語ノ曰ク。都下、見ザル者三有リ。香川太冲ガ病ヲ治スルヲ見ズ。谷左冲ガ文ヲ作ルヲ見ズ。宇野三平ガ市ニ至ルヲ見ズ。

○董帷 漢ノ董仲舒、帷ヲ下シテ講誦シ。三年、其園ヲ窺ハズ。

○閉戸先生 孫敬、常ニ閉戸、書ヲ讀ム。人號シテ閉戸先生ト曰フ。

○扶桑閉戸 井上蘭臺。閉戸シテ讀書ス。客至ル有レバ。則チ自ラ答フルニ不在ヲ以テス。客以テ戲ト爲シ。速ニ戸ヲ開カンヲ請フ。蘭臺勵聲シテ曰ク。主人自ラ答フルヲ此ノ如シ。何ノ偽カ之レ有ント。願ミズシテ書ヲ讀ム。

夜涼 國府 碧

窓下涼生暮雨餘。睡魔一向爲茶除。青灯隨意風吹滅。好借螢光又讀書。

夏夜讀書次韻
岡伯禮

葉山鑽軒
讀書尙友志何雄。聖學
須從憤字窮。遮莫飢蚊
多利嘴。警眠不啻一錐
功。

○從來歲月易催人。錐股須做蘇秦苦。請看韓公贈張詩。老來不復爲少壯。蘇秦人ト爲リ強勉。睡魔至ル毎ニ。自ラ錐ヲ以テ股ヲ刺シ。以テ學問ヲ勵ミシト云フ。

○讀書百遍意自通。況是反覆一千遍。以俊秀資猶且然。愧吾輩一遍得々。雨森芳洲、年八十一ニシテ始テ和歌ヲ樂マント欲シ。以爲ラク。先ツ熟讀シテ而ノ多ク作ルニ如クハ莫シト。乃チ二年ヲ經テ古今集ヲ讀ム。一一千遍。又三年ニシテ和歌ヲ賦スル。一萬首。

○競馬や。孰れ劣らぬ駿馬かな。山崎闇齋。中村惕齋ト。壯歲相苦學シ。博覽相競フ。某歲、闇齋、痢ヲ疾テ床ニ臥ス。惕齋以爲ラク。彼必ズ讀書ヲ廢スル矣。此レ以テ乘ズ可ク。其上ニ出ヅル豈難カラシヤト。乃チ未ダ讀マザルノ書ヲ取り。淬勵研究。晝夜困勉ス。一日往テ闇齋ヲ問フ。闇齋、疾未ダ愈ズ。虎子ニ跨リテ感頷ス。而ノ猶ホ痛ヲ忍ンテ卷ヲ披ス。惕齋大ニ驚ク。

○獨嘯菴亡遊。氷富獨嘯菴ハ長門人。幼ニ古人ノ節ヲ慕ヒ。好ンテ經史ヲ讀ム。良師友無キヲ憂ヒ。歲甫メテ十一ニシテ。一夜、青錢百文ヲ懷ニシテ家ヲ脱シ。赤馬關ニ走ル。或ヒト諭シテ曰ク。兒ハ實ニ兒ナリ。百錢豈ニ千里ニ遊ブ可ケンヤト。獨嘯菴、意トセズ。舟ヲ買テ東遊ス。

秋園觀七草
松本主堂
睡手收功計已非。幾年
定省負庭闈。村園又看
秋如錦。未製歸鄉一領
衣。

○笠原長順。長順ハ本多侯ノ侍醫也。學識有リ。子順菴ヲシテ醫ヲ京師ニ學ハシム。順菴三年ニシテ而シテ歸ル。長順、謁スル。一ナ許サズ。先ツ運氣論ノ疑義二三條ヲ出シ。障ヲ隔テ、之ヲ質ス。其未熟ナルヲ見。趣チ斥ケテ曰ク。學ブ所是ノ如シ。汝何ツ歸ルヤト。見ズノ更ニ往テ學ハシム。

○斷機激夫。樂羊子遊學シ。未ダ三月ナラズノ歸ル。其妻、刀ヲ引テ機ヲ斷シテ曰ク。君、師ヲ尋ネ。中道ニシテ而ノ歸ル。何ツ此織物ヲ斷ズルニ異ナランヤト。羊子慙憤。往テ業ヲ卒ル。孟子ノ母。亦タ

示諸生
安積良齋

戒君莫見墨田花。花下美人花讓華、戒君莫見墨田月。月下少婦月耻潔。先哲惜陰強精研。何暇花月耽流連。吾閑諸生三十年。志業多因花月損。

斷機。孟子ノ中道ニシテ學ヲ輟テ歸ルヲ戒ム。

○朝寢晝寢。惰遊放蕩小説に。耽れる人や如何に思ふぞ。加賀ノ人岡嶋仲通。家裕ナラズ、父既ニ没シ。獨リ老母在リ。而ノ遠遊シテ木下順庵ニ學ブ一數歲。一日順庵。白石ヲ以テ賀藩ニ薦メント欲ス。仲通之ヲ羨ミ。歎シテ曰ク。予笈ヲ負フテ遠遊スル一茲ニ若干年。比ロ家書ニ接スルニ。老母、日ニ衰ヒ。閭ニ倚テ予ノ歸ルヲ待ツト。一念此ニ至ル毎ニ。百感心ニ攢マリ。覺ヘズ滿身凄然タリト。

仕人

詠懷

司馬溫公

三十餘年西復東。勞生薄官。等飛蓬。所存舊業惟清白。不負明君有朴忠。早避喧煩真得

○良基清廉。橘良基ハ五州ニ歷任シタル人也。罷メ歸ルニ及ンデ。每ニ資財ヲ載セズ。常ニ子孫ニ教ユルニ己ヲ潔フスルヲ以テス。嘗テ其子在公ガ治政ノ要ヲ問フニ答テ曰ク。百術有リト雖一清ニ如カズト。

策。未逢危辱好收功。太平觸處農桑滿。贏取閭閻鶴髮翁。

○自効何公明。民慕何有望。不受何廉介。小島蕉園ハ江戸ノ人。性清介。才、治民ニ長シ。嘗テ田安侯ノ稅官ト爲リ。甲州ニ在リ。州俗頑悍。古ヨリ善ク治ムル希ナリ。而ノ蕉園數年ナラズノ善ク之ヲ撫順ス。人稱シテ神明ト爲ス。後、過有リ。自効ノ仕ヲ致ス。州民追慕シテ措カズ。其困窮ヲ聞クヤ。相共ニ醜金シ。贈テ之ヲ救ハント請フ。蕉園峻拒ス。民則チ相議シ。其金ヲ用テ生祠ヲ立テ。永ク其恩ヲ拜謝スト云フ。

○珍らしや。菓子箱なると睨む世に。鈴木維清。家、世々田中ニ仕フ。維清性忠誠方介。牧民ニ長シ。民人欣慕ス。一日鯉ヲ罾シテ呈謝ス。維清怒ツテ曰ク。苞苴ハ嚴禁スル所。汝何ツ敢テ爲ルト。之ヲ卻ク。民乃チ芒鞋十兩ヲ捆テ之ヲ奉シテ曰ク。霜路泥塗。巡視ノ用ニ供スルヲ得ハ幸甚ト。維清欣如トシテ曰ク。此ハ是レ眞實ノ好贈物。好意謝スルニ堪タリト。頂上ニ加ヘ。喜謝ノ之ヲ受ク。

○羊續清儉 后漢ノ羊續、南陽ノ守ト爲ル。清儉ヲ以テ下ヲ率ユ。一布被ニ臥シ。敝ルレバ則チ糊スルニ紙ヲ以テス。

○國忠氷山 唐ノ楊國忠。寵ヲ恃ンテ恣横ナリ。人爭フテ之ニ附ク。張彖曰ク。人、國忠ニ倚テ以爲ラク。泰山ノ如シト。吾ハ以テ氷山ト爲ス耳。

○不市恩不掠美。只務做盡本分。眞個人臣龜鑑。明ノ覃吉。温雅誠篤。

。東宮ノ内官タリ。輔導必ズ道ヲ盡シ。肺ヲ吐キ肝ヲ露ハシ。古今ノ政典。天下ノ民情。農桑軍務ノ事ヨリ。以テ官者ノ情弊ニ至ルマデ悉ク之ヲ直言ス。常ニ曰ク。吾老タリ。富貴望ム所ニ非ズ。但マ天下ニ賢主ヲ生ズレハ足レリト。

○生寄而死歸。欲碎身盡國。万里不測行。吾學始有用。元ノ世祖、宋ト講和セント欲ス。而レ臣未ダ其使ヲ命ス可キ者有ラズ。王文統、素ヨリ郝經ノ才徳ヲ思ム。乃チ經ヲ遣ハシテ行カシム。或ヒト經ニ

謁楠河州墳有作

賴山陽

東海大魚奮鬣尾。蹴起黑波汗黼衣。隱島風雲重慘毒。六十餘州總鬼虺。誰將隻手排妖氛。身當百萬哮闕群。揮戈擬回虞淵日。執甬同刷卽墨雲。關西自有男子在。東向寧爲降將軍。旋乾轉坤答值遇。洒掃輦道迎鑿駱。論功睢陽尤有

力。謾稱李郭安天步。出將入相位未班。前狼後虎事復艱。獻策帝闈不得達。決志軍務豈生還。且餘兒輩繼微志。全家血肉殲王事。非有南柯存舊根。偏安北闕向何地。攝山逶迤海水碧。吾來下馬兵庫驛。想見訣兒呼義來戰此。刀折矢盡臣事畢。北向再拜天日陰。七生人間滅此賊。碧血痕化五百歲。茫茫春蕪長大麥。君不見君臣相圖骨肉相吞。九葉十三世何所存。何如忠臣孝子萃一門。萬世之下一片石。留無數英雄

謂テ曰ク。是レ敵ヲ假リテ君ヲ殺スノ策也。蓋ア疾ヲ以テ之ヲ辭セザル。經曰ク。彼我、難ヲ構ヘテヨリ。江淮ノ遺黎。弱キ者ハ俘ニセラレ。壯ナル者ハ原野ニ死ス。聖上一視同仁シ。務テ兩國ノ好ヲ通ズ。吾一命ヲ擲チ不測ノ淵ヲ踏ムト雖也。苟モ能ク兵ヲ弭メ亂ヲ靖ンシ。百萬憐ム可キノ生靈ヲ救ハシ。吾學庶幾ハ用有リト爲ス。一身ノ死生豈ニ恐レンヤト。行ク。

○韓延壽 漢ノ韓延壽至誠ヲ推テ民ヲ治ム。恩信周偏。事ニ坐シテ棄市セラル、ニ及ンデヤ、百姓流涕セザル莫シ。

○棠舍覃恩。姦猾改行。藤原保世。名世ノ才ヲ以テ要路ニ擢ラレズ。大宰、大貳タリシトキ。時方ニ頻年飢饉ノ後ナリシヲ以テ。姦猾横行シ。民衆困頓ス。保則即チ其俸給ヲ傾ケテ之ヲ賑贍ス。賊徒大ニ感慨シ。相語テ曰ク。府君、父母ノ情ヲ以テ我ヲ遇ス。我レ豈ニ孝子之心ヲ盡サザル可ケンヤト。相率テ行ヲ改ム。

淚痕。

下筑後川過菊池

寂阿公戰處感而

作 賴山陽

文政之元十一月。吾下筑水。飢舟筏。水流如箭。万雷吼。過之使人豎毛髮。居民何記正平際。行客長思己亥歲。當時國賊擅鳴張。七道望風助豺狼。勤王諸將前後沒。西陲僅存臣武光。遺詔哀痛猶在耳。擁護龍種同生死。大舉來犯彼何人。誓剪滅之報天子。河亂軍聲代銜枚。刀戟相摩八千師。馬傷胃破氣益奮。斬敵取胃奪馬騎。

○閻憲、禮讓化民。閻憲、綿竹ノ令爲リ。禮讓ヲ以テ民ヲ化ス。民皆正直。或ヒト夜行シテ一遺囊ノ錦二十四匹有ルヲ得。其主ヲ求テ之ヲ還シテ曰ク。縣ニ明君有リ。何ゾ不正ナル可ケンヤ。

○王烈以德化民。漢ノ王烈。德行ヲ以テ郷里ヲ化ス。民、牛ヲ盗ム者有リ。其主之ヲ獲。盜曰ク。刑罰ハ是レ甘ンズ。願ハクハ王君ヲノ之ヲ知ラシムル勿レ。

○敬して遠ざく逐ひ出す算段。願はくば。他へ榮轉と望まると。者ハ實に天地雲泥。吳ノ鄧攸。吳興郡ニ守タリ。惠政有リ。郡ヲ離ル、ノ日。百姓其船ニ攀チ。之ヲ送ルコト三百餘里。猶ホ別ル、ニ忍ビズノ曰ク。鄧侯。挽不來ト。

○吾才と。銜はんとてや入らぬ世話。紛紜起す者と霄壤。宋ノ邵華。廣州ニ知タリシト。内河ヲ鑿テ舟ヲ通シ。颶風ノ害ヲ除ク。陳世卿ノ之ニ代ルヤ。又、廣南ノ口鹽稅ヲ奏免ス。民歌フテ曰ク。邵父陳母。

除我二苦ト。

○家康用吏。德川氏ノ臣。天野康景。本多重次。高力清長。共ニ奉行ニ任ズ。重次ノ人タル猛。清長ハ寛。康景ハ其間ニ處ル。彼此相濟ヒ。封内大ニ治マル。國人悦ンテ語テ曰ク。佛高力。鬼作左。彼此無偏ノ天野三郎ト。初メ家康ノ三人ニ命ズルヤ。曰ク。夫婦和セザルモ。子有レハ則チ和ス。官ニ居ル者。此意ヲカル可カラズト。

被箭如蟻目皆裂。六萬賊軍終挫折。歸來河水笑洗刀。血迸奔端噴紅雪。四世全節誰儔侶。九國逡巡西征府。棟蓐未肯向北風。殉國傳劍自乃父。嘗卻明使壯本朝。豈與恭獻同日語。丈夫要貴知順逆。少貳大友何狗鼠。河流滔々去不還。遙望肥嶺響南雲。千載姦黨骨亦朽。獨有苦節傳芳芬。聊吊鬼雄歌長句。猶覺河聲激餘怒。

偶成

木戸孝允

一穗寒燈照眼明。沈思默坐無限情。回頭知己

○寛永三輔。土井利勝。青山忠俊。酒井忠世ト。共ニ將軍家光ノ傳タリ。資性各殊ニシテ而シテ同心協力ス。忠世ハ威儀矜莊ニシテ家光ヲノ緩怠セザラシメ。忠俊ハ剛直ニシテ善ク諫ム。陳メテ納レラザレハ則チ刀ヲ拔テ肉袒シテ進ンテ曰ク。宜シク臣ヲ誅スベシト。言極メテ剴切。利勝ハ醞藉。忤ラハズ。徐ロニ之ニ説テ曰ク。青山ガ言フ處亦善シ。殿下蓋ツ之ニ從ガハザルト。或ハ過舉有レハ則チ曰ク。他、之ヲ聞ク無キヲ得ンヤト。家光之ニ由テ其德、日ニ修マル。人、三人ヲ

人既遠。丈夫畢竟豈計名。世難多年万骨枯。廟與風色幾變更。年如流水去不返。人似草木爭春榮。邦家前路不容易。奈三千餘萬蒼生。山堂夜半夢難結。千山万岳風雨聲。

己巳五月奉勅赴

東京 陸奥宗光

壯志未酬餘短身。斯行何又避辛酸。政治他年冠千古。皇道如今屬維新。天下安危歸冷眼。邦家柱石豈無人。一封泣草濟時表。不負此君與此民。

稱シテ寛永ノ三輔ト曰ク。

○丙吉問牛喘 漢ノ丙吉、宰相ト爲ル。嘗テ春日出遊ス。群闘死傷スルニ逢フテ問ハズ。牛ノ喘クニ逢フテ問ハシメテ曰ク。牛ヲ逐フテ行クノ幾里ツト。蓋シ民闘ヲ禁ズルハ京兆ノ職。陰陽ノ不調ヲ憂フルハ宰相ノ務。春ノ氣ハ暖。而ノ牛喘ク。是レ陰陽宜キヲ失フテ而ノ氣熱スル也。是レ吉ガ彼ヲ問ハズ。此ヲ問フ所以也。人以テ大體ヲ知ルト爲ス。

○朝令暮改變又變。不堪言百弊並起。殷鑑不遠在今日。善此黃公依故說。漢ノ黃霸。潁川太守ト爲ル。長史許丞老テ聾ヲ病ム。督郵、白シテ之ヲ逐ハント欲ス。霸曰ク。許丞ハ廉吏。老タリト雖凡猶能ク拜起ス。重聽何ツ傷マシ。數ハ長史ヲ易ヘハ。故ヲ送リ新ヲ迎フノ費。及ビ姦吏因縁シ。簿書ヲ絶テ財物ヲ盜ミ。公私ノ費耗甚ダ多ク。且ツ易フル所ノ新吏。未ダ必ズシモ賢レルナラズ。或ハ反テ其故

述懷

火友皇子

道德承天訓。鹽梅寄眞宰。羞無監撫術。安能臨四海。

戊辰作

板垣退助

出師未曾汚天兵。一死只期竹帛名。彈子飛行亂如雨。喜見壯士躍登城。

示兒

陸游

死去元知萬事空。但悲不見九州同。王師北定中原日。家祭無忘告乃

ニ如カズ。徒ニ亂ヲ爲ス耳。凡ツ治道ハ。其甚シキ者ヲ去ルノミト。

○蹇々匪躬。擁膝僅眠。何等忠勤。何等誠勵。北魏ノ高柔、刺姪令史ヲリ。法ニ處スルノ平允。夙夜懈ラズ。膝ヲ擁シ文書ヲ抱テ而ノ寢ルニ至ル。大祖一夜微行シテ之ヲ見。哀ンテ裘ヲ脱シテ柔ガ身ヲ覆フテ去ル。

○氣如霜兮膽如雷。叱咤一掃專橫吏。漢ノ朱博。瑯琊ノ守ニ遷ル。瑯琊ノ俗舒緩。椽吏專橫。故事ニ。二千石初テ到レバ。吏ヲ遣ハシテ椽吏ヲ存問ス。椽吏乃チ起テ職ニ就ク。博。鬚ヲ奮ヒ机ヲ打チ。即チ悉ク其病ト稱シテ出テザル者ヲ斥罷ス。

○董萱 后漢ノ董萱。洛陽ノ令ト爲ル。豪強ヲ搏擊シ。管内靜肅。桴鼓鳴サズ。人號シテ臥虎ト曰フ。

○温造 宋ノ節度使李祐。入朝ノ詔ニ違フ。侍御史温造、之ヲ彈ズ。祐、人ニ謂テ曰ク。今日我膽、温御史ニ落ツト。

翁。

題青泥市寺壁

平度吉、群盜道
出新塗時作
岳 飛

雄氣堂々貫斗牛。誓將
眞節報君讐。斬除頑惡
還軍駕。不問登壇萬戶
侯。

送唐介

李師中

孤忠自許衆不與。獨立
敢言人所難。去國一身
輕似葉。高名千古重於
山。並游英俊顏何厚。未
死奸賊骨已寒。天爲

吾君扶社稷。肯教夫子
不生還。

重送裴郎中貶吉

州 劉長卿

猿啼客散暮江頭。人自
傷心水自流。同爲逐臣
君更遠。青山萬里一孤
舟。

送李少府貶峽中王

少府貶長沙

高適

嗟君此別意何如。駐馬
銜杯問謫居。巫峽啼猿
數行淚。衡陽歸雁幾封
書。春楓江上秋天遠。白
帝城邊古木疎。聖代卽
今多雨露。暫時分手莫
躊躇。

○尹思貞 唐ノ尹思貞、司府少卿ナリシ也。威望有リ。吏相謂テ曰ク。
不畏侯鄉杖。祇畏尹卿筆ト。侯郷トハ侯知一チ斤ス。侯知一モ亦威
嚴ヲ以テ人ニ憚ラレシ人也。

○勇往剛直ノ行。烈日嚴霜 宋ノ劉安世。正色、朝ニ立ツ。時ノ俚語ニ
之ヲ目シテ殿上虎ト曰フ又、王素、性抗直。其憲臺ニ在ルヤ。風力
特ニ厲シ。人目シテ獨擊鵲ト爲ス。

○魏徵見惜死 唐ノ魏徵、死ス。太宗曰ク。銅ヲ以テ鑑ト爲セバ。衣冠
ナ正ス可シ。古ヲ以テ鑑ト爲セバ。典廢ヲ知ル可シ。人ヲ以テ鑑ト爲
セバ。得失ヲ明ニス可シ。朕嘗テ此三鑑ヲ寶トス。今徵死ス。一寶鑑
亡スト。

○紀平州、美績 紀平州ハ尾張ノ儒者ナリ。安永中。米澤侯ノ聘ニ應
ジ。往テ政刑ヲ參定シ。失得ヲ覆檢ス。百廢皆興リ。衆民大ニ悦ビ。
其途ヲ行クヲ見レバ。感泣ノ跪拜シ。大慈大悲ノ生如來様ト云フ

ニ至ル。

○召父杜母 漢ノ召信臣。南陽ノ太守ト爲ル。後、杜詩之ニ代ル。民語
シテ曰ク。前ニハ召父有リ。後ニハ杜母有リト。

○時雍化洽。禽獸感恩。 后漢ノ劉昆、弘農ノ大守ト爲ル。虎、皆、子チ
負フテ河ヲ渡ル又、后漢ノ宋均遷。九江郡ニ守タリ。郡素虎多シ。
均遷到リ德政ヲ行フニ及ンデ。虎、相與ニ江ヲ渡テ去ル又后漢ノ
馬稜、武陵軍ニ守タリ。蝗飛テ海ニ赴ク。又岑彭、潁川ノ守タリシ
也。甘露嘉禾鳳凰麒麟ノ瑞有リ王業、荊州ノ守ト爲ルヤ。山ニハ蝮
蛇豺狼無ク。川ニハ鯨鯢無ク。風波又起ラズ。晋ノ王阜。香泉ノ令
ト爲ル。鸞鳥、學宮ニ集ル又。荀藐。榆次ノ令ニ除セラル。鳳凰有リ
。其境ニ集ル。又、漢ノ陽球。武陵ノ令ト爲ル。蝗、其境ニ入ラズ。
○父子双績 齊ノ傅僧綽。子琰ト並ニ山陰ノ令ト爲リ。共ニ奇績ヲ著
ハス。人以爲ラク。傅氏、治縣ノ譜有リト。

早朝口占

錢宰

四鼓寥寥起着衣。午門朝見尙嫌遲。何時得遂田園樂。睡到人間飯熟時。

風雨早朝

高啓

漏屋鷄鳴起濕煙。蹇驢難借強朝天。却思春水江南岸。閑聽蓬聲臥釣船。

聞徂徠先生携諸子泛舟墨川賦此簡諸君

守山侯賴

今朝李郭方舟遊。縹渺雲煙墨水秋。命駕幾

回猶未果。冠纓何物使人愁。

咏風箏

廣瀨旭莊

鳥々搖々升未休。穿雲逼日欲何求。一時跋扈鳴天上。風歇方知不自由。

詠史 周曇

文武傳芳百代基。幾多賢哲守成規。仍聞吐握近儒素。猶恐民疵未盡知。

○兄弟悉著績 梁ノ岑羲、字ハ伯華。金埜ノ令ト爲ル。弟仲翔。長州ノ令ト爲リ。仲休亦マ漂水ノ令ト爲リ。並ニ奇績有リ。世稱シテ三岑ト曰フ。

○夏井德望 紀夏井、才德俱ニ美、深ク文德帝ニ寵任セラル。初メ讚岐ノ守ト爲ル。政化大ニ行ハレ。其任滿ルヤ。百姓相率テ闕ニ詣テ留メント請フ。後、肥後ノ守ト爲ル。亦大ニ衆庶ヲ服ス。清和帝ノ時ニ及ンテ。事ニ坐セテレテ土佐ニ竄セラル。肥ノ吏民悲痛哀慕シ。與テ擁シテ別テ惜ミ。展轉、道路ニ號泣ス。既ニ土佐ニ向ヒ。讚岐ノ境ヲ過グルヤ。國中ノ民衆。老チ扶ケ幼チ携ヒ。皆出テ、亦道ニ迎フル。數十里。到ル所嗚咽慟哭セザル莫シト云フ。

○劉大夏 劉大夏ハ清ノ致仕尙書タリ。讒ニ遭フテ謫戍セラル。京民悼惜シ。香チ焚キ盂ヲ携ヘテ泣テ之ヲ餞ス。至ル所亦皆、市チ罷ム。天下皆之ヲ稱シテ曰ク。國體ニ通達スル陸贄ノ如ク。質直ニシテ阿ラザル。汲黯ノ如ク。廉潔ニシテ私セザル。包拯ノ如ク。忠誠懇切ナル。司馬光ノ如シト。

○海瑞 清ノ海瑞。南京ノ僉都ト爲リ。治蹟顯美。民、頌シテ包老ノ再生ト爲ス。其卒スルヤ士民之ヲ哭シ。市チ罷ムルニ至ルモノ數日。喪ノ江上ニ出ツル。送ル者兩岸寸隙無シ。沿途、祭ヲ設クル。數百里。

○願借寇君 后漢ノ寇恂、潁川ノ太守ヨリ召サレテ執金吾ニ轉任ス。會マ光武潁川ニ幸ス。百姓道ヲ遮ツテ曰ク願ハクハ寇君ヲ借ント。帝乃チ之ヲ留ム。

○周公 周公東征ス。成王、風雷ノ變ニ感シ。公ヲ召シ還ス。東人、別チ惜ンテ曰ク。是以有衰衣兮。无以我公歸兮。无使我心悲兮。

○兄弟皆有望 唐ノ賈耽、潁中ノ司馬タリ。民、爲ニ碑ヲ立ツ。弟敦實、長史タルニ及ンテ。民、復々之ヲ石ニ刻ム。其側ニ頌ス人號シテ

無題 大橋順藏

五胡猖獗國將傾。肉食猶言真太平。最恠謝安出山後。更無偉略拯蒼生。

棠棣碑ト曰フ。

○寇萊公 宋ノ寇萊公、準。名初、巴東ニ令タリ。手ツカラ双栢ヲ邑庭ニ植ユ。既ニ去ル。吏民公ニ慕フノ餘リ之ヲ愛シ。之ヲ甘棠ニ比シテ萊公栢ト號ス。

○范蠡 范蠡ハ越ノ人。越王句踐ヲ輔ケテ吳ヲ破リ。遂ニ舟ヲ泛ベテ五湖ニ遊ブ。越王之ヲ思フテ不得。乃チ金ヲ以テ其像ヲ鑄。每朝之ヲ禮ス。

○令狐綯 宋ノ令狐陶、學士ト爲リ。一日入對シテ夜歸ル。上、金蓮燭ヲ撤シテ之ヲ送ル。

○孔明 蜀ノ先主嘗テ云フ。孤ノ孔明ヲ得タル。猶魚ノ水有ル如シ。○霍光 漢ノ武帝、霍光ヲ擢テ太子ノ傅ト爲シ。黃門ヲシテ周公成王ヲ負フテ諸侯ヲ朝セシムル圖ヲ畫エテ以テ光ニ賜フ。

○喬智明 唐ノ喬智明。陸盧ノ令爲リ。吏民之ヲ愛シ。號ノ神君ト爲ス。

○廉范 漢ノ廉范。蜀郡大守ト爲ル。百姓歌フテ曰ク。廉叔度來何暮。不焚火民安作。昔無襦今五袴ト。

○張堪 后漢ノ張堪。漁陽太守ト爲ル。民歌フテ曰ク。桑無附枝。麥秀兩岐。張君爲政。樂不可支ト。

○民爭杜公 宋ノ杜衍。乾州ニ知タル。未ダ周歲ナラズノ能ク之ヲ安撫ス。朝廷乃チ又鳳翔府ヲ兼シム。二郡ノ民。界上ニ相爭フテ曰ク。杜公ハ我君也。汝ノ君ニ非ル也ト。

○司馬溫公 宋ノ司馬溫公。名聲一世ニ高ク、田夫野老。婦人孺子ニ至ルマデ。皆之ヲ知ラザル無ク。蘇軾ノ言ニ曰ク。兒童モ君實ヲ知リ。走卒モ司馬ヲ知ルト。故ニ其登ツテ相ト爲ルヤ。契丹畏レテ曰ク。中國、司馬ヲ相トス。切ニ事ヲ生シ邊隙ヲ開ク勿レト。

○富弼 宋ノ富弼、相ト爲ル。遼使至ル毎ニ。必ズ其出處起居ヲ問

○裴度 唐ノ裴度。名、四夷ニ震フ。唐使ノ夷ニ往クヤ。其君長必オ度ガ年齢、今幾何。其、狀貌ノ如何。今天子用ユルヤ否ヤヲ問フ。蓋シ其威聲德望ノ熾ナル。之ヲ郭汾陽ニ比ス可シト云フ。

○三吏部 唐ノ李尙書義。王尙書丘。崔賓客沔。並ビニ吏部ヲ掌リ。皆當時ノ美稱ヲ獲。人之ガ爲メニ語シテ曰ク。丘山岌々連天峻。沔水澄々徹底清。

○寧成威名 漢ノ寧成。關都尉ニ拜ス。百姓謠フテ曰ク。寧見乳虎。无値寧成怒ト。

○李廣 李廣ノ威名遠ク匈奴ニ馳セ。匈奴、號シテ漢ノ飛將軍ト曰ヒ。其向フ所ハ之ヲ避ク。

○仲愛默與 泉仲愛、備前侯光政ニ事フ、有德ヲ以テ人ノ重ンズル所ト爲ヌ。嘗テ政事ヲ與カリ聞ク。仲愛默ノ言ハズ。有司竊ニ相

笑フ。光政之ヲ聞テ曰ク。仲愛坐ニ在レバ。人々識ラズ知ラズ敢テ矯僞セズ。此レ以テ國政ニ益有リ。何ゾ其言フト言ハザルヲ問ハシヤト。

○不能折腰于小兒 晋ノ陶淵明。彭澤ノ令ト爲ル。吏曰ク。應ニ束帶以テ督郵ニ見ユヘシト。淵明曰ク。吾豈ニ五斗米ノ爲ニ腰ヲ折リ。敢テ郷里ノ小兒ニ事ヘンヤト。即日印綬ヲ解テ去ル。

○魯仲連 田單、魯仲連ガ言ニ感激シ。一憤即チ聊城ヲ屠陷ス。因テ之ニ爵セント欲ス。仲連、海上ニ逃テ曰ク。其富貴ニシテ而ソ人ニ屈センヨリハ。寧ロ貧賤ニシテ世ヲ輕ンジ。志ヲ肆コセント。

○姜肱 姜肱ハ漢ノ靈帝ノ時ノ人ナリ。帝、曹節ノ薦ニ由テ之ヲ徵ス。肱、身ヲ隱シ世ヲ避レ。桴ニ乘テ海中ニ入ル。

○范蠡 范蠡ハ越ノ臣ナリ。越王句踐ノ人ナル。長頸鳥喙。范蠡以爲ラク。此レ與ニ患難ヲ共ニス可シ。與ニ安樂ヲ共ニス可カラズ

詠史

嵩 懶仙

歸去來兮恰及時。何堪斗粟折腰肢。先生傲骨堅於石。不似門前弱柳枝。

解印(余爲彭澤令

三年) 廖 凝

五斗徒勞漫折腰。三年兩髻爲誰魚。今朝官滿重歸去。還挈來時舊酒瓢。

感遇

張九齡

孤鴻海上來。池潢不散
顧。側見雙翠鳥。巢在三
珠樹。矯々珍木顛。得無
金丸懼。美服患人指。高
明逼神惡。今我遊冥々
戈者何所纂。

途中

張詠

人情到底重官榮。見我
東歸夾路迎。不免舊溪
高士笑。天真喪盡得虛
名。

悍吏

鄭板橋

縣官編丁著圖甲。悍吏
入村捉鷺鴨。縣官養老
賜帛肉。悍吏沿村括稻
穀。豺狼到處無辨過。不
斷人喉扶人目。長官好
善民已愁。况以不善司
民牧。山田苦旱生草菅。
水田浪濶聲潺々。聖主
深仁發天庾。悍吏貪勤
爲刁奸。索逋洵々虎而
翼。叫呼楚撻無寧刻。村
中殺雞忙作食。前村後
村已屏息。嗚呼長吏空
不知。知而故縱非人爲
石壕吏

杜甫

ト。既ニ越ノ爲ニ吳ヲ滅スルヤ。即チ其輕寶珠玉ヲ裝メ江湖ニ逃
ル。

○伍子胥 伍子胥ハ楚ノ人。吳王夫差ニ事フ。言、旨ニ逆フ。夫差乃チ
子胥ニ屨鏤ノ劍ヲ賜フテ死ヲ命ズ。子胥、家人ニ告テ曰ク。必ズ吾
墓ニ楨ヲ樹ヨ。楨、材ト爲ルノ日ハ。越必ズ至ラン。又吾目ヲ抉ツテ
東門ニ懸ヨ。以テ越ガ吾吳ヲ滅スヲ觀ント。乃チ自刎ス。後、幾年ナ
ラズ。越果シテ吳ヲ滅ス。

○作無尾牛歌 源順ハ弘仁帝四世ノ孫也。博覽強記。詩文巧妙。嘗テ
官セント欲シ而ノ達セズ。乃チ無尾牛ノ歌ヲ作り。以テ其意ヲ寓ス
。圓融帝讀テ之ヲ愍ミ。能登ノ字ニ任ズ。

○縣令 漢ノ孝宣帝。常ニ曰ク。民ノ其田里ニ安ンシ。而ノ歎息愁歎
ノ聲ナキ所以ハ。政平ニ訟、理マレバ也。我ト之ヲ共ニスル者ハ。其
レ惟ダ良二千石乎ト。

○盜みても。く猶飽ぬ哉 后魏ノ元譚。齊州刺史ニ遷ル。貪暴、大ニ
民人ノ患害ヲ爲ス。一沙門有リ之ヲ諫ム。譚曰ク。齊州七萬家。吾未
ダ每家ニ三斗錢ダモ取ラズ。何ツ之ヲ貪フト。

○我ハ我。汝ハ汝笑ふとも。取りさへれば屈とも思はぬ。 宋ノ鄧
綰、安石ニ諂フ。郷人、口ヲ極テ之ヲ笑罵ス。綰笑テ曰ク。笑罵ハ佗
ノ笑罵ニ從ス。我ハ唯ダ好官ヲ得レハ足レリト。

○仕官せば。養生の爲と思ひての。 唐ノ陽城。諫議大夫ト爲リ。在職
七年。而シテ未ダ嘗テ諫メズ。韓文公ニ爭臣論ヲ以テ譏ラル。

○伴食と。左なわざけるな中々に。 人乃稱ゆる畫一の風 唐ノ盧懷
慎。自ラ才能ノ姚崇ニ及ハザルヲ知リ。政事、一ニ崇ニ咨詢シ。敢テ
自ラ專ニセズ。人之ヲ伴食宰相ト謂フ。

○世の中は。因果應報車の輪。勢ひ恃み何と仇と爲る。 唐ノ酷吏、王
弘義。微ナリシ時、隣家ノ瓜ヲ求ム。得ズ。深ク之ヲ銜ム。後、御史ト

暮投石濠村。有吏夜捉人。老翁踰牆走。老婦出門看。吏呼一何怒。婦啼一何苦。聽婦所致詞。三男鄴城戍。一男附書至。二男新戰死。存者且偷生。死者長已矣。室中更無人。惟有乳下孫。有孫母未去。出入無完裙。老嫗力雖衰。請從吏夜歸。急應河陽役。猶得備晨炊。夜久語聲絕。如聞泣幽咽。天明登前途。獨與老翁別。

爲ルヤ。乃揚言シテ曰ク。彼園ニ白兔有リト。縣衆ヲ集メテ之ヲ捕逐ス。瓜之カ爲メニ殘無シ。弘竊ニ悅ブ。人譏ルニ白兔御史ヲ以テス。

○情なまけ容赦もあらずに。罪にも罪きとと鍛きたふなる。酷こき行ひ人の鬼かし

唐ノ武后、酷吏ヲ愛シ。羅希爽、吉温用ヒラル。二人共ニ成獄ヲ鍛煉シ。酷罰ヲ以テ事ト爲ス。時人稱シテ羅羅吉網ト曰フ。「監察御史李全交。酷虐ヲ專トス。臺中、鬼面夜叉ヲ以テ之ヲ目ス」殿中ノ王旭亦酷虐。時人名ケテ人頭羅刹ト云フ。皆唐ノ人ナリ」

○晋ノ杜預、尙書爲リ。才能足備スルヲ以テ。人號シテ杜武庫ト云フ「漢ノ魯共、參政ヲリ。性骨鯁。時人、之ヲ魚頭參政ト號ス。唐ノ劉思立。石御史ト稱セラル。高宗ノ朝ノ人也」楊賸德。鉄補闕ト稱セラル。乾寧中ノ事也「宋ノ田成均ノ成都ヲ治ムルヤ。照天蠟燭ト呼ハル」又張中庸ノ洋州ニ知タルヤ。人呼テ水晶燈籠ト曰フ。(追加)

雜

○世に命。長きハ恥の多しとは。此人知らぬ人やいひけん和歌 武内大臣。人ト爲リ。忠勇整肅。皇家ノ元老。托孤ノ功臣。壽三百有餘。六朝ニ歷事スト云フ「昔、大椿ト云ヘル人ハ。八千歳ヲ以テ春ト爲シ。八千歳ヲ以テ秋ト爲ス

○老健 仁明帝ノ時。俗人ニ尾張濱主ナル者有リ。齡一百三十。而シテ長壽樂ヲ作り。表ヲ上テ舞ント請フ。帝乃チ清涼殿ニ御シテ之ヲ觀ル。濱主、節ニ應シテ袖ヲ飄ヒユガシ。俯仰自在。宛然少壯ノ如シ。帝大ニ賞賜ス。

老馬 郝 經
百戰歸來力不任。消磨神駿老驥々。垂頭自惜千金骨。伏櫪仍存万里

○諱云年老 后魏ノ傅奕。年八十有九。猶能リ馳射駕御ス。常ニ老ヒメリト云フヲ諱シ。自ラ六十九年ト稱ス「齋藤實盛。年老ヒ髮白シ。以爲ラク。白髮ナレバ則チ少壯者ニ侮ラルト。乃チ白髮ヲ染メテ之

心。歲月淹延官路杳。風塵在苒塞垣深。短歌聲斷銀燼缺。常記當年瀾士吟。

述懷 滯生君平

丈夫生有四方志。千里劍書何處尋。身仕轉蓬無遠近。思隨流水幾浮沉。笑看樽酒狂先發。泣讀離騷醉後吟。唯賴太平恩澤渥。自將章句托青衿。

僧巨然畫

鮮于樞

秋鱸春鱖足林羹。萬頃烟波兩櫂橫。就使直釣隨分曲。不將淨生釣淨

名。

禪僧 丘瓊山

自入叢林歲月長。數椽蕭宇插穹蒼。一眞湛々三乘透。五温空々万慮忘。鉢底降龙肘溢水。圈中虎伏畫焚香。渾然失却人間事。一點禪心自秘藏。

孝子 狄仁傑

幾度天涯望白雲。今朝歸省見雙親。春秋雖富朱顏在。歲月無憑白髮新。美味調羹呈玉笋。佳殺入饌鱸水鱗。人生百行無如孝。此志睿々慕古人。

寒僕 賴山陽

チ黒クシ。以テ少壯者ト伍シテ軍ニ從フ

○老ひたりと。のたもふけれど。見となりせ。寄る年波の老ひしのみなり。后漢ノ伏馬將軍馬援。往テ五溪蠻チ撃ント欲ス。帝、其老ヒタルチ愍ミテ未ダ之チ許サズ。援曰ク、臣老年ナリト雖也。猶ホ能ク甲チ披シ馬ニ上ルト。即チ鞍ニ據テ顧存ス。帝笑テ曰ク。矍鑠タル哉是翁。

○老驥伏櫪志千里。臣雖老豈無能爲。壯志劍鳴氣衝天。楚丘先生年七十コシテ孟嘗君ニ見ユ。君曰ク。先生老ヒタリト。丘曰ク。投石超距。逐麋搏豹。斯クノ如キニ至テハ則チ臣老ヒタリ。使シテ辭チ出シ。以テ諸侯ニ當ルニ至テハ。則チ臣猶壯也。豈尋常老骨ノ比ナラシヤト。

○長大之人 景行天皇。身ノ丈一丈有餘。脛ノ長サ四尺ニ過グ。「皇子日本武尊。身高サ一丈。力、能ク鼎チ扛シ」安倍貞任亦長大。腰圍世ニ類ナシ。

○大聲之人 晋ノ崔陵。警咳、洪鐘ノ如ク。人チシテ畏服セシム。○多力之士 神祇伯美濃。守良近。多力無比ナリ。嘗テ酔フテ乘車ス。同車ノ者ニ戯レテ曰ク。我レ能ク此牛チシテ行カザラシメント。乃チ牀ニ據テ氣チ閉テ坐ス。牛努力スレテ前ムヲチ得ズ「泉親衡。朝伊奈義秀。亦多力非凡。人ノ知ル所也。

○短視者 松崎懷松翁甚ダ短視。一日、諸生ノ爲メニ書チ講シ。講、中止シ。翁、喫烟セント欲シ。烟管チ執テ將ニ火チ傳ヘントス。會マ家猫、其側ニ蹲踞ス。翁、知ラズ。誤テ以テ烟盆ト爲シ。管首、其眼チ摩ス。猫駭テ踊躍ス。翁亦吃驚シテ卻坐ス。

○鄙鈍之人 王方慶。體質鄙陋。言語魯鈍。張元一之チ疲凍蠅ト云。○眇者 唐ノ李克用。一目眇ス。人呼テ獨眼龍ト云フ「平忠盛亦一目眇ス。君ニ寵任セラル、チ猜ミ。人之チ酢瓮ト云フ。酢瓮ト眇。邦音

渠亦人兒語惻然。胼胝此際最堪憐。雪郊尋路隨驢後。霜曉開門趁狗先。水結長鬚汲泉夕。風吹禿髮迭窮天。防寒瓢酒分餘瀝。豈可終朝勞汝肩。

寒婢 賴山陽
破屋猶從舊主人。履霜赤脚太酸辛。景忙寧暇眉成繭。水凍無論手欲龜。早起懶梳遭雪沒。遲眠補綻與燈親。註詩鄭叟還呵筆。何忍泥中肆怒瞋。

相通ズレハ也」山本勘助。文武ノ才幹有リ。唯ダ其眇目ニ容貌ノ野卑ナルヲ以テ。仕テ今川氏ニ干メテ斥ケラル」

○情容者 阿波侯ノ儒官那波魯堂。資性疎脫。絶テ禮容無シ。夏日、几ニ對スル。袒裼裸体。客來ルモ改メズ。居常木規顔張。園門之内ニ至ルマデ。更ニ正經ナシ。土井贅牙。亦タ禮容ヲ缺ク。事下ニ載ス

○鼻水ト。たらしたりとて何故笑ふ。我に工夫の有故にこそ 唐ノ高僧懶瓚、衡山ニ居ル。徳宗、人ヲ遣ハシテ之ヲ召ス。寒涕、肩ニ垂ル。使者見ルニ堪ヘズ之ヲ笑ヒ。且ツ之ヲ拭キ去ランヲ勸ム。瓚曰ク。我ニ工夫スル所有レハ也。豈俗人ノ爲ニ之ヲ拭ンヤト。

○無頓着者 醫師垢道庵ハ何許ノ人ナルヲ知ラズ。江戸ニ住ス。資性極メテ質素。出入寢起惟一衣。故ヲ以テ垢弊綻裂。而ノ道庵願ミズ。且ツ其剃ルハ罕ナルヲ以テ。頭ハ栗殻ノ如ク。洗浴動モスレバ又時月ヲ逾エ。一タヒ皮膚ヲ搔ケハ塵垢、爪ニ滿チ。其汚穢云フ

可カラズ。人因テ垢道庵ト曰フ。道庵之ヲ聞キ。笑テ曰ク善ヤト。姓モト垢ニ非レバ。此レヨリテ自ラ垢道庵ト云フ。

○無遠慮に。虱ト捫つて話する。晋ノ王猛、字ハ略景。稠儻ニシテ大志有リ。褐ヲ被シテ桓温ニ謁シ。虱ヲ捫ツテ而シテ當世ノ務ヲ談ズ。旁ヲ人無キ若シ。

○金華ノ不羈 平野金華。服官ノ後猶ホ縱任。拘ハラズ。侯ノ家嘗テ令ヲ布テ曰ク。佳節、君ニ見ユル者ハ。宜シク新衣ヲ用ユベシ。垢衣ハ嚴禁スト。余華乃チ故ヲニ其妻ノ衣ヲ著テ而シテ出ツ。吏怪ンテ之ヲ尤ム。金華從容トシテ曰ク。薄祿ノ小臣。貧ニシテ新衣ヲ給スル能ハズ。然レモ令、犯ス可カラズ。幸ニシテ荆婦ニ一衣ノ稍華ナル有リ。臣以テ罪戾ヲ免ル、一ヲ得ルト爲ス也。故ニ之ヲ著クト。君侯之ヲ聞キ。即チ增祿ノ恩命有リ。

○竹溪ノ執強 三浦竹溪。恒ニ執強ノ言ヲ爲ス。始テ謁見スル者有レ

蕭相 高樹 程
英風猶想人關初。相國功勳世莫知。猶恨未離力筆吏。只收圖籍不收書。

李斯 植村尚洲
焚書奏羅又坑儒。民未爲愚先自愚。種樹方能傳世上。自家難護本根枯。

桓温 王廷魁
十萬雄師擁入秦。可兒才略自超倫。關中漫說無豪傑。失却當前捫蝨

人。

農桑二 朱繼方

裏飯驅兒侯暖耕。墜泥滑々不堪行。如何說得農家苦。雨笠風簑過一生。

婦媪夫耕日向長。確聲嗚咽宿春糧。尋思一飯何時飽。秧種青々麥未黃。

田園雜詠

范成大

晝出耘苗夜績麻。村莊兒女各當家。童孫未解供耕織。也傍桑陰學種瓜。

小婦連宵上箇機。大者

ハ則チ曰ク。事有レハ來レ。事無レハ必ズ來ル可カラズ。又其言辭ハ。必ズ款チ吐ク可シ。飾ル可カラズト。

○野人 漢ノ楊惲、孫會宗ニ與フル書ニ曰ク。田家風味。歲時伏臘。酒自勞。酒后耳熱。仰天拊缶。而呼鳴之ト。

○貴公子 北條氏政。嘗テ父氏康ニ從フテ上野ヲ略シ。信立ト兵ヲ合シテ而ノ軍ス。時ニ麥ヲ刈テ軍前ヲ過グル者有リ。氏政之ヲ見。問フテ而ノ其麥タルヲ聞テ曰ク。盍ソ炊テ以テ賓ニ供セザルト。信立晒テ曰ク。大國ノ公子ナル哉。麥ノ刈リタルマ、ニテハ飯ト爲ラザルヲ知ラズト。

○大舜 大舜生レテ聰明。道德純正。堯帝、妻スニ二女ヲ以テシ。之ヲ畎畝ノ中ヨリ擢。用テ以テ位ヲ讓ル。舜ノ歷山ニ耕スヤ。民皆畔ヲ讓リ。雷澤ニ漁スルヤ。人皆、居ヲ讓リ。居ル所、聚ヲ成シ。二年ニシテ邑ヲ成シ。三年ニシテ都ヲ成ス。

催稅急於飛。今年幸甚蠶桑。熟留得黃絲織夏衣。

春日田園

中村淡水

蠶養新蠶夫下種。採桑期接耦耕期。小童也有閑公事。盡日秋田逐雀兒。

野老曝背 李 頎

百歲老翁不種田。惟知曝背樂殘年。有時捫蝨獨搔首。目送歸鴻籬下眠。

農家秋晚

石川竹厓

演戲村々托賽。神野裝一變競時。新窮鄉見慣

○房玄齡 唐ノ房玄齡、太宗ヲ佐ケテ天下ヲ定メ。相位ニ在ル。卅二年。事ヲ未萌ニ治ムルヲ以テ。迹ヲ尋ヌ可キ無シ。號シテ賢相ト爲ス。

○賢察如狂 明ノ劉基。幼ヨリシテ聰明、人ニ絶シ。凡ソ天文地理兵法性理ノ諸書。一タヒ目ヲ過グレハ卽チ其要ヲ洞識ス。頗ル大志有リ。嘗テ西湖ニ遊ブ。異雲有リ西北ニ起ル。同遊者皆以テ慶雲ト爲シ。將ニ韻ヲ分ツテ詩ヲ賦セントス。基獨リ縱飲、顧ミズノ曰ク。此レ天子ノ氣也。應ハ金陵ニ在リ。十年ノ後必ズ王者興ル有リ。我當ニ之ヲ輔クベシト。時ニ元、猶ホ盛。皆大ニ驚テ以テ狂ト爲ス。後果シテ基ノ言ノ如ク。明起リ。基其元勳タリ。

○今ノ人は。外觀ハ強く見せれども。内ハ中々此と反對 橋本左内ハ風姿纖妍。嫵々楚々タル一美壯者也。然レ其志ノ大ナル。其氣ノ壯ナル。學識ハ和漢洋ヲ兼テ。年未ダ二十ナラズ。而シテ既ニ大

昇平象。誰問市樓多醉人。

暮秋山家

貫名海屋

南潤隨猿兒拾栗。西疇趁雀婦收熟。夾溪竹樹搖煙火。風水聲中聞夜春。

父子行 孟賓于

錦衣紅奪彩霞明。侵曉春遊向野庭。不識農夫辛苦力。驕驄腸爛麥青青。

全 劉廷芝

天津橋下陽春水。天津橋上繁華子。馬聲迴合青雲外。人影搖動綠波裏。綠波清迥玉爲砂。青

名ヲ海内ニ馳セ。文武ノ材名高キ川路聖謨ヲシテ。一見恍惚トノ歎服セシメ。西郷隆盛ヲノ。一語シテ而ノ期若推讓セシム。平野二郎國臣。身體長瘦。其面白ク。其額高ク。眉目清秀。温雅窈窕。而シテ其氣其操。確固動ス可カラズ。一日西郷隆盛ト國事ヲ談シ。議合ハズシテ相憤爭ス。隆盛ノ人ト爲リ。氣颯凜々。威風堂々。國臣毫モ慮セズ。直ナニ鐵扇ヲ執テ之ヲ打ツ。

○泥の中にも蓮有り。塵芥の中にも寶とか。人も見か に寄らぬもの。平氏擅浦ニ敗亡シ。宗盛擒セラレテ京ニ入り。觀ル者喧擾ス。厲數人有リ。亦立テ之ヲ見ル。其一人曰ク。是レ所謂、厲、王ヲ憐ムナリト。一人曰ク。何ツヤ。曰ク。彼ハ平族第一ノ貴人。位高ク望重シ。而ルニ怯ニノ一族ト死スル能ハズ。苟モ偷生、囚ニ就ク。是レ恥ヲ知ラザルノ甚シキ者。固ヨリ吾輩ニ若カズト。

○山本勘助 山本勘助ハ參河ノ人。眇目痿躄。而ノ兵法ニ達シ。神

雲離披錦作霞。可憐楊柳傷心樹。可憐桃李斷腸花。此日遨遊邀美女。

此時歌舞入娼家。々々美女鬱金香。飛去飛來公子傍。的々朱簾白日映。娥々玉顏紅粉楓。花際徘徊雙蛺蝶。池邊顧步兩鴛鴦。傾國傾城漢武帝。爲雲爲雨楚襄王。古來容光入所羨。况復

今日遙相見。願作輕羅著細腰。願爲明鏡分嬌面。與君相向轉相親。與君雙棲共一身。願作貞松千載古。誰論芳權一朝新。百年同謝西山日。千秋万古北邱塵。

算鬼出測ル可カラズ。信玄一昭シテ大ニ悦ビ。即日二百貫ノ邑ヲ以テ之ヲ祿シ。又、名ヲ晴行ト賜フテ之ヲ寵稱ス。

○氣の毒や。初に之と知らざりしこと 朱買臣ガ妻。買臣ノ貧ナルヲ厭フテ強テ辭シ去ル。後、買臣會稽ノ守ト爲ル。妻大ニ悔ニ且羞テ。自ラ經レテ而ノ死ス。後人其墓ニ題シテ云フ。青草湖邊、一故近。千年埋骨不埋羞。叮嚀寄語人間婦。自古糟糠合到頭ト。

○昨日の淵も今日は瀬と。變るも早き世の中なれば。人接待ふに必ずと。侮り粗略にする勿れ。忍坂ノ大中姫。初、微ニシテ母ニ隨ツテ家ニ在リ。一日苑中ニ遊ブ。鬪鶏ノ國造某。會マ馬ニ乘テ其傍ヲ過ギ。籬ヲ窺フテ姫ヲ呼ビ。不遜ノ辭ヲ以テ蘭ニ莖ヲ乞フ。後、姫、允恭帝ノ皇后ト爲ル。某驚悞。叩頭シテ不敬ヲ謝ス。

○氣と注よ。後の悔は先た、ぬ 仁賢帝ハ顯宗帝ノ皇兄也。顯宗ニ讓リテ未ダ大位ニ登ラザルノ時。一日顯宗ト宴シ。將ニ瓜ヲ喫セン

少年行 吳象之
承恩借獵小平津。使氣
常遊中貴人。一擲千金
潭是騰。家無四壁不知
貧。

夏山風雨圖 田中芥坡

群巒雨暗失崢嶸。紫電
衝雲辟靈蟲。道士眠醒
石壇上。聞爲下界小兒
聲。

渡湘江 杜審言
暹日園林悲昔遊。今春
花鳥作邊愁。獨憐亭國
人南竄。不似湘江水北
流。

春思 賈至
艸色青青柳色黃。桃花

歷亂李花香。春風不爲
吹愁去。春日偏能惹恨
長。

本能寺 賴山陽
本能寺。溝幾尺。我射大
事在此夕。何粽在手併
離噏。四簷梅雨天如墨。
老坂西去備中道。揚鞭
東指天猶早。我敵正在
本能寺。敵在備中汝能
備。

君子有所思行 高山菊潭
鳳闕雲中起。龍樓突萬
尋。或纏珠與玉。或雕銀
與金。或以酒爲池。或以
肉爲林。酒淫或選色。歌
謠或陳音。朝華不待夕。

トス。顯宗ノ皇后難波ノ小野ノ王。坐作無禮。立チナガラ瓜ヲ割キ。又
酒ヲ酌テ立チナガラ仁賢ヲ呼フ。仁賢、位ニ即クニ及ンデ。大ニ不
敬ヲ恐レ。明年遂ニ自殺ス。

○表面にては。人乃心は知れぬもの。漢ノ王莽。幼ニシテ恭儉、學ヲ勤
メ。外ハ英俊ニ交ハリ。内ハ諸父ニ事フ。後、漢ノ政ヲ得ルヤ。遂ニ
帝ヲ弑シテ位ヲ算フ。唐ノ義府。容貌温恭。人ト嬉怡ス。而シテ狡
險忌克。人謂フ。義府ノ笑中、刀有リ。柔ニシテ而シテ害ヲ物スト。
○姦蠱 唐ノ李林甫。狡數多シ。深ク官々及ビ妃嬪ニ結ビ。上ノ動
靜ヲ伺ヒ。迎合シテ以テ寵ヲ固フシ。言路ヲ杜絶シ。聰明ヲ掩蔽
ス。嘗テ諸ノ御史ニ語テ曰ク。諸君、伏ニ立ツ馬ヲ見ズヤ。一タ
ビ鳴ハ鞭チ斥ケ去ラルト。賢ヲ妬ミ能ク嫉ミ。己ニ勝ルヲ排抑シ。
柔佞ニシテ陰險。人以テ口ニ密有リ。而テ腹ニ劍有リト爲ス。安祿山
亦柔巧善ク人ニ事フ。帝ノ近臣至レバ。必ズ厚ク賂フテ以テ歡

心ヲ買フ。林用、多ク怨ヲ招キタルヲ以テ。人ノ己ヲ害センヲ慮リ
。毎夕、床ヲ易テ而シテ寢ヌ。家人モ其處ヲ知ル莫シ。
○謀反人 明智光秀ノ將ニ信長ヲ弑サントスルヤ。信長、本能寺ニ在
リ。光秀、愛宕山祠ニ謁シ。闔ヲ枯ル一再三。其夜祠下ニ宿ス。寢レ
ル而シテ眠ラズ。數ハ歎聲ヲ發ス。明日、西坊ニ會シテ連歌ヲ爲ス。或
ヒト粽ヲ供フ。光秀、苞ヲ去ラズノ之ヲ食ヒ。卒然、傍人ニ問フテ曰
ク。本能寺ノ隍、深サ幾尺ト。既ニノ龜山ニ歸リ。遂ニ襲フテ信長ヲ
弑ス。

○有爲之士 赤穂ノ遺臣大石良雄。主ノ讎ヲ報ゼント欲シ。故ラニ遊
蕩、故主ヲ忘ル、ノ態ヲ爲シ。酒ニ醜シ色ニ溺レ。亡君ノ忌日ニ魚
ヲ食フ。日野ノ俊基。後醍醐帝ヲ佐ケテ密ニ北條氏ヲ圖ル。會マ北
嶺ノ僧徒。上疏シテ事ヲ闕ニ訟フ。帝俊基ヲシテ之ヲ讀マシム。
俊基僞リ誤リテ楞ノ字ヲ讀テ慢ト云フ。聞ク者皆笑フ。俊基乃曰

夕歡不到晨。月滿則有
虧。年過不復新。蟻壤壞
大堤。溜穴傾高峯。貴盛
多隕歇。珍寶動爲塵。所
以古君子。早防幾微心。

ク。我レ甚ダ之ヲ愧ツト。門チ杜テ微服シ諸州ヲ巡行シ。天下ノ地
理ヲ明ニシ以テ討伐ノ計ヲ爲ス。

○伏獵侍郎 唐ノ戸部侍郎、蕭靈、字ヲ知ラズ。麗俊ト書ヲ讀ミ。伏臘
ヲ誤ツテ伏獵ト爲ス。俊曰ク。省中ニシテ而シテ伏獵侍郎ナル者有リト
。靈因テ出サレテ刺史ト爲ル。

○晋ノ王湛 晋ノ王湛、不顯ノ才有リ。人皆以テ癡ト爲ス。兄ノ子、濟
亦タ之ヲ輕ンズ。湛、周易ヲ講ズルヲ聞クニ及ビ。乃チ其學識ヲ驚
歎シ。父ニ白シテ曰ク。叔ハ是レ濟以上ノ人ト。武帝嘗テ濟ヲ見テ
問テ曰ク。卿ガ癡叔死スルヤ否ヤト。曰ク。臣ガ叔癡ナラズト。因テ
具サコ帝ニ聞ス。帝擢テ之ヲ用ユ。

○周公誡子 周公、伯禽ヲ誡メテ曰ク。我ハ文王ノ子武王ノ弟。今
王ノ叔父也。然レレ猶ホ一沐ニ三タビ髮ヲ握リ。一飯ニ三タビ哺
ヲ吐キ。起テ以テ士ヲ侍ツ。子魯ニ之カハ。慎テ國ヲ以テ人ニ驕ル
母レト。

○西山焚文稿 西山健甫、西山ト號ス。年二十八。木下順庵ニ從學シ
祇礪切磨。居ルコト僅ニ一年餘ニシテ。而シテ才藻富贍。學術大ニ進ミ。其
鴻文鉅藻。門下、能ク及ブ者莫シ。而シテ謙讓自ラ居リ。常ニ曰ク。我
文章ノ若キ何ゾ之ヲ身後ニ傳フルコト足ント。死ニ臨ミテ僕ニ命ジ。
其文稿數卷ヲ焚ク。時ニ年卅一。

○大丈夫志專經世。愧爲雕蟲篆刻徒。荒川天敬ハ山城ノ人ナリ。人
ト爲リ明敏豁達。幼ニシテ仁齋ニ學ビ。嶄然頭角ヲ顯ハシ。夙ニ千
里駒ノ稱有リ。又豪邁不群ニシテ。講業ノ暇、吾邦ノ地理ヲ研究シ。
城堡砦塞ノ所在ヲ諸記シ。詳ニ其道里ノ遠近ヲ知ル。以謂ラク。士
若シ此ニ精シカラズンバ。以テ戰陣ノ用。攻守ノ法ヲ成スニ足ラズ
ト。

○一條兼良 一條兼良ハ關白經嗣ノ第二子也。姓ハ藤原氏。官、累

鎮西八郎歌 賴山陽

兩日爭夫天無光。吾射
一日墮扶桑。誰製吾肘
不得發。黑雲厭城劍折
鏃。堂々源家第八郎。射

可凌羿猿臂長。桀狗吠
堯豈得已。猶勝伯也學
豺狼。琉球彈丸不足當。
吾大羽箭。聊且才取救
死亡。蠻酋納女留將種。
熊羆入夢啼英々。膂力
類父好身手。誅賊有國
眞天王。賴生南遊薩山
陽。偶與蠻客同夜航。爲
語大廟祀始祖。春諦秋
嘗簇冠裳。憶公一官唾
不顧。絕海雲浪自龍驤。
縱使公助乃姪起。何異
十郎自郎當。雞口牛後
公所擇。一鏑破得南天
荒。卻有姪孫周封疆。隔
海魯衛並永昌。一宗慶
澤何洋溢。非緣源泉分

遷シテ大政大臣ニ至ル。因テ自ラ謂フ。我レ營公ニ勝ル者三有リ。
一ニハ攝家タリ。二ニハ太政大臣爲リ。三ニハ延喜以後ノ事ヲ諳
ンズト。人有リ。嘗テ之ヲ招ク。其人、床頭ニ菅公ノ像ヲ掛ク。兼良
悦ハズシテ曰ク。奚ツ彼ヲ我席ノ上ニ置クヤト。
○錦城負才 太田錦城。才ヲ負ヒ一世ヲ睥睨シ。每ニ徂徠春臺等ヲ
罵テ曰ク。彼輩ガ經テ説ク。小兒ト何ツ異ナラン。文盲笑フ可シ
ト。
○興主 源賴朝、石橋山ニ敗レ。逃ゲテ上總ニ至ルヤ。兵漸ク聚ル
ト雖モ。勢猶ホ微々トノ振ハズ。時ニ本國ノ介、平ノ弘常。嚮ニ賴朝ノ
招ニ應ゼザリシヲ悔ヒ。萬餘騎ヲ統シテ幕ニ詣テ謁ヲ請フ。賴朝許
サズ。土肥實平ヲシテ其邁キヲ請メシメ。且ツ曰ク。姑ラク後軍ニ
在テ吾指麾ヲ待テト。弘常退テ驚歎シ。人ニ謂テ曰ク。公ハ敗後ニ
シテ兵勢微ナリ。我今万餘騎ヲ率テ至ル。凡庸人ノ若キハ。必ズ當

天潢。唯恨封冊由殊俗。
使公有知瞋眼張。作歌
屬客々已睡。女牛低地
海茫茫。

伯夷叔齊

宗 无

干戈爰及父君間。叩馬
難令木主還。若向使會
食周粟。千年誰說首陽
山。

八幡公

賴山陽

結髮從軍弓箭雄。八州
草木識威風。白旗不動
兵營靜。立馬邊城看亂
鴻。

咏史 上杉氏

コ咄々喜ビ迎フベシ。而ノ公ハ則チ然ラズ。他日必ズ天下ノ大將軍
ト爲ラント。明ノ太祖。賊帥陳桡先ヲ擒ニス。桡先佯ハリ降り。私
カニ圖ル所有リ。太祖其謀ヲ聞キ。召シテ之ニ語ツテ曰ク。人各、心
有リ。我ニ從フモ彼ニ從フモ。唯ダ汝ノ意ノマ、ト。之ヲ縱ツ。
○謝枋得 宋ノ遺臣謝枋得。天資嚴厲。雅ヨリ奇氣ヲ負ヒ。風岸孤消。
世ト軒輊スル能ハズ。樂毅申包胥張良諸葛亮ノ事ヲ論ズル毎ニ。千
古ノ憤有ル者ノ若シ。而ノ世教ヲ植テ民彝ヲ立ツルヲ以テ任ト爲
シ。富貴貧賤。一モ其中ニ動カズ。

○田村磨 正三位大納言兼右近衛大將坂上田村磨ハ。身ノ長五尺八
寸。智仁多力。目ハ鷹隼ノ如ク。鬚ハ金線ノ如シ。平居、談笑スレハ
老幼親ミ押レ。目ヲ怒ラシテ惡視スレハ猛獸モ懼伏ス。

○新井白石 新井白石。生レナガラニ而シテ岐痢聰慧。三歳ニシテ
家ヲ寫シ。六歳ニシテ書ヲ誦ス。既ニ長ノ。器資宏偉。才、經綸ヲ負ヒ。

賴山陽

不怪兵鋒獨出群。夙將
輜略代羶葷。碧蹄蹂躪
八州草。白羽指揮三越
雲。橫梁繁霜秋滿陣。銜
枚大霧曉藏軍。稜々俠
骨高千古。老賊齊名長
惜君。

洽聞多識。和漢古今ノ典故ニ通曉ス。

○江匡房 大江匡房。幼ニ穎悟。八歳ニシテ能ク史漢ヲ讀ミ。才學
高深。博識無双ト稱セラル。薨ズルニ及ンテ。中納宗忠歎惜シテ曰
ク。斯人八葉儒家。三世侍讀。朝之樞要。文之燈燭也。今也逝矣。國家
失良臣。天下以明鏡ト。

○中江藤樹 中江藤樹。篤學修行ヲ以テ。名聲、海内ニ震ヒ。天下稱ノ
テ近江聖人ト曰フ。其郷人ノ如キハ。皆其徳ニ慕シ、一人トシテ義方
ニ嚮ハザル無ク。又一人トシテ之ヲ敬慕愛仰セサルナク。其隻言片訓
モ。必ズ謹ンテ之ヲ守ル。其徳望ノ大ナル如此。

○孔子 禹域歴代、孔子ヲ推尊セザル莫ク。而シテ其推尊、元ヲ以
テ最ナリトス。其制ニ曰ク。先孔子而聖者。非孔子無以鳴。後孔子而
聖者。非孔子無以法。所謂祖述堯舜。憲章文武。儀範百世。師表万世
者也。可加大成至聖文宣王。遣使闕里。祀以太牢。於戲父子之親。君

臣之義。永爲聖教之遺。天地之大。日月之明。奚罄聖言之妙ト。

楠公基下作

口羽真順

前狼後虎事紛紜。勞戰
心知難策勳。全族殺身
扶正氣。七生存憾掃妖
氛。威靈永護南山月。魂
魄空迷北闕雲。讀史多
年燈下淚。卽今來弔灑
碑文。

雷萬春基

范成大

九隕元身不隕名。言々
千載氣如生。欲知忠信
行蠻貌。過墓胡兒下馬
行。

軍城早秋

嚴武

○楠廷尉正成公 楠正成公。忠義絶倫、才智無双。生キテハ時人ニ欽
仰セラレ。死シテハ万世ニ愛慕瞻仰セララル。其將ニ自殺セントスル
ヤ。敵魁之ヲ止メテ道ヲ開カント請ヒ。其既ニ死スルヤ。天下ノ義
士皆悲痛慟哭シ。天子泣テ其言ヲ用サリシヲ悔ヒテ追悼已マズ。
敵人ニ至ルマデ。亦皆嗟嘆之ヲ久フシ。相吊シテ涕ヲ出ス。

○董仲舒 董仲舒ノ墳ハ長安ニ在リ。人其徳ヲ思ヘ。過グル者皆馬ヲ
下ル。因テ之ヲ下馬陵ト謂フ。蘇詩ニ云フ。下馬來尋董相墳ト。

○劉弘 劉弘ハ晋ノ人。荊州ノ牧ト爲ル。手書ヲ發スル毎ニ。叮嚀款
曲。人皆感悅ノ曰ク。得劉公一手書。賢于十部從事。

○王導 晋ノ南渡スルヤ。綱維未ダ舉ラズ。温嶠以テ憂ト爲ス。王導
ヲ見テ之ト共ニ談笑スルニ及ンテ曰ク。江左自ラ夷吾有リ。吾レ
復々何ツ憂ヘント。導ヲ夷吾ニ比セシナリ。士大吏是ニ由テ皆

昨夜秋風入漢關。朔雲邊月滿西山。更催飛將追驕虜。莫遣沙場匹馬還。

讀老子 白居易
言者不知知者默。此語吾聞於老君。若道老君是知者。緣何自著五千文。

武田信玄

中島亮平

天下英雄有使君。君軍好可敵吾軍。掌中摩扇

依然在。一舉堪排越峽雲。

題那波利翁像

佐久間象山

何國何代無英雄。平生欽慕波利翁。邇邇來杜門讀遺傳。匆匆不知年歲窮。撫劍仰天空慨憤。世人那得察吾衷。如今邊警日復月。戰船來去海西東。外蕃學藝老且巧。我獨遊戲等孩童。守株未知師他長。矮舟誰能操元戎。嗟君原是一書生。苦學遂能長明聰。一朝照破當時弊。革弊除害民情從。旌旗所向如靡草。威信普加歐羅中。

導ノ風采ヲ想望ス。

○謝安 晋ノ元帝南渡ス。地、偏安ニ屬ス。時ニ謝安、重名有リ。時人曰ク。謝子不起。如蒼生何ト。

○老子 老子、青牛薄板車ニ乘リ。東ヨリ來ツテ函谷關ヲ度ル。關ノ令尹、喜、紫氣ヲ望テ老子ノ至ルヲ知リ。束帶シテ出テ之ヲ迎ヒ。弟子ノ禮ヲ執テ道德經及ヒ長生ノ術ヲ傳授セリト云フ。

○韓信 韓信、漢ヲ去ルヤ。蕭何自ラ追フテ之ヲ止メ。高祖ニ謂テ曰ク。信ハ希世ノ人傑。國士無双。大王ノ天下ヲ争フ。信ニ非レハ與ニ計ル可キ者ナシ。冀ハクハ擢テ大將トセヨト。

○信玄 信玄死ス。報至ル。謙信方ニ食ス。箸ヲ舍テ歎ノ曰ク。吾好敵手ヲ失フ。世復タ此英雄男子有ンヤト。潜然流涕スル者之ヲ久クス。

○劉紆。劉敞 劉孝標嘗テ稱ス。劉紆ハ超々脱俗。半天ノ朱霞ノ如ク。劉敞ハ矯々出塵。雪中ノ白鶴ノ如シ。皆儉歲ノ梁稷。寒年ノ織也。

○王羲之 晋ノ王羲之、深ク從叔敦及ヒ導ニ器トセラル。導嘗テ曰ク。汝ハ是レ吾家ノ佳子弟ト。

○龐統 蜀ノ龐統。少時往テ司馬德操ヲ見ル。德操、方ニ桑ヲ樹上ニ採ル。統ト談論シ。晝ヨリ夜ニ至ル。嘆稱シテ曰ク。南州ノ冠冕也。

○劉琦 宋ノ劉琦元。米ト順昌ニ戰フテ大ニ之ヲ破ル。虜、后チ又枵阜ニ戰フ。望見ノ大ニ驚テ曰ク。此順昌ノ旗幟也ト。即チ引去ル。

○隣人爲贈酒雞 晋ノ陶侃家貧。一日客至ル。酒肉ヲ以テ饗ス可キモノ、莫シ。隣人密カニ塙頭ヨリ濁醪隻雞ヲ贈ル。

○少年天子 唐ノ太宗。壽王ヲ以テ太子ト爲ス。百姓皆合手加額。歌呼相慶シテ曰ク。少年ノ天子也ト。

○縱有未曾有才學。不有操守處終は無用人。如亞夫眞男子之表 漢文

元主西征不足道。豊公北伐何得同。人生得失多失意。大雪翻手朔北風。帝王事業雖未終。收爲我將應有庸。世人心竅小於豆。離齷寧知英雄胸。自奮能成遠大計。自屈難樹廓清功。安得起君九原下。同謀戮力駈奸兇。終卷五洲版皇朝。々々永爲五洲宗。

出五稜廓

大鳥圭介

兵氣衰頹事既窮。翻然代衆殺斯身。獨羞一片男兒骨。不曝白沙青草中。

鳥江胡曾

爭帝圖王勢更傾。八千兵散楚歌聲。鳥江不是無船渡。耻向東吳再起兵。

帝ノ時。匈奴大ニ入寇ス。帝將帥ヲ遣ハシテ之ヲ防カシメ。自ラ軍ヲ勞シテ固上棘門ニ至リ。又、細柳ニ之ク。細柳ハ周亞夫ノ守ル處也。帝至ル。都尉曰ク。軍中ハ將軍ノ令ヲ聞ク。天子ノ詔ヲ聞カズト。帝乃チ使チシテ節ヲ特メ亞夫ニ詔セシム。亞夫乃チ壁門ヲ開カシメ。軍禮ヲ以テ見ユ。帝嘆シテ曰ク。規律整肅。其威德想望ス可シ。此レ眞ニ將軍。者上棘門ハ兒戲耳ト。

○張騫 漢ノ張騫、月氏ニ使ス。匈奴遮ツテ之ヲ留ムルヲ十餘歲。漢節ヲ秉テ失ハズ。

○何の面。有りてと云ふを男のな 項羽敗北シテ鳥江ニ到ル。亭長、舟ヲ藏シ之ニ勸メテ。江東小ナリト雖也。猶以テ爲ス有ルニ足ル。請フ速ニ此ヲ濟レト。羽曰ク。吾嘗テ率ヒシ所ノ江東、子弟三千人。今ヤ一人モ存ズル無ル。何ノ面目カ其父兄ヲ見ンヤト。肯テ濟ラズ。自刎シテ而ノ死ス。

○父母乃養ひとべき務あれば。惜のらぬ身と暫時ながらふ。元既ニ宋ヲ滅シ。其遺臣謝枋得ヲ徵ス。枋得方ニ母ノ喪ニ在リ。書チ其使臣程文海ニ遺テ曰ク。某嚮ニ死セザル以所ハ。九十三歳ノ母在ルヲ以テノミ。今也既ニ逝ク。某自今、人間ノ事ニ意無シ。亡國ノ大夫。與ニ存チ圖ル可カラズト。之ヲ辭ス。

○羊續 后漢ノ羊續字ハ旻祖。廬江ノ守ト爲リシキ。府丞、魚ヲ饒ル。受テ而ノ食セズ。之ヲ梁ニ懸ク。后、復進ム。乃チ前魚ヲ示ス。

○秦時償價 北條秦時、清廉潔白。將士、珍奇ヲ贈賄スレバ。便チ悅ハズ。曰ク。諸君ノ厚情ナル。將タ得難キヲ以テ贈ラル、一無ラン耶ト。盡シ其價ニ隨ツテ償チ出ス。

○陸景倩 唐ノ陸景倩、扶溝ノ丞ト爲ル。按察使、州縣ヲ覈シ。狀ヲ白シテ曰ク。某ハ強清。某ハ詐清。唯ダ景倩ハ眞清也ト。

○元德秀 唐ノ元德秀。魯山ノ令ト爲リ。其任滿ルヤ。笥ニ一練有ル

ノミ。柴車ニ駕シテ去ル。

○裴寬 晋ノ裴寬字ハ伯裕。官、參軍ニ至リ。清廉ニシテ苞直ヲ峻拒ス。卒スルニ及ビ。人ノ助ニ由テ僅ニ葬埋スルヲ得タリ。

○寇準 宋ノ羹準。顯貴ニ歷任セラル、四十餘年。而ノ田宅園邸無シ。魏野献ガ詩ニ云フ。有官居鼎鼐。無地起樓臺ト。

○徐勉 徐勉、吏部ト爲テ詮選ス。門人夜集ル。客ニ虞曇ナルモノ有リ。詹事ノ官ヲ求ム。勉、色ヲ正シテ曰ク。今夕ハ止マ風月ヲ談ズ可シ。宜シク公事ニ及ブベカラズト。時人其私無キニ服ス。

○陶母 陶侃母ノ。侃ガ獸魚鮮ヲ遺リシヲ還シテ曰ク。何ツ嫌ヲ避ケザル乎ヤト。時ニ侃、潯陽縣吏ト爲リ。魚梁ヲ監ス。

○鄭莊 漢ノ鄭當時、字ハ莊。任俠自ラ喜ブ。其椎轂ノ士及ビ官屬常ニ引テ以テ己ニ賢レリト爲シ。人ノ善言ヲ聞ケハ其人ヲ上座ニ進メ。惟后^{ラス}レン^トヲ之レ恐ル。山東ノ諸公。此ヲ以翁然鄭莊ヲ稱ス。

俠客

服部南郭

昔年燕趙報仇來。長說
主人心已灰。唯有笑談
多少客。酒酣傳飲鬪
杯。

全 長三洲

酒後悲歌霜月高。浮雲
富貴付兒曹。錦袍未洒
仇家血。愛惜腰間秋水
刀。

全 李天馥

年少悲歌客。秋原落日
情。快逢燕大俠。羞學魯
諸生。問世都難合。論交
每不平。懷中三尺鉄。風
雨夕常鳴。

晏嬰 高 啓

一裘身着久經年。祿米
分炊幾戶烟。盡說大夫
能養士。却於尼叟惜封
田。

○仁醫 垢道庵、醫術ニ精シ。富人、治ヲ請ヒハ茲ノ應セズ。貧困者ニ

ハ則チ竭蹶之ニ赴ク。性廉介仁慈。謝セザル者有ルモ毫モ意ニ介セズ。

○孝文儉約 漢ノ孝文帝。在位廿三年。宮室苑囿。車騎服御。毫モ增益スル所無シ。嘗テ露臺ヲ作ラント欲シ。匠ヲ召シテ之ヲ計ラシム。直百金。上曰ク。是レ中人十家ノ産也。何ツ臺ヲ以テ爲ント。平居、身ニ戈綿ヲ衣ル。

○如何に思ふ。親戚故舊ト救はずに。色と酒とに散財^{つか}ふ輩は。齊ノ晏子。名ハ嬰。字ハ平仲。節儉力行ヲ以テ齊ニ重ンゼラル。一狐裘ヲ以テ寒暑ヲ凌グ^ト三十年。豚肩ハ豆ヲ掩^{ナホ}ハズ。齊國ノ士待テ以テ火ヲ舉グル者七十餘家。

○借金^シト爲ても奢れる世の中に。北魏ノ李崇。家富メドモ常ニ糞糞ヲ食フ^レ唐ノ盧懷慎ハ。身顯榮ヲ極ム。而ノ檢節ニシテ奢ラズ。嘗テ

采蓮曲 白居易

菱葉紫波荷颺風。荷花
深處小船通。逢郎欲語
低頭笑。碧玉搔頭落水
中。

春 絲 森 春濤

蠶絲盡是陌頭桑。與妾
春愁不較長。好織輕衫
寄郎去。留將一半繡鴛
鴦。

古別離 孟 郊

欲別牽郎衣。郎今到何
處。不恨歸來遲。莫向臨
邛去。

江南行 張 潮

茨菰葉爛別西灣。蓮子
花開猶未還。妾夢不難
江上水。人傳郎在鳳凰

山。

讀小說

廣瀨淡窓

濯如春月柳。嬌似秋水
蓮。向君不敢語。背君淚
成泉。復關咫尺即千里。
懷中錦字憑誰傳。昨夜
燈花新報喜。無端邂逅
小神仙。青翰舟裡携吾
手。繡被香暖夢相牽。千
金一刻歡何極。双袂掩
面却潜然。明月雖明有
時缺。芳容似花幾日妍。
豈言斷袖非良意。或恐
分桃是惡緣。爲君更固
金蘭約。不比桑中契易
遷。請君勿惜頻來往。一
日不見如三年。

百四十四

疾痾有リ。宋座之ヲ候ス。時ニ食ヲ設ク。膳中在ル所。蒸豆兩器。菜
數杯ノミ。

○耳の穴。嘔痛からん詔諛ト。迷ひ信じて倨傲るもの 毛利元就嘗テ
左右ニ問フテ曰ク。吾レ前世ノ主ニ於テ。誰ニ比ス可キ。一儒士有
リ。對テマク。周ノ文武ニ比ス可シト。元就冷笑シテ曰ク。吾レ今ニ
シテ自ラ文武ニ如カザルヲ知ル也。文武ノ臣。豈汝ガ如キ面諛ノ從
有ンヤト。

○黃霸ノ明察 漢ノ黃霸。潁川ノ守ト爲ル。霸ノ吏ヲ遣ハス。必ズ人ヲ
ノ之ヲ伺察ス。嘗テ吏ヲ遣ハス。吏、道ニ食フキ。鳥、其肉ヲ櫻ム。既
ニノ歸ル。霸之ヲ勞シテ曰ク。甚シ。食ニ道ニ苦シム。鳥、其肉ヲ
盜ミタル爲メト。吏大ニ驚ク。

○重宗ノ公平 板倉重宗ノ訟ヲ聽ク。必ズ紙障ヲ隔テ。親シク茶ヲ
碾ク。人其故ヲ問フ。重宗答テ曰ク。抑モ聽訟ノ明暗ハ吾心ノ動靜

ニ由ル。碾茶以テ心ノ動靜ヲ見ル。心靜ナレバ則チ茶ノ落碾必ズ細
。動ケハ則チ粗。是吾碾茶スル所以也。人ノ面ニ溫良ナル者有リ。猛
惡ナル者有リ。人心ノ動キ易キ。面ニ由テ愛憎起ル。愛憎ハ枉判ノ本
ナリ。是レ紙障ヲ隔ツル所以也。隔ツレバ則チ愛憎生ゼズト。

○細川頼之 細川頼之、滑稽者數人ヲ擇ビ。削髮シテ大袴ヲ穿チ。長
刀ヲ佩ビテ府中ニ出入セシメ。將士ノ弄客ト爲ス。目ノ佞坊ト云フ
將士中、佞佞ナル者有レバ。呼テ有髮ノ佞坊ト云ヒ。以テ之ヲ辱シ
ム。士風因テ大ニ革マル。

○善も惡も。使ひ手次第惡も善。紀國屋文左衛門ノ圃養ヲ畜フヤ。
一ニ其異能ニ取ル。制行ノ可否ハ舍テ問ハズ。偷盜スル者ヲ上客ト
爲シ。好色飲酒。父母ヲ顧ミザル者之ニ次グ。文左皆厚資ヲモテ
之ヲ聘シ。其才ノ長ズル所ニ隨ツテ之ヲ任使シ。大ニ巨萬ノ富ヲ
得タリ。家ハ江戸八町堀。醫材ヲ業ト爲ス。齊ノ孟嘗君、客ヲ好ム。

百四十五

車遙々篇

傅元

車遙々兮馬洋洋。追思君兮不可忘。君安遊兮西入秦。願爲影兮隨君身。君在陰兮影不見。君依光兮妾所願。

邊庭四時怨

盧彌

春衣昨夜到榆關。故國煙花想已殘。少婦不知歸未得。朝々應上望夫山。盧龍塞外草初肥。雁乳平蕪曉不飛。鄉國近來音信斷。至今猶自著寒衣。

八月霜飛柳遍黃。蓬根吹斷雁南翔。隴頭流水關山月。泣上鼎堆望故卿。朔風吹雪透刀瘢。飲馬長城窟更寒。夜半火來知有敵。一時齊保賀蘭山。

征夫怨 王野

黃雲白草沒燕山。百戰空存兩鬢斑。不識征夫三十萬。幾人生入玉門關。

積中作 岑參

走馬西來欲到天。辭家見月兩回圓。今夜不知何處宿。平沙萬里絕人烟。

客ニ雞鳴狗盜ヲ爲ス者有リ。孟嘗君之ニ由テ秦ノ抑留ヲ免ル、トナ得タリ。

○瑞軒ノ經濟 河村瑞軒ハ東武ノ人。才、經濟ニ長シ。竹頭木屑敗鼓ノ皮等。凡ソ人ノ遺テ而ノ願ミザル所ノ者。皆拾フテ而ノ之ヲ蓄ヘ。有無貿通。混化シテ之ヲ用井。達々新様ヲ出ス。是ヲ以テ朽株廢材モ。一タビ瑞軒ノ手ヲ經レバ。則チ皆有要、用ユ可ク。忽ニシテ巨萬ノ富ヲ成ス。嘗テ市ニ至リ。廢戶ノ途ニ委スルヲ見テ曰ク。滿地皆金。取テ而ノ禁ズルヲ無ク。須ヒテ而ノ竭ルヲ無ク。風月ト其歸ヲ同フス。此レ我無盡藏ニ非ズヤト。笑テ之ヲ拾フ。

○五鹿充宗 漢ノ時、魯人五鹿充宗。梁丘ノ易ヲ爲ム。文帝、諸ノ易家ト講セシム。充宗、口ヲ啓ケハ諸儒能ク抗スル莫シ。朱雲ヲ見テ曰ク。若者有リ。帝召シ入レテ論難セシム。雲、連リニ五鹿ヲ論詰ス。諸儒乃チ語シテ曰ク。五鹿嶽々、朱雲折其角ト。

○鶴樓喜客 益田鶴樓ハ江戸ノ人。字ハ伯隣。已甚客ヲ喜ビ。來訪者晝夜相繼ギ。酒肉席ニ絶ル無ク。杯盤狼藉。鶴樓常ニ其間ニ坐起シ。露醉シテ以テ娛ト爲ス。

○愚公 大行王屋ノ二山。高サ萬仞。愚公九十九ニノ山ニ面ミテ居ル。惡ンテ而ノ將ニ之ヲ移サントス。或曰ク子老タリ。愚公曰ク。我死セバ子有リ。子又孫ヲ生ム。而ノ山、加増セズ何ニ苦ンテ而ノ平ナラザラント。

○瘦羊博士 漢ノ甄宇、博士ニ拜ラセル。例ニ。獵スル毎ニ博士ニ羊ヲ詔賜ス。時ニ祭酒博士議シテ羊ヲ殺シテ其肉ヲ分秤セント欲ス。宇之ヲ止メ。先ヅ自ラ羊ノ尤モ瘦タル者ヲ取ル。因テ此名有リ。

○五叛大夫 百里奚、五羊ノ皮ヲ以テ牛ヲ食ナヒ。后、秦ニ事フ因テ此名有リ。

○織簾先生 齊ノ沈麟士。簾ヲ織リ書ヲ讀ミ。手口輟メズ。人因テ

春女怨 朱 絳

獨坐紗窓刺繡通。紫荆花下啣黃鸝。欲知無限傷春意。盡在停針不語時。

女郎詞

胡氏慎容

相呼同伴到簾幃。偷看新來客是誰。又怨被入先瞥見。昨從絛扇隙中窺。

織簾先生ト曰フ。

○杯渡 杯渡、常ニ木杯ニ乗テ河ヲ渡ル。因テ此名有リ。本ト何如ナル姓名ナリシヲ知ラズ。梁ノ高價也。

○壺公 壺公ナル者ハ。其姓名ヲ知ラズ。藥ヲ賣テ一壺ヲ市肆ニ挂ク。日夕輒チ壺中ニ入ル。費長房之ヲ見。再拜酒脯ヲ奉ズ。乃チ與ニ俱ニ壺中ニ入ル。壺中ニ玉堂有リ。壺公云フ。此中天地悉ク備ハルト。

○晏子伴對 齊ノ景公問フ。東海ノ中ニ水有リ。赤シ。其中ニ棗二有リ。花^{ハナ}イテ而^ミ實^ミラズ。何ヅヤト。晏子對ヘテ曰ク。昔秦ノ穆公黃布ヲ以テ蒸棗ヲ裏^ツミ之ヲ水ニ投ズ。故ニ水赤シ。蒸棗ナリ。故ニ花イテ而^ミ實^ミラズト。公曰ク。吾伴リ問フナリ。晏子曰ク。故ニ亦伴テ對フト。

○南郭ノ濫吹 齊ノ宣王竽ヲ好ム。必ズ三百人齊シク吹カシム。南郭先生、竽ヲ解セズ。而^{シテ}三旦人ニ加ハツテ竽ヲ吹クヲ以テ祿ヲ

食ム。宣王薨シ。后王立ツ。曰ク。寡人竽ヲ好メ凡。一々ニ之ヲ吹クヲ欲スト。南郭乃チ逃ル。竽ハ大笙也。

○神人 昔姑射ノ山ニ神人有リ。五穀ヲ食ハズ。風ヲ吸ヒ露ヲ飲ム。

○癖 杜預云フ。王濟生癖有リ。和嶠、錢癖有リ。吾ニハ左傳癖有リ。

○人心憎惡愛善 王彭云フ。塗巷ノ小兒、古話ヲ説クヲ聽クヤ。劉玄德敗ルレバ則チ擗笏シテ涕ヲ出シ。曹操敗ルレバ則チ狂喜、快ト稱ス。

附 錄

○福祿壽兼全人 倚松庵江村專齋。技ヲ以テ豐太閤ノ知遇ヲ得。金帛ノ賜有リシヲ數次。下問ニ由テ修養ノ方ヲ陳ベテ後水尾上皇ノ感賞ヲ蒙リ。壽ヲ得ルヲ百歲。々々ト爲リシ歲。身、草莽ノ士ニシ。而^{シテ}敕有テ院參ヲ許サレ。鳩杖一。黃金一ヲ恩賜セラル。其福德ノ

圓滿ナル。子孫皆榮耀繁衍。東涯嘗テ其肖像ニ讚シテ曰ク。人生滿
百古來難。無青有休還更難。孫子蟬聯最難得一家獨自併三難ト。

○伊藤氏三珠樹 伊藤錦里。同胞三人。伯ハ乃千錦里。仲ハ北海。叔
ハ僑與。皆聲名一世ニ高ク。錦里ハ經藝ヲ以テ聞ヘ。北海ハ歌詩。僑
與ハ文章。博士佩蘭海公。稱シテ以テ伊藤氏ノ三珠樹ト爲ス。仁齋
ニ五子有リ。皆才學優長。世ニ稱シテ伊藤ノ五藏ト云フ。一人ノ知ル
所也。

○兄弟俱ニ敏才 后漢ノ韋康。字ハ元將。弟韋誕。字ハ仲將。俱ニ才敏。
孔融其父ニ與フル書ニ曰ク。意ハザリキ。双珠近ク老蚌ヨリ出ント
ハト。唐ノ劉正兄弟俱ニ茂才。世、兩驥ト號ス。唐ノ薛收。弟元敏。
族兄德音ト名ヲ齊フス。人號ノ河東ノ三鳳ト曰フ。

○子孫皆賢 晋ノ荀叔八子有リ。時人稱シテ八龍ト爲ス。唐ノ
杜如晦ノ孫元穎。々々ノ子審權。々々ノ子讓能。々々ノ子曉。五代
相繼テ皆、相ニ拜セラル。

○兄弟俱ニ美 唐ノ孟昶。弟頊ト並ビニ風姿美ナリ。時人之ヲ双珠ト
云フ。宋ノ王銓。風儀美ニシテ。弟錫ト名ヲ齊フス。人謂フ。銓錫
ノ二玉ハ玉昆金友ト。

○佳兒佳婦 晋ノ山濤。韓氏ヲ娶ル。人曰ク。佳兒佳婦。第第ノ對儷ナ
リト。

○美翁美婿 衛介。妻ノ父樂廣ト俱ニ美。人云フ。婦翁ハ氷清。女婿ハ
玉潤ナリト

海軍專務 上卷畢

明治廿四年五月十五日印刷
全廿四年五月十八日出版

(正價拾四錢也)
郵券代用一割増

東京市麹町區一番町四丁目
寄

版權所有

編輯兼發行

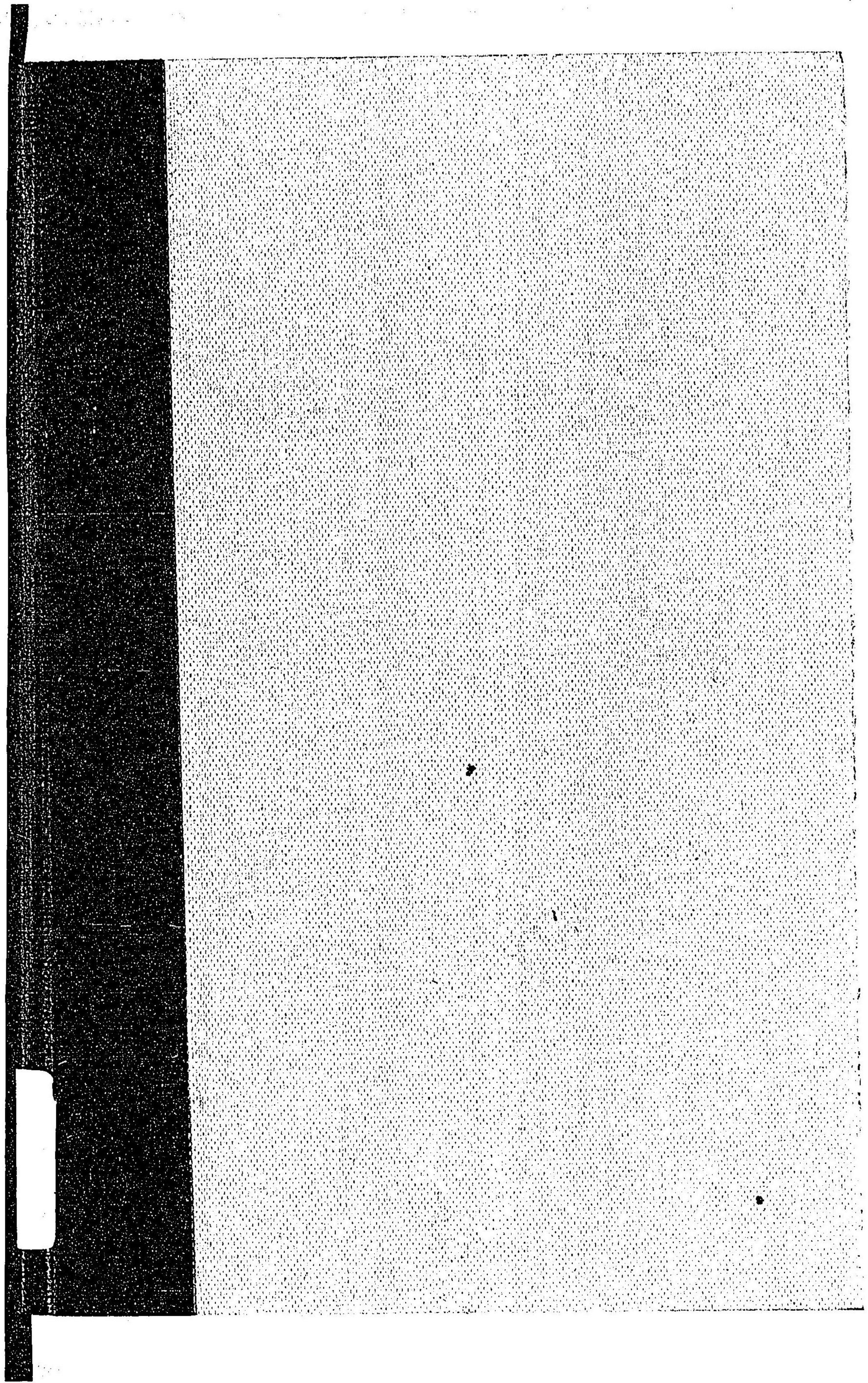
東京市本郷區湯島一丁目十三番地

印刷人 松本秋齋

東京市麹町區三番町廿番地

發行所 脩省書院

發賣所 東京市神田區裏神保町第一番地 上田屋支店
賣捌所 東京市下各雜誌店書林及各地方雜誌店及書林



特21

980

古志学
人録 故事海 上卷

国立国会図書館

101834-001-6

特21-980

故事海

古志 学人/著

上

M24

EAE-0138

